

回顧漫錄

尾崎行雄著

6 | 7 | 8 | 9 | 40 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 5 |

始



尾崎行雄著

回顧漫錄

岩波書店刊



20008

310
200



26398

目次

第一 死出の旅路

不詳な命名ではない積り(一)——墓標の製作(五)——歐米見學の目的(七)——明治大帝の遺業たる國際信義(八)——滿洲國の國際的價值(一〇)——賣國的行為の獎勵(一一)——ヘスチングの彈劾(一二)——軍紀の頹廢、君國の危殆(一四)——滿洲政策に關する參考書(三三)——ヨーロッパ合衆國(四〇)

第二 死活の岐れ目

列國の困窮狀態(四二)——水練を知らない溺者の跳き(四四)——政治的不安の増加(四六)——前回は君主制の破滅、次回は國家の滅亡(四九)——活きんと欲して死路を辿る事實(四九)——その原因(五〇)——世界組織進化の一端(五一)——列國政治家の迷夢覺醒(六二)——覺醒の程度如何(六三)——覺醒し難い原因、則ち世界難の本源(六四)——戰爭其物の大變化(六九)——戰爭の結果、國家及び人類の滅亡(七三)——人類は、元來馬鹿げたもの、其遺傳も悪い也——安全を軍備に求むる事の誤謬(七四)——愛國心の濫用(七五)——愛國心の由來と其利弊(七七)——列國の動靜一斑(八〇)——軍縮問題の前途(八二)——文化の進歩と國際裁判(八三)——小なる國際聯盟(八五)——強大國民と弱小國民の優劣(八六)——物資及び人類移動の自由(八九)

目次

219
255



26398

目次

第一 死出の旅路

不祥な命名ではない積り(一)——墓標の製作(五)——歐米見學の目的(七)——明治大帝の遺業たる國際信義(八)——滿洲國の國際的價值(一〇)——賣國的行爲の獎勵(一二)——ヘスチングの彈劾(一三)——軍紀の頹廢・君國の危殆(一四)——滿洲政策に關する參考書(二三)——ヨーロッパ合衆國(四〇)

第二 死活の岐れ目

列國の困窮状態(四二)——水練を知らない溺者の跳き(四三)——政治的不安の増加(四四)——前回は君主制の破滅、次回は國家の滅亡(四九)——活きんと欲して死路を辿る事實(四九)——その原因(五〇)——世界組織進化の一端(五八)——列國政治家の迷夢覺醒(六二)——覺醒の程度如何(六四)——覺醒し難い原因、則ち世界難の本源(六五)——戰爭其物の大變化(六九)——戰爭の結果、國家及び人類の滅亡(七三)——人類は、元來馬鹿げたもの、其遺傳も悪い(七三)——安全を軍備に求むる事の誤謬(七四)——愛國心の濫用(七六)——愛國心の由來と其利弊(七七)——列國の動靜一斑(八〇)——軍縮問題の前途(八二)——文化の進歩と國際裁判(八三)——小な國際聯盟(八五)——強大國民と弱小國民の優劣(八六)——物資及び人類移動の自由(八九)

目次

第三 世界的進展の最大要具……………九三

日本の文字及び言語(九三)——漢字廢止の必要(九三)——現在の事實を靜觀せよ(九三)——漢字廢止後何を採用すべきか(一〇〇)——假名とローマ字の優劣(一〇三)——土耳其の先例(一〇三)——日本語の整理改良(一〇三)——世界的發展の精神と道具(一二六)——少壯軍人と私の關係(一二三)——海外漫遊の一樂(一五〇)——超國家運動の必要(二四〇)——偉大なる國民性の養成(二五三)——世界聯邦の建設(二五五)——國家及び世界經濟の革新(二六六)——政治機關の改善(二九一)——相續制度の廢止及び改良(二〇四)

第四 昭和の第二維新……………二一九

更始一新の必要(二一九)——大和民族の誇り(三二〇)——日本帝國の地域、人口及び物資(三三〇)——移住及び賣買の自由(三四〇)——國家主義と國際主義(三五六)

第五 生存權の要求……………三三四

附錄 講演録

- 一 革新黨組織に際し予が政黨觀を述べて同志諸君の教へを請ふ……………三四
- 二 歐洲・支那情勢と日本の對策……………三五



死出の旅路

(昭和七年 英京に於て執筆)

不祥な命名ではない積り

こんな名を付けるのは、何だか不祥不吉のやうにも見えるが、私は悲觀的見地より、かく命名したのではない。我が日本は、天變地異が格外に多いから、何時生命を取られるかも知れない。其上に、有爲の人物を暗殺するのを、愛國的所業と誤解する所の熱狂者が澤山ある。明治以降だけでも刺客の手に斃れたものの中には、大村益次郎、廣澤貞臣、大久保利通、森有禮、星亨、伊藤博文、原敬、濱口雄幸、井上準之助、團琢磨、犬養毅等の諸君がある。何れも國家有用の偉材であつて、之を虐殺した爲に、國家にどれだけの大損害を與へたか知れない。幸にして絶命はしなかつたが、虐殺されかゝつたものの中には、岩倉具視、板垣退助、大隈重信、高田早苗等の諸君がある。此外にも暴動内亂等のため非命の死を遂げた者は、前原一誠、江藤新平、西郷隆盛、

桐野利秋等、數へ盡せぬほど多い。

王政維新以後に於ける帝國一流の人物中には、墨の上で老死したものより、非命の變死を遂げた者の方が多いかも知れない。故に苟も一流の公人たる自信あるものは、横死はもとより覺悟の前でなければならぬ。

また其上に、人口の割合には、地面が少いから、生きて行く事が、中々困難だ。また其上に、全國人民の多數が、歐米大國の眞似をして、國家主義や民族主義を高調して、自ら國境閉鎖の方針を取ると同時に、他國を刺激して、國境閉鎖の方針を執らしめてゐる。毎年七八十萬人づつ増加する人口を如何する積りか知らないが、兎に角満足には生活することの出来なくなるやうに自分の方から仕向けてゐる。螺螄の籠城!! 實以て不得策の至りであるが、現在では、事實上國策の一となつてゐる。何故

全世界の土地及び物資は、日光や空氣と同じく、人類全體の使用に供すべきものである。

と云ふ大義を提唱して、大和民族を救ふと同時に、全世界の人類を救ふべき方針を執らないのであらう乎。

これは此所に論ずるには、問題が餘り大きすぎるから、他章に譲る事にしようが、要するに我

等日本人は、他國人よりも、一層深く生活の道を考へなければならぬと同時に、又死の覺悟をもして置く必要がある。私が幼少の時、慈母より受けた第一の教訓は、

微笑ながら死ぬ

と云ふことであつた。私は此教訓を忘れないやうにする爲、

談笑死生間

と云ふ扁額を多年の間、書齋に掲げてゐた事もあつた。誠に好い教訓を與へてくれたと、今でも尙ほ慈母に感謝してゐる。

特に古稀以上の年齢に達した私にとつては、生よりも、死の機會が、一層多い筈だ。今日かうして居ても、いつ何時死ぬかも知れない。

明治二十三年の國會開設から、日清戰爭の頃、則ち政争の最も激烈であつた頃は、毎朝家を出るに方り、無事で歸れると豫期して出た事はなかつた。

今日は、其頃とは、時勢が大に違ふとは云ひながら、七十を越えた老軀を提げて、海外萬里の旅程に上るにあつては「死出の旅路」と思つてゐる方が、慥かなやうだ。現に先年私と同じ頃英國に漫遊した井上勝子爵の如きは、私に比すれば、頗る健康な人であつたが、英京に客死され

た。

これが命名の理由であつて、外に何等の理由もない。元來私は死をば強いて厭はないが、何故だか、病床で死ぬことはいやだ。生來極めて病身であつたから、死にかけた事は、二三度もあつた。現に昨年春（昭和六年）肺炎にかかつた時は、年齢が年齢だから、多分死ぬだらうと鑑定した人が多かつた。幾度死にかけて見ても、病床で死ぬ事は、矢張りいやだ。然らば「どうした死に方が好きか」と問はれると、少し困るが、實は出来る事なら、天下後世の教訓となるやうな死に方がしたいのだが、私としては過分の希望であるかも知れない。

天變地異のために、一と思ひに興衆と共に死ぬのも好いが、公人である以上は、それよりも刺客の手に斃れる方が好い。友人木堂兄が、首相官邸に於て撃殺されたとの電報を得た時、私は遺族に對しては、無限の同情を寄せたと同時に、他面に於ては、羨望の情に堪へなかつた。國士の死に方としては、立派なものだ。閣議の席上堂々として救國の大計を論ずるに方つて、撃殺せられたなら更に一層光彩を添へたであらう。が、世事はさう注文通りに行くものではない。先づあの邊で、満足するより外はなからう。

私は大隈内閣總辭職の時に、將來再び入閣しないことに決心したから、たとへ希望しても木堂と同様に官邸で横死する事は出来ない。もし、何者の熱狂漢か、私を殺すの必要を感じたなら、願くば私が議會の演壇に立つて、君國の大計を痛論しつゝある時に、實行して貰ひたいのだが、それは出来ない相談かも知れない。

特に老來既に従前の意氣を喪ひ、世間からは生かして置いても、毒にも藥にもならない人物と輕蔑されるやうになつては、頼んでも殺してくれるものはなからう。——決して頼む氣もないが——。さうすると、嫌ひな病死より外に、道はない。病死よりも天變地異で死ぬ方が好きさうだが、私一身のために之を招くわけにも參るまい。止むなくば、運を天に任せて、南船北馬、何時までも死出の旅路を彷徨ふべき乎。

墓標の製作

老齡の身を以て天涯地角を漂泊する以上は、何時死んでも差支ないやうに、墓標を造つて置く方が、好からうと考へた。それも世間普通の石塔や銅標では、面白くないから、其代りに第二維新の方針ともなるべき事項を列記して、之を墓標に代用しようと思へた。最初の豫定では昭和六年末に歸朝して、ゆつくり執筆する見込であつたが、米國到着早々滿洲事件が勃發し、私の豫定

計畫は、之がため根本から覆へされて終つた。

近來日本には、暗殺が流行するから、私の如き者でも、歸朝の上忌憚なく君國のために赤誠を吐露すれば、或は殺されるかも知れない。前途有爲の青少年の身を以て、捨てて置いても、やがて死ぬべき古稀以上の老人と、生命の交換をするのは、随分算盤に合はないやうに思はれるが、算盤などをはじいては、暗殺は出来ない。團氏や犬養氏などを虐殺したものであるのを見れば、私を虐殺するものも、あるかも知れない。先づあると思つて打算した方が、安全率が多い——私は何所までも打算的だ——。

右の打算よりして、私は暫く歸朝を延期し、英國と云ふ安全地帯に滞留して、墓標代りの意見書を作製することに決定した。うっかり歸朝して、未だ意見書即墓標が出来ない内に殺されると、所謂文章報國の實を擧げることも亦出来なくなるからだ。私に取つては、此意見書が、多分最後の御奉公となるのであらう。

國のため生命惜まぬ誠あらむ

我を刺すといふ人も貴し

これは今より十數年前に、軍部が各學校に軍人を派遣したところ、私は之に反對して、非難攻撃

した。然るに一少年が、私を暗殺せんと欲して、私の門前を徘徊してゐて、警察官に逮捕されたと聞き、私は警察署に赴いて、少年と面談したが、如何にも純粹無垢の若人のやうに感じたから、よく之を説諭すると同時に、よんで與へた拙詠である。

歐米見學の目的

今回の歐米見學の目的は、思想的、政治的、及び經濟的に、日本を救ふべき方法を研究すると同時に、列國の識者と會合して、民族主義や經濟戰爭を緩和し、以て軍備縮小、世界的平和及び繁昌回復等の根本策を研究するに在つた。然るに滿洲事件勃發のため、日本人たる私としては、右等の問題に就いて口を開くことが、頗る困難になつた。強ひて鐵面皮を裝うて、之を發議しても、對手が眞面目には聞いてくれないやうになつた。十八年前の世界戰爭は、セルヴィアの一角より起つたが、次回の世界戰爭は滿洲の一角より起るだらうと揣摩するものが、非常に多くなつた。

此時に方つて、平和政策の協定!! 固より困難ならざるを得ない。第二世界戰爭の危機を眼前に見ながら、民族主義の緩和、軍備の縮小、繁昌の回復!! 出来ない相談と速了抹殺するもの

多いのも、無理はなからう。

今や日本は、歐米多数の人士よりして、世界の禍根と認定されてゐる。それは認識不足のためだと誤解しても、今の世界には通用しない。當事者が豫め充分の認識材料を供給して置かないで、第三者の認識不足を咎めるのは、元來無理な注文である。若し其材料があるならば、遙々調査のために出張したリットン委員には、充分に之を提供すべき筈であつた。今からでも、まだ好い、全世界に向つて認識材料を提供すべきである。私は國家のため之を切望して止まない。

帝國政府は嘗に全世界に向つて認識材料を提供せざるのみならず、列國駐在の我が遣外使臣に對してすら、充分の認識材料を與へてゐない。故に彼等は、何れも帝國政府の眞意の在る所を知り兼ね、其日限りの辯護を爲して來た。従つて其言説は、動もすれば前後矛盾の破綻百出の憾みなきを得なかつた。滿洲國承認以後は、帝國政府の方針も、確定したものと見るべきであるが、之を經濟財政軍事等の上から觀察すれば、まだ幾多の問題が残つてゐる。

明治大帝の遺業たる國際信義

明治大帝陛下の御功業は、數へ盡せぬほど多いが、國際信義の確立は、慥かに其偉大なるものの一つであらう。私は昨年滿洲事件勃發以來、十一月末まで米國に滞在し、列國の官民各種の人物とも會見したが、彼等の帝國政府に對する信用は、實に驚くべきほど深厚であつた。隨時帝國政府の名に於て爲す所の聲明又は約言等の中には、到底實踐し難いものも可なりあつた。然し、私の會見した列國人は、何れも帝國政府の聲言を信用し「日本政府は、曾て一たびも其約束に違背した事はないから、今回も必ず之を履行するに相違ない」と言つてゐた。私は、彼等が、遠からず其信用を裏切られて、憤怨するだらうと惧れたが、彼等は少しも疑はなかつた。帝國政府が、國際上に有する此信用は、全く明治大帝四十餘年間の遺蹟であつて、其國家に與ふる利益の廣大なることは、辯ずるまでもない。然るに、昨秋以降に於ける帝國政府の聲明又は約言中には、其後變更若しくは不實行に終つたものが可なり多い。政府には、それ〴〵理由もあらうが、不幸にして其理由が、充分に説明されてゐない。縱へ説明しても、日本人以外には通用しないものが多い。現に日本最良者の多い英國にすら「日本は道德的無感覺者だ」などと放言するものが、段々増加するやうになつて來た。

此の如くして、明治大帝陛下が四十餘年間の御苦心に依つて、築き上げ給へる國際信義は既に破壊の端緒が開かれた。今にして、早く之を救正しなければ、日本は無信不義の劣等國と認定さ

れるに至るであらう。實に遺恨至極の次第である。

滿洲國の國際的價值

帝國政府は、滿洲國の出現を以て、一大段落と爲し、其以前の言責は、總て此新事實に依て、消滅せしめ、茲に全然局面を一變し、將來は滿洲國のみを對手として、滿洲問題を解決する意望であらうと思はれる。最少限度の條件を擧げて、それには、第一に、滿洲國は、在住人民多數の希望に依て、自主的な獨立したものでなければならず、第二には、獨立國家の組織及び資格を具備しなければならぬ。

滿洲在住三千餘萬人をして、自由投票を行はしめたら、其大多數は、滿洲國に反對するだらう。又日本の武力及び財力の援助がなければ、滿洲國は、恐らくは數ヶ月を待たずして、倒潰するだらう。此形勢は、十指の指す所、十目の見る所、何人も之を認識せざるを得ないであらう。

果して然らば、滿洲國は、世間一般に認定するが如く、日本の傀儡でこそあれ、決して獨立の國家ではない。これと締結したる條約を以て國際的價值あるものと爲すは、結局不可能の徒勞に過ぎない。

此見地に立つて、世界列國と對抗するには、既に失墜したる國際信義を幾んど皆無ならしむるに終るだらう。それでも成功すれば、多少の慰安となるが、到底成功の見込はない。一學して恥辱と損害を併せ招く。國家の不幸實に是よりは大なるはない。

賣國的行爲の獎勵

況んや滿洲國の要人なるものは、少數の除外例はあるべきも、大體に於て、利のために國を賣る所の不良人物に過ぎない。此賣國的人物を利用して、小刀細工を施すため、日本國は精神的にも、物質的にも、非常の損害を受けるのである。故に古の名君賢相は、時あつて賣國奴を利用するも、事終る後は、常に之を誅戮して、模範を天下後世に示してゐる。道理と事實の上に於ては、到底支持する事の不可能なる「民族自決」「新國家成立」と云ふが如き未熟なハイカラ的假聲を使ふよりも、迎も無理をする位なら、いつその事斷然滿洲を併合し、而して全世界に向つて、帝國生存の必要上（食料人口）より止むを得ず、此國策を遂行したる旨を聲明し、以て帝國の死活を世界の問題と爲す方が、男性的所業である。元來が無理なやり方であるから、何れにしても、列國多數の賛成を得る事は困難だらうが、寧ろ此方が、未熟なハイカラ的小刀細工よりも同情を

引き易いかと思はれる。

縦へ全世界の反對を受けて、討死する場合にも、賣國的人物の集合體たる滿洲國を援けて、之と心中するよりも、死心地shindochiが好からうではあるまい乎。

住む民の望みに依りて自決じけつしなど

ハイカラめける假色かりいろはよせ

帝國政府は、一方に於て思想善導などと云ふかと思へば、他方に於ては、賣國的行爲を推賞獎勵する

國を賣るやから援けて國を建つ

忠義の道を如何に説くらん

ヘスチングの彈劾

之に就ても思ひ出すのは、有名なパークのヘスチング彈劾である。ワレーン・ヘスチングは、改めて説くまでもなく、印度征伐の最大功臣であるから、單に功利的見地から論ずれば、彼ほど尊重すべき豪傑は、全世界に羽翼を伸ばした英國にも數多くはない筈だ。而も事は今から百四五十

年以前文化尙ほ開けず、世間の道義觀念も、今日に比すれば大いに卑低であつた頃に屬する。然るにパークは、道義的見地から、此大功臣を彈劾し、十四年の久しき間之がために奮闘した。國際聯盟や、不戰條約等が、成立して居る今日とは違ひ、弱肉強食主義が、尙ほ全世界を風靡してゐた百四五十年以前に於てすら、英國には、道義的見地から、國家の大功臣を彈劾するパーク氏があつた。又嘗に此彈劾者を寛容するのみならず、之に向つて大喝采を與へる人民があつた。英國民に、此道義觀念があつたればこそ、被征伐國も之に信頼し、其結果遂に世界無双の大帝國を建造し得たのである。單に功利心のみによつて、國家の強大隆昌を來すことが出來ると思ふものがあるなら、それは以ての外なる誤解と妄想に過ぎない。

それは兎に角、これが若し日本の出來事であつたなら如何だらう。パークは、全國民の非難攻撃を受けて、活きながら埋没されるに非ずんば、多分暗殺されたであらう。百四五十年以前ではなく、現在只今滿洲事件に對して、嚴正批判を下したら、其人は多分暗殺されるだらう。是は今日に於ける我國人の道義觀念が、パーク時代の英人よりも卑低な證據ではあるまい乎。言ひ換へれば、我が國民の功利觀念は、百四五十年以前の英國民より旺盛な證據ではあるまい乎。

現在の我國人のやうに、國際信義も、道義觀念も、總て之を功利觀念の犠牲に供して、世に立

ち國を益する事が、出来ると思ふのは、三四百年も後れた時代錯誤である。

軍紀の頹廢・君國の危殆

紀律が亂れて、軍人が長上に反抗したり、政治に干渉したり、長上の命令を受けずして専恣の振舞を爲すやうになつては、帝室のためにも、又人民のためにも、軍隊ほど危険なものはない。内に在つては徒黨を結んで、陛下最高の職司を虐殺し、外に於ては勅命をも請はずして全世界を敵に取るべき軍事行動を開始す。是みな軍人の所業にして、規律の頹廢實に是より甚しきはない。更に驚くべきは、首相若しくは外相に先んじて陸相が重大なる對外的國策を聲明する一事である。此の如きは、苟くも統制ある國家に於て、見る事の出来ない失態である。弛緩頹敗したるは、單に軍隊の規律に止まらず、國家全體の綱紀皆然るが如し。此の如くにして止まずんば、内憂外患も到つて國家は遂に滅亡するより外はなからう。

然るに、全國官民は、聲色を勵まして軍人の暴横を叱責する事の代りに、却て諛辭諂言、徒らに之に追従し、之を煽動し、遂に帝國をして進退維谷の窮地に陥らしめんとして居る。實に長嘆大息すべきである。

獨逸帝國の富強に加ふるに、澳、土、勃等の同盟を以てするも、尙ほ敗亡の憂を免れ得なかつた。況んや物資貧弱なる日本が、孤立無援の位地に立つて、全世界に反抗するに於ては、其到着點の悲惨なる、必ず獨逸帝國以上であらう。然るに軍隊は閣議の決定をも待たずして此大事件を開始し、進行し、全國官民は思慮を費さずして、直ちに之を賛成す。運命とは云ひながら實以て残念至極な次第である。

私は兼てより、現在の日本を以て、幕末の歴史を繰返しつつあるものと認定し、出来ることなら、此運命を轉回したく考へて、種々に微力を盡したが、其目的を達し得ずして、終に今日の始末に及んだ。尙ほ委細は拙著「幕末史の再演」を參看されたい。

滿洲政策遂行の結果

現在の滿洲政策を遂行するに方つては、

(一)、軍事 (二)、外交 (三)、經濟

の三點に於て、前途尙ほ幾多の困難が、横はることを豫想し、深慮遠謀、以て豫め之が對策を講究して置かねばならぬが、それは、暫く後段に譲り、今此所では、

第一に、右三點共に、別段の困難もなく、容易に健全な滿洲國を建設し得たと假定し、

第二には、滿洲國は、將來永く我が恩義に感じ、我が希望と目的に違背するが如き事をば爲さないと假定しよう。

實際に於ては、此二つの假定は非常の天佑が続出するに非ざれば、現實しようとは想はれないが、考案上の便利のために、二つ共奇蹟的に現實したものと假定しよう。

さて、さうなつた所で、我が國に取つて、如何なる精神的及び物質的利益があるだらう？

(一) 我が國人の意氣は大いに揚るだらう。現在ですら既に危険状態に達せる我が同胞の逆上方は更に一層甚だしくなるだらう。而して世間知らずの自負自尊は、民族の利益とは爲らずとして、却て損害を招くことが多い。

(二) 軍事的には、相當の利益もあらう、又損失もあらうが、最も大切なのは、經濟的利益である。苟も我が條約上の權益が、承認せられる以上は、其對手は支那であらうが、大した相違はない筈だ。而して支那をして我が權益を承認せしめる事は、滿洲を獨立せしめずとも他に方法がある。

(三) 世間には、滿洲問題を我が人口及び食料問題に結び付けて、兎や角論するものが多いが、是は全く無研究の結果であつて、取上げて論ずるほどの價値はない。朝鮮臺灣北海道にすら

移住することを好まない大和民族が、大舉して滿洲に移住しよう筈がない。

(四) 好し、移住した所で、生活程度の卑低にして、且つ勤勉なる支那民族と競争し得ない事は臺灣及び關東州に於ける長年月の經驗に徴して、明白である。

(五) 滿洲が、我が勢力範圍に歸しても、無償で食料品を徴収する事は出来ないから、食料問題は、人口問題よりも、更に没交渉である。滿洲は、我が生命線だとか死活問題であるとか云ふのは、感情的憶断であつて、虚心坦懷以て問題の真相と、國家の利益を考慮した意見ではない。

今日となつては、既に騎虎の勢を爲し、之を轉換する事は、非常な困難事であらうとも思ふ。故に假令それが明白に國家に不利な事であつても、現在の滿洲政策を遂行するより外に、施すべき道はないかも知れない。

全國民の大覺悟が必要

萬一さう云ふ事情の下に、止むを得ず之を遂行する次第ならば、全國民民をしてそれ相當の覺悟をさせなければならぬ。現在の如く法律並に虐殺暴行等を以て、言論の自由を束縛し、賛成意見のみを公けにし、反對の意見と事實は、一切之を隠蔽してはならぬ。

かくては、國民をして臥薪嘗膽の覺悟をさせる事は出来ない。國民をして何等の覺悟をも爲さしめず、お祭り気分にて此重大事件に謳歌躍進せしめるほど危険な事はない。天下後世から、此やり方を評して「國家を玩弄するもの」と云はれても、恐らくは辯解の言葉がなからう。

全國民の一大決心を促すためには、

第一、滿洲を平定し、其住民に、臺灣若しくは朝鮮程度の安全を與へるのは、中々容易の業に非ざる事

第二、好しそれが成就した所で、支那系の住民は、容易に我國に心服せざるべき事（次節「日本と滿洲國だけの關係」の項参照）

第三、支、露、米三國との關係は、差當り經濟的對戦になるべき形勢が見え、一步進めば、軍事對抗ともなるべき憂懼がある事（次節中「第三者との關係」及び「對滿政策遂行上の妨碍物」の項参照）

第四、現在既に非常の窮境に陥り居れる我が財政經濟は、右の結果として、更に幾倍の困難を増加すべき事（次節中「經濟的國難」の項参照）

少くとも右四項の道理と事實をば、一と通り心得させ、然る後それ相當の覺悟をさせなければ

ならない。何事も知らせずに置いて、全國人民を國家未曾有の難境に突き落すのは、慘酷無情の至りである。

加之、上は祖宗の神靈に對しても、又今上陛下に對しても、實以て相濟まさる次第であらう。

然らば、全國民覺悟の程度はと考ふるに、

第一、滿洲事件費は、總て特別税を以て、之を支辨する事

第二、公債を發行して、禍を子孫に嫁するが如き財政政策を施さざる事

第三、滿洲事件の爲に得たる事業家の利益は、直接間接を問はず、凡て國庫に徵收する事

第四、主として恩給に衣食する文武官の古手にして、健康あるものは、凡て滿洲に移住させる事

また外にもあらうが、差當り此位の決心もなくして、現在の滿洲政策を主張するのも、賛成するのも輕佻の至りである。

一應右の諸項を考慮して、愈々最後の決心を定めるに方つては、御前會議御開催の必要があらう。

御前會議と大廟及び御陵へ御報告の事

滿洲政策の遂行が國家の安危にも關係する大問題である事を知る以上は今日のまゝ之を遂行するのは、手續上不都合ではあるまい乎。

(一) 従來の慣例に依れば、此の如き重大事件を斷行するに方つては、必ず元老重臣の御前會議を開かせ給うた。

現在の事態は、日。清。日。露。の。兩。役。よ。り。も、遙。か。に。重。大。で。あ。る。か。ら、首。相。は、是。非。共、御前會議を奏請すべきであらう。其範圍に就ては(次節「滿洲政策に關する參考書」中、「國家安危存亡の岐路」の(A)参照)

(二) 御前會議に於て、愈々従來通りの方針確執と御決定した時は、伊勢の大廟と神武陵と桃山陵へは奉告使を御差遣相成るやう、首相より奏請すべきであらう。

(三) 今回は従來と違ひ、事態の重大性に相當する所の、何等の手續をも施さざればこそ、歐米列國中には、我が滿洲政策を以て、一部軍人だけの所業と見做し、之に基いて、其對策を講ずるものもあるのである。右三種の手續を執れば此等の想像は、必ず消滅するに相違ない。従つて國策遂行上にも、多少の便宜を生ずるであらう。

附記

右は現在既に實行しつゝある方針を、其まゝ遂行するものと假定して、之に關する覺悟と手續を略述したに過ぎないが、實は御前會議に於ては、従來の行懸りに拘泥せず、大所高所より國家

眞誠の利害得失を、念のため尙ほ一回討究して貰ひたいのである。

(一) 冷靜に打算して、我が國力は、支、露、米三國其他を敵とする所の經濟戰、又は軍事戰に堪へるや否や。

(二) 好し、之に堪へる力があつた所で、其結果は、國家に如何なる利益を齎すべき乎。(歐洲大戰の結果を參考)

(三) リットン卿調査委員會の報告と、國際聯盟の之に對する態度を靜觀し、之に由つて我が從來の主張を十中八九まで満足せしむるを得べき事が、明白になつたなら、其機會に於て、局面を轉換する方が、國家長久の利益ではあるまい乎。

(四) 方針轉換のためには、假令内亂とまでは行かずとも、多少の紛擾を生ずるかも知れないが、之を方針遂行のために生ずべき外患と比較して、禍害の大小輕重果して如何。

(五) 歐米列國の識者にして今日我が對滿政策に反對しない者の中には「捨てて置いても、日本はやがて經濟的破綻を生じて、自ら手を引くに至るべき」を信じてゐる者が可なり多い。

此失態を豫防する方法如何

右の五ヶ條は、是非御前會議に於て、審議を凝らす必要があらう。國家の興廢にも關する重

大事件であるから、各種の方面より慎重に審議した上、愈々従來の方針遂行と決定する以上は、更に歩武を進める必要もあらう。

(一) 「自決主義に由つて滿洲國が現出した」とか、又「領土的野心はない」とか云ふが如き一知半解のヘイカラ的假聲は、斷然廢棄すべきであらう。

(1) 滿洲に對して、民族自決主義を唱へれば、其影響は早晚必ず朝鮮臺灣にも及ぶ。

(2) 我が武力の庇蔭に依て、滿洲國を樹立した支那人は概して賣國的惡人物であらう。古の名君賢相は、時あつて此の如き人物を利用して、事既に成るの後は、之を誅戮して臣民たる者の鑑戒に供してゐる。

(3) 日本軍が、全部撤退したら、滿洲國は、數月を待たずして、崩潰するだらう。

(4) 滿洲住民の一般投票を徴したら、最大多數は新國家反對の投票を入れるだらう。

(二) 右等の假聲は、畢竟列國の反對を緩和するために使ふのであらうが、下愚者以外には、之に欺かれるものはない。故に無益有害にして、且つ自繩自縛の結果を生ずる。

(三) 「根本的に大和民族を改造しない限りは、人口及び食糧問題は、滿洲問題とは、没交渉だ」と私は信ずるが、歐米列國人は、認識不足のため、却て兩問題の間に、深密な關係があると思

つてゐる。従つて此點に就ては、敵も味方も多大の同情を寄せてゐる。

(四) 然るに「領土的野心はない」などと云へば、折角の同情を破壊するわけになる。滿洲を我が領土と爲さなければ、充分に移民を送ることは出来ないからである。

(五) 傀儡政府製造の如き小刀細工は、害はあるとも、利益はない。

滿洲政策に關する參考書

無準備の滿洲事件

(一) 前には、武力的侵略に由て、國利民福を増進し得た時代も有つたが、今日は、其時代は、既に過ぎ去つて、昔の夢となつて了つた。

(1) 列國が、曾て侵略した土地人民を漸次獨立させるが如き、又

(2) 世界大戦争の結果として、勝者も、敗者も、現在共に非常の苦境に沈淪してゐるが如き、

又

(3) 償金及び戦債を帳消しにするを以て、双方の利益と考へるに至るが如きは、何れも皆武力的侵略が、往昔のやうな利福を生ぜざるのみならず、却て反對の結果を生ずるに至れること

を證明するものに非ざるはない。

(二) 此見地よりして、自分は昨年九月以來の我國の滿洲政策に就ては、深大の憂懼を抱いて居る。始めて其電報を得た時、端なく胸中に浮んだ感想は、那翁三世のメキシコ政策であつた。一此一舉が、我明治中興の偉業を頓挫せしめること恰もメキシコ政策が那翁三世の隆運を頓挫せしめたと同様になりはしまい乎」と云ふ憂慮が湧き出でた。

(三) 歐米列國の識者中にも、自分と同様の心配をしてるものが、可なり多い。彼のトロッキの如きは「ロマノフ朝は、滿洲で葬られたが、日本の皇室も、矢張り滿洲で葬られるのだ」などと放言してゐるさうだ。聞くだに忌はしき限りである。

他山の石以て玉を磨くべし。我が同胞も、君國のために、少しは考へて見るが好からう。

(四) 又其手續上から見ても、我國は、既往に於て、現在の如き對滿政策を行ふべき何等の國際的準備を爲さなかつた。苟も現在の如き政策を施す意旨を持つてゐたなら、

(1) 國際聯盟の如き平和團體に加盟すべき筈ではなかつた。之に加盟したればこそ、世界環視の間に立つて、十三對一と云ふが如き孤立無援の窮境に陥つたのだ。又今ごろになつて、聯盟脫退論を唱へるが如き醜態を招いたのである。

(2) 又九ヶ國條約に加盟して、滿洲に於ける支那の主權を承認すべきでなかつた。

(3) 又不戰條約には、勿論加盟すべきでなかつた。

(4) 又縱へ加盟しても、英國が、埃及に對して、除外例を求めた如く、我國は、滿洲に對して、之を求むべき筈であつた。

(5) 又武力を滿洲に用ふる前には、支那多年の非違を列擧して、全世界に明示すべき筈であつた。

(6) 又在外の大公使には、粗ぼ政策の内容を示して、其準備を爲さしむべき筈であつた。

(7) 又事件勃發後に於ては、在外大公使だけには、粗ぼ其到着點を示して、辯護の腹を決めさすべき筈であつた。さうしなかつた爲に、折角の辯護及び約言も、すぐ跡から襤褸が出て、大いに帝國の信用を失墜した。

豫備的行爲をば、一切施さなかつたのみならず、我が武力使用を牽制すべき條約には、何等の除外例をも求めずして、悉く参加し、以て二重三重に自縛自縛の約束をした。而して一朝俄然青天の霹靂的行動に出でた。世界列國の驚愕したのも無理はない。反對者の餘り多いのに驚いて、列國の認識不足を咎めても、世間では咎める方を、却て無理と認定する。

(甲) 「軍事と外交が、調和一致を缺いたのは、統帥權發動の結果である」などと辯解するものもあるやうだが、是は不敬の言議である。軍部の主張するが如く、統帥權は、統治權の外に在るものと假定するも、苟も御大權の一部である以上は、他の御大權の作用に對して、調和を缺くべき筈がない。陛下の御手許に於て、調和一致を圖らせ給ふべき道理である。

然るに、それが、調和しなかつたとすれば、其原因は、「出先きの官憲が、名を統帥權の發動に藉り、豫め大元帥陛下の御裁可を請はずして、此大事件を執行したるに在り」と見るより外に見方はなからう。如何なる不敬漢と雖も、其責任を陛下に歸し奉るわけには行くまい。

(乙) 以上は、何れも既に過去に屬し、今更之を咎めても、效果はない。只將來局に當る者は、何事に就いても、更に一層深く、且つ眞面目に研究考慮するの必要ある事を示すに止まる。

我滿洲政策遂行の結果

(一) 日本と滿洲國だけの關係

國家大局の利害より觀察すれば、現在の我滿洲政策は、深く憂慮すべきものがある。さりとして既に今日となつた以上は、騎虎の勢、容易に之を轉換する事も出来まい。之を自然の勢に任せれば、我が武力と經濟力を貸して、飽くまで滿洲國を援助するより外はなからうが、さて、さうし

た時に、滿洲國は、

(一) 近き將來に於て、三千餘萬の住民に、安全幸福を與へ得る國家になるだらう乎。

(二) 注文通りの國家になつた所で、滿洲在住の支那民族は、我國に對して、朝鮮民族同様の不平不満を抱きはしないだらう乎。

(三) 滿洲國の首腦部は、徹頭徹尾我が國の援助に頼らなければ、自立が出来ない間こそ、穩和な我が國人の忠告指揮に服従するだらうが、苟も自立する事が出来るやうになれば、自主自由の希望を記して、我に反抗すること、恰も張作霖同様になりはしまい乎。

(四) 又近くは英國が、南亞に於て、經驗した事例に徴し、遠きは秦漢唐宗など支那歴代の朝廷が、滿洲に於て、經驗した事例に徴すれば、東三省を平定し、且つ其治安を維持するは、決して容易の業ではなからう。さなきだに、財政經濟の大困難に遭遇し居れる我が日本に、それを爲し遂げるだけの餘裕があるだらう乎。

(五) 學國一致して、能く臥薪嘗膽の苦痛を忍び、十數年若しくは數十年を費して、之を爲し得た所で、將來如何なる利益があるだらう乎。

(六) 臺灣や朝鮮の如く、我が領有に歸した土地に於てすら、財政上にも經濟上にも、容易に利益

を擧げることが出来難い。況してや名義上だけでもせよ、自主獨立の滿洲國に於て、朝鮮臺灣以上の利益を得ることが、どうして出来るだらう乎。

右に列擧した六種の事柄は、全く自分の杞憂に過ぎないかも知れない。却て反對に、意外の天佑的僥倖が、降つて來るかも知れない。然し眞に君を思ひ、國を愛するものは、豫測し難い天佑や僥倖を頼まず、却て杞憂に均しき事項までも豫想して豫め排除の道を深思熟慮して置かなければならぬ。お祭り気分で輕率妄動してはならない。遠く歐米に在つて、我が國人の言議を視ると、何事に就ても、尋常普通の考慮すら拂はず「先きはどうか爲るだらう」と云ふが如き一盃機嫌で、國家の盛衰興廢にも關係すべき大事件に處するものが多いやうだ。實に寒心の至りに堪へない。

(二) 第三者との關係

右は世界列國を眼中に置かず、只日本と滿洲だけの關係を略述したに過ぎないが、現在の世界に於て、國策を決行するに方つては、列國との關係をも考慮しなければならぬ。改めて述べるまでもない事だ。

さて、世界列國中滿洲に最も深大の關係を持つてゐるものは、日、支、露三國であり、尋いで英、米二國である。

我が滿洲政策と露國の關係

(一) 我が國人は、兎角自分の方面だけを見て、他國の方面を看ない習癖がある。日本も滿洲のためには、國家の存亡を賭して戦つたが、露國も、亦同様の戦争を爲した。現に露國の帝室は、之がために滅亡の端緒を發いた。

(二) 遼東半島だけは、日本が、先きに支那から譲り受けたが、其墨痕未だ乾かざる間に、三國干渉のために奪ひ回へされ、其後滿洲全部は、事實に於て、露國の所有に歸した。

(三) 日本が現在所有してゐる所の關東州、南滿鐵道、及び其他の利權は、ロシアが、先きに獲得して居つた利權の一部を譲り受け、後其期限を延長したものに過ぎない。

(四) 會て遼東半島を取り返された事を、日本人が殘念に思ふなら、ロシア人も亦多年割據してゐた所の關東州は勿論、南滿鐵道までも、取り上げられた事を殘念に思ふに相違ない。

(五) 現在日本が滿洲國を援けて、更に其勢力範圍を擴大せんとするを見ては、如何に鈍感なロシア人と雖も、益々殘念に思はざるを得まい。

此等の事情を打算外に置いて、國策を斷行する時は、意外の失敗を招く恐れがある。

我が滿洲政策と支那との關係

支那は、ロシアに比べれば、滿洲に對して、更に一層深い關係を持つてゐる事は、申すまでもない。

從來の國際關係に於ては、滿洲は、大體に於て、支那の領土として取扱はれて居る。日本は、現在の如き國策を斷行する以前に、此慣例を打破すべき筈であつたが、未だ其手續を運ばなかつた。

我が滿洲政策と米國との關係

(一) 米國は、元來滿洲に對しては、政治的にも、經濟的にも、日、支、露三國の如き深大な關係を持つてゐる國柄ではない。

(二) 然るに、多年絶東に對して、門戶開放主義を唱へたり、滿鐵中立問題を提起したり、四國借款團を起したり、九ヶ國條約、不戰條約等を首唱締結したりした關係上、特に太平洋上の一大強國たる關係上、常に滿洲問題に就て、格別の興味を持つ事になつてゐる。故に我が對滿政策を決行するに方つては、米國を度外視するわけには行かない。

(三) 英國は、支那に對して鐵道其他の關係に於て、米國以上の利害を持つてゐるが、滿洲問題に就ては、興味を持ち方が少ない。只世界政策の上から、英、米二國は、互に協同一致すること

を望んでゐるから、日本としては、米國を度外視することが出来ないと同時に、亦英國を度外視することも出来ない。

(四) 米國が、日本に反對せんとするに方り、英國をして、之を賛させないだけの注意を怠つてはならない。現在の形勢に於ては、米國は、單獨では、我が滿洲政策に對して餘り、強剛な反抗を試みないだらうが、英國の賛成を得れば、随分強い反抗を試みるかも知れない。

對滿政策遂行上の妨碍物

以上略述しただけでも、我が滿洲政策を遂行するに方つては、内外幾多の困難がある。

(一) 支那の反對は、今後長く繼續するものと見なければならぬ。

(二) 我が對露外交、一步を誤れば露國は、忽ち支那と提携して、我に反抗するに至るだらう。

(三) 此二大國を相手にして、滿洲の治安を維持する事は、軍事上に於ても、随分困難だが、財政上經濟上に於ては、更に一層困難だらう。

(四) 其上、米國が、英國の内諾を得て、經濟的斷交、若しくは、それに近い政策を施すに於ては、我國の經濟的立場は、益々困難に陥るに相違ない。

(五) 尙其上に、全世界の小弱國は、何れも平和主義の上に立つて、我が武力使用に反對するだら

我が國人は「小弱國の反對何かあらん」と、一概に輕蔑して掛るやうだが、古昔の未開時代とは違ひ、今日の文化程度に於ては、小弱國と雖も、動もすれば強大國を動かす勢力がある。さう馬鹿にすると、國家の大計を誤る恐れがある。道義的壓力は、時あつて物質的壓力よりも、怖るべき結果を生ずる。

經濟的困難

(一) 之を要するに、全世界の小弱國は、概して我が滿洲政策に反對すべく、支那は勿論、露米二國も亦、之に反對すべき傾向が強い。故に之を斷行するに方つては、豫め之を覺悟し、出来るだけの準備を整へて置く必要がある。少なくとも、その方が安全だ。

(二) 國策遂行に方つて、我が弱點は、主として經濟力の不足に在る。さなきだに非常の難境に立ち、我が國貨は既に従前の半額にも下落した今日に方り、萬が一にも、我が現在及び將來の最大輸出市場たるべき米、支、露の三大國を敵とするが如きことあらば、我が國民は、如何にして生くべき乎。戰爭に於て敗れずとも、經濟的に、死地に陥る患がある。嚴饑遠からず、彼の獨逸帝國の滅亡に在り。

(三) 現在でも、我が輸出貿易は減退しつゝあるが、將來支米の反對愈々増加するに於ては、我が輸出は、益々減少するものと見なければならぬ。眞に君國に忠なるものは、かく覺悟して、事に當るべき筈である。根據もなき樂觀説を唱へて、自ら慰め、人を欺くは、輕薄兒の所業であつて、眞誠なる忠愛者の爲すべき所でない。

難境に處するの道

(一) 覺悟は、右の如く定め、さて之に處するには、如何したら好いの乎。自分には、千思萬考しても、名案が得られない。故に陛下の御裁可が得られるなら、いつそのこと、無案の文官は悉く手を引いて、一切萬事、軍部に一任しては、どうかとも考へて見た。外務も、大藏も總て軍人若しくは其同感者を以て組織し、思ふ存分に、やらせて見るも、亦一案かと考へたのである。(二) 閣議も經ず、詔勅をも請はず、突然事を起して、此大責任を執つたからには、軍部には、相當の成案があるべき筈だ。文武の官憲互に相牽制して、左支右梧するよりも、寧ろ一切萬事、軍部に一任する方が、現在よりも、好結果が得られるかも知れない。

(三) 經濟、財政、外交等の善後策に就て、軍部にも、別に名案がないならば、仕方がない。其無責任を咎めることは、暫く後廻はしにして、取敢へず、文武合體舉國一致、決死の覺悟を以て、

難境切抜けの窮策を講ずるより外はない。従來のやうな浮佻輕薄なお祭り氣分で、此難境が切抜けられると思つてゐると、取返しのない失敗を招くだらう。

(四) 事を起した軍部にすら、名案がない位だから、軍部のために引きずられてゐる他の方面に良策のありやう筈がない。非常な窮策ではあるが、全國舉つて臥薪嘗膽の實を擧げるため、左の諸項を實行しては如何。

(イ) 滿洲事件の繼續する限り其經費は、現今の租税に付加税を課して、悉皆之を支辨する事。

(ロ) 局面が如何に擴大し、其經費が如何に増加しても、矢張り付加税其他の特別税を以て之を支辨する事。

(ハ) 現在納税し居らない國民にも、總て多少に拘はらず、事件費を負擔せしめる方法を立てる事。

(ニ) 滿洲事件のため、特別に増加した収益は、直接間接を問はず、總て之を國庫に徴收すべき方法を立てる事。

(ホ) 従來の如く、國難に乗じて、暴利を貪り、戰時成金となるが如き心得違の者なきやう嚴重に取締る事。

(ウ) 別に職業を營まず、恩給に衣食する文武官の古手中、身體健全なるものは、出來得る限り、之を滿洲に移住せしむる事。

(ヘ) 主として事を起した軍人は、申すに及ばず、初めより之に賛成し、國論を鼓吹したものは、其道義的責任上、率先して、滿洲に移住すべきである。

(四) よく考へたら、此他にも尙幾多の良法はあらうが、少なくとも右に列學した事柄を實行するほどの覺悟は、必要だ。此位の覺悟もなくして、此大事件が、遂行し得られると思ふのは、輕卒の至りである。

背水の陣

(一) 我が國人は、深思熟慮せずして、輕急に背水の陣を布きたがる性癖がある。滿洲國の前途に關し、未だ何らの見當も立たざる内に、早くも衆議院が、全會一致を以て、其承認を決議したるが如きは、其一例である。

(二) 背水の陣は、まかり間違へば、全軍悉く覆没する決心なしに布くべきものではない。背水の陣さへ布けば、敵が逃げるだらうと云ふが如き想像の下に之を布くほど危険な事はない。萬一敵が逃げないで、善く戦つたら、どうする積りなの乎。

- (目) 滿洲國は、幾年経ても、自立が出来ず、又世界列國悉く之を承認しないでも、文我が經濟財政が如何なる困難に陥つても、我國は徹頭徹尾之を援けて、之と心中する積りなの乎。
 - (四) 如何に愛國心の乏しい冒險家でも、まさか賣國的集團たる滿洲國を援ける爲に、我が帝國の存亡を賭しても好いとまでは、考へないだらう。
 - (四) 萬一左様に考へるものがあるなら、其人は嘗に大小輕重の辯別を缺くのみならず、一時の感情のために、天壤無窮の帝國を犠牲に供するものと評せざるを得ない。
- 國際聯盟調査委員の報告

- (一) リットン卿を首班とする調査委員が、如何なる報告を爲すであらう乎。今日之を豫測する事は困難だ。然し、苟も公正無私の第三者として立つ以上は、
- (イ) 全然日本の主張に賛成する事が出来ない、同時に、全部支那の主張にも、賛成する事も出来まい。
- (ロ) さりとて滿洲に於ける支那の領土權を、全然非認するわけにも行くまい。
- (ハ) 又我武力の庇蔭に因つて僅かに其氣息を保つてゐる滿洲國を認めて既に充分な國家の資格を備具したものと做し、聯盟諸國に向つて、其承認を促すわけにも行くまい。

- (ニ) 右三項の範圍内に於て、作製する報告である以上は、我が國が從來主張し、且つ實行し來つた方針には、寧ろ反對するとも、調和すべき性質のものではなからう。
- (目) 而して國際聯盟は、委員會の報告を以て、穩和に過ぐるものと見做して、一層日本に不利なる決議をば爲すとも、該報告以上に日本に有利な決議を爲しさうには思はれない。
- (四) されば、日本の國際的立場は、該報告の結果として、現在に比して、更に一層悪くはなるとも、善くはなるまい。少なくとも、眞誠の忠愛者は、さう考へて善後策を講じなければならぬ。

國家安危存亡の岐路

- (一) さてさうなつた時に、我が日本の取るべき道は、二つに分れる。
 - (1) 深く内外の情勢に鑑みて、局面一變の計を講ずべき乎。
 - (2) 從來の方針を固執し、世界列國を向ふに廻はし、國家の存亡を賭しても、孤立獨往すべき乎。
- (二) 之を決定するに方つては、虚心平氣に、主として、我が精神的及び物質的國力を考慮することが、最も必要である。一步打算を誤れば、獨逸帝國の覆轍を踏む事になる。

- (三) 「滿洲國なるものは、元來我が帝國の存亡を賭しても、援助しなければならぬほどの情義、又は利益がある乎ない乎」の根本問題も虚心平氣に考慮しなければならぬ。
- (四) 元來自力に頼らず、主として他國の武力を頼みとして獨立を謀るが如きものは決して信頼すべき人物ではない。他日我が旗色が悪くなれば、款を敵に通じて反覆するは、必然の勢である。此の如き人物の集團に向つて、情義を盡す必要はない。古昔の名君賢相は、時あつて之を利用するも、事成るの後は、之を誅戮して巨子たる者の鑑戒に供してゐる。
- (五) 滿洲國を授けて、三千餘萬の住民に安全幸福を與へるよりも、寧ろ支那を授けて、四億の住民に安全幸福を與へる方が、善いかも知れない。
- (六) 兎に角、是が、國家の安危存亡の分れ目であるとする以上は、全國の智勇を集めて、最も慎重に考慮研究すべきである。こんな大事件が、若し明治年間に起つたなら、明治大帝は、必ず悉く元老や大臣を御召集になつて、御前會議を開かせ給うたであらうと恐察し奉る。
- (七) 維新の元勳諸公が、今尙存在してゐたなら、必ずや決死の覺悟を以て、國家のために歃誓したであらう。決して血盟團や少壯軍人の暴行を怖れて、袖手傍觀しないであらう。
- (八) 今や維新の元勳は、西園寺公以外には、一人の殘存するものなしと雖も、三朝歴任の大臣大

將にして、尙生存するものは可なりある。彼等宜しく身を挺して、最後の忠節を盡すべきである。

(九) 自分の私案としては、

- (1) 現在の内閣各大臣 (2) 樞密院及び貴衆兩院議長 (3) 前總理大臣 (4) 元帥 (5) 三回以上大臣となりたるもの (6) 大將となつて十年以上経過したるもの (7) 日本銀行總裁

等を御召集になつて、御前會議を開かせ給ひ、以て最後の對滿政策、則ち對世界政策を御決定相成つては如何かと思ふ。

(十) 國家安危の大問題を、今日のまゝ、其成行きに任せ、而して萬が一にも明治中興の偉業を失墜するが如きことあつては、明治大帝に對して、申しわけの仕様もないわけになる。

(十一) かくまで、慎重に事を運んでも、尙滿洲政策のため、國家が、危地に陥つた時は、止むを得ざる天運とあきらめる事も出来ようが、何等特別の手段も施さず、感情や成行きに一任して、其結果、國家の衰運を招くが如きことあつては、上は祖宗の神靈に對し、下は子孫後世に對し、實以て相濟まざる次第である。

ヨウロッパ合衆國

私は、歐洲諸國の間を旅行する毎に、思はない事はない「何故こんな狭く、小さく、且つ交通運搬の便利な土地に、十も二十も、國を建てて、年百年中軋轢闘争してゐるのだらう乎」と。

それも野蠻未開にして、禽獸を去ること、未だ遠からざりし時代ならば、仕方がなかつたのであらうが、今日の人間は、列國對時の損害位は、誰でも承知してゐる。それにも拘はらず、掌大の天地に、多數の國家を建てて、互に對抗闘争してゐる。實以てわけの分らぬ連中である。

飛行機で旅行すれば、一日の間に、二三ヶ國を通過する事が出来る。汽車や、自動車で、旅行しても、假睡してゐる間に、既に他國に到着し、税關吏の爲に、起される事が多い。時間的距離では、ヨウロッパ全洲は、日本よりも小さい位だ。青森から鹿児島に行くだけの時間があれば、儼にヨウロッパの端から端まで行く事が出来る。

日本も、明治の維新までは、之を三百の諸侯領に分割し、さなきだに交通の不便な山嶺に關所などを設けて、更に人馬の往來を遮断してゐたが、歐洲列國の現状は、大いに日本の封建時代に類似してゐる。日本の封建國を擴大すれば、現在の歐洲列國となり、之を縮小すれば、日本の封

建國となる。嘗有形的にさうであるのみならず、無形の精神感情に於ても、亦さうである。世界第一の文明を以て、誇る所の歐洲列國は、なぜ日本のやうに、全洲を統一しないのであらう乎。

歐洲の出張所とも云ふべき米人は、建國の初めに於て、百難を排して、十三洲を連合し、現在では四十八洲を連合してゐる。その利益は、歐洲列國人の悉く目撃耳聞してゐる所である。なぜ自分達の出張所に倣つて、その長利大益を受けないのであらうか。

歐洲列國の經濟的聯盟

縦へ打つて一丸と爲さないまでも、何故之を聯合して、歐洲聯盟を作らないのだらう？ 若し政治的聯盟が、困難ならば、せめては、經濟的聯盟でも作つたら、好ささうなものだ。強ひて現状を維持し、互に關稅障壁、その他の妨礙物を築造して、經濟戰を繼續すれば、列國は、到底米國と競争する事は出来なくなるではない乎。否、現在でも、歐洲列國は、經濟的には、既に米國に壓倒され、その風下に立つて、事々物々悉く米國の鼻息を窺はざるを得ないやうになつてゐる。將來は、愈々益々さうなるに相違ない。實以て馬鹿げた事だ。

英帝國の先例

英帝國を組織する所の聯合國中には、愛蘭土や、カナダや、トランスヴァールのやうな、舊敵

國があるのみならず、其の民族の如きも、歐洲人以外のものが、大多數を占めてゐる。それにも拘はらず、英國は、之を政治的に聯合して、一大帝國を作り上げたばかりでなく、其の經濟的連結をば、將來益々密接有效にしようと努力してゐる。英帝國の組織分子に較べて歐洲列國間の相違は餘り大きな懸隔はない。此の事例に照して見ても、歐洲聯盟は、斷行の勇氣さへあれば、政治的にも、又經濟的にも、決して出来ない相談ではないのだ。

往來交通の妨碍物

然し、人情の弱點よりして、それもまだ當分は出來難いならば、更に一步退いて、列國間に存在する往來交通の妨碍物を、出來るだけ排除したら好ささうなものだ。

差し當り、度量衡、貨幣、言語等を共通にし、且つ關稅障壁、移住制限等を撤廢するのが、その手初めである。

掌大の歐洲に於て、列國みな特別の貨幣を用ふるのは、明治以前の日本に於て、各藩みな藩札を發行してゐたのと、その不便利ほ、粗ぼ同様である。度量衡は、那翁一世のお蔭で、既に或る程度まで世界共通になつたが、貨幣は、まだ列國何れも藩札同様なものを發行してゐる。それが爲め通商貿易及び旅行者に不便利を與へること、並大抵の事ではない。

その言語に至つては、青森語と、鹿兒島語ほどは、相違しないものが澤山ある。故に往來交通の頻繁な今日、之を自然に放任して置けば、やがて同化一致すべき傾向がある。然るに列國の政治家は、民族的偏狭心に捕はれて、盛んに之を妨碍してゐる。ムツソリーニも、その一人であるが、ピスマークの如きは、曾て「獨逸式の髣文字で印刷したものでなければ、折角新著を寄贈しても、讀んでやらないぞ」と公言したことすらある。文化の進運に反抗する所の反逆兒と云つても好からう。その苦心慘澹折角建設した獨逸帝國が、半世紀を待たずして、崩壞したのは、無理もない事だ。彼の功業は、元來時代錯誤の產物であつたのだ。

文化の進歩につれて、世界が縮小すると同時に、國家間に於ける有形無形の境界は、次第に減少するが、當然の運命である。然るに、列國の政治家は、此の理勢を悟らず、縦へ悟つても、自己の功名心の爲に、この理勢に反抗し、強ひて境界線を維持しようと努力する。壘堡、城壁、税關等を設くる外に、尙風俗、習慣、言語、貨幣、度量衡等までも、各自固有のものを維持獎勵する。

之がため、世界の進運を妨げ、經濟的發展を阻碍し、延いては、人類の幸福を滅殺すること、擧げて數ふべからざるものがある。

私は歐洲列國の政治家が、一日も早く此の迷夢より覺めて、諸般の事物を國際化せんことを切望する。

亞細亞諸國の政治家も、亦鶴蚌相争ふの陋態を改めて、亞洲聯邦建設のために盡力されんことを切望する。

歐洲には、學者は勿論、實行的政治家にして、歐洲聯邦を主張するものがあるが、(佛國近來の大政治家ブリアン氏の如きはその一人であつた) 亞細亞には、學者にすら、未だ之を主張するものがないやうだ。

徒らに歐米を悪口して、遠き他國を呪詛ふやうな女々しい舉動を止めて、近々自洲の進歩發達に勇往邁進したら好きさうなものだ。

第二 死活の岐れ目

(昭和七年七月英京に於て執筆)

前がき

前回の第一世界戦争後、數年ならずして歐米列國は非常な經濟的困難に陥り、敗者は勿論、勝者と雖も、未曾有の窮苦を受けた。今回は我國は前日と違ひ惨敗したのだから、やがて來るべき今日以上の經濟的困難に對しては、充分の注意を拂はねばならぬ。左記の一文が多少の參考とならば幸甚 (昭和二十年十一月追記)

列國の困窮状態

歐米列國は、現在只今死活の岐路に立つてゐる——と云ふよりも、寧ろ死地に陥るべき道を驀らに進行してゐる——と云ふ方が、適切なやうだ。戦時の貸金だけでも、約二百億圓(金貨以下同じ)に及び、其上に約八十億圓の正貨を貯藏してゐる所の米國ですら、其失業者は一千萬人を

越え、中央政府の財政は、二十億圓前後の不足を生じ、立派な會社の株券にして、額面價額の三分の一以下に下落したるもの少なからず、中には十分の一以下に下落したるものもある。各洲に於て、極力其上京を抑止したにも拘はらず、二萬の在郷軍人は、ワシントン市に集合し、議會に向つて、賞與金四十億圓の可決を強請してゐる。一步誤れば、修羅場を現出せんも圖られざる情勢が見える。——世界第一の富裕國——僅か二年までは、不景氣知らず、否な、好景氣の絶頂に狂舞してゐた所の米國ですら、此通りである、況してや世界戰爭の爲に、莫大な人と金を失つた上尙ほ到底拂ひ切れないほどの債務を背負つてゐる所の歐洲列國が、更らに一層困窮するのは少しも怪むに足らない次第であらう。特に全世界を向ふに廻はして、四年間惡戰苦闘した末、遂に六百六十億圓の賠償金を支拂ふべく強制された所の獨逸の困窮状態は、説明するまでもなく讀者の想像し得る所であらう。

かくて、歐米列國は大小富貧の別なく、何れも前古未曾有の經濟的困難に陥り、年豊かなれども、餓殍道途に充滿する状態となつた。衣食足らざるが爲に、飢寒に號泣するもの多いは、怪しむに足らないが、現在の如く、衣食餘りあつて、尙ほ餓死凍斃するもの多いは、實以て不可思議の至りである。此不可思議なる困窮状態より免れんと欲して、列國共に智謀の有らん限りを盡しては居るが、努力すれば、するほど、經濟状態は、益々險惡に赴き、思想状態も、亦從つて愈々險惡に赴いて來た。

水練を知らない溺者の跼き

其状態は、恰も水練の心得のない者が、海に落ちた時と同様で、もがけば、もがくほど、溺死を招くのである。もががずに、じつと靜止してゐれば、人體は自然浮き上つて助かるやうに、造物主が、造つて置いてくれたのだが、さうは知りながら、なか／＼さうすることは出來にくいものと見える。全世界の政治家經濟家は、不幸にして、水練を知らない溺者の煩悶を繼續してゐるものと思はれない。早く其過誤を悟つて、之を改めざる限り、列國みな何れも溺死の災厄を免れぬであらう。

世界無双の富都と聞えたるロンドンや、ニューヨークですら、滿目蕭條、全都到る所として、貸家札と賣屋札とを見ざるはなく、乞食物貰ひの多いこと、只々驚嘆するの外はない。米國第二の大都會たるシカゴ市の如きは、既に破産に瀕し、前二ヶ月間其貸銀を支拂ふ能はざりし爲、二千四百名の市街掃除人足が、同盟罷業に及び、不潔物山積のため、悪疫が流行しさうだと云つて

騒いでゐる。該市の小學教員は、既に六ヶ月以上も給料の支拂を受けず、其他の市吏員及び雇員も、大抵數月間給料を支拂はれずに居るさうだ。

政治的不安の増加

今春の總選舉に於て、愛蘭士では、前年の謀叛黨の首魁にして、死刑囚たりしドヴェラ氏が、勝利を得て、政權を掌握し、英國に向つて、公然叛旗を翻へして居る。結局どうなる事か、何人も豫測する事は出来ない。獨逸では、素性の分らぬ——いや分つてはゐるが身分も經歷も、説くべき何者もないヒットラー氏の仲間が、選舉毎に急激異常の増加を來し、各州に於て、意外の大多數を獲得し、來月末の總選舉には、更に其勢力を増加し、近き將來に於て政權を掌握しさうにも見える。而して現在其主張する所は、獨逸は勿論、歐洲全體を大混亂に陥るべき事項である。凡て破壊的主張であつて、建設的政策は、一つもない。

さなきだに列國皆數百萬の失業者を有し、動もすれば内亂をも生じ兼ねまじき形勢あるに、かゝる加へて、國際的戰亂が、歐洲の中原に勃發するが如きことあらば、世界の前途は、想像するだに、戦慄する。

前回は君主制の破滅、次回は國家の滅亡

前回の世界戰爭に於てすら、八大強國の内、獨、墺、露の大帝室は、何れも滅亡し、伊太利は、ムッソリーニの獨裁政治となり、嚴然として君主國の舊態を維持して居るものは、只、日、英、兩國あるのみと云ふ悲惨な結果を生じた。のみならず全世界は、今尙ほ戰爭の跡仕末が、出來ずして、前述の如き困苦を嘗めて居り、而も將來益々困苦の増加すべき形勢が見える。

此時に方つて第二の世界大戰爭!!!

前回の世界戰爭では、多くの帝室が、滅亡したが、次回の世界戰爭では、多くの國家が滅亡するだらう。文明の滅亡！ 人類の滅亡！ そんな事態が、次の世界戰爭の結果であらう。

活きんと欲して死路を辿る事實

國家及び人類の滅亡、文明の破滅！聞くだに怖ろしい。世界廣しと雖も、白痴か癡狂者の外は、一人も之を希望するものはなからう。萬人みな均しく之を回避したいと願つてゐるに相違ない。然るに、全世界の所謂大人物なるものが、大戰爭を回避せんと欲して、盡力すれば、するほど、天

下の形勢は、益々險惡に赴き、戰亂の機運が、愈々増大する。何故だらう。再び游泳術を知らない溺者の事を回想せざるを得ない。

簡単に説明すれば、彼等は、活る道を知らないから、活んと欲して、却つて死路を辿るのに過ぎない。議論は暫く擱き、今讀者と共に全世界の大政治家が、大戦争中及び大戦争後に於て、主張し、且つ施爲した事實の一端を點検して見よう。

第一に彼等は、戦争を廢絶するための戦争だと大聲疾呼した。

然るに、戦後の國際關係は、益々險惡に赴き、戦争は雷に廢絶されさうに見えざるのみか、却つていつ何時勃發するやも圖り難い形勢を招致した。

第二に彼等は、民衆主義の爲に安全な世界を造るための戦争だと云つた。

然るに、戦後の歐米列國は、悉くみな獨裁主義に轉向した。露、伊、獨、西、澳、佛は、申すに及ばず、民衆主義の本家本元たる英、米兩國すら、或る程度まで、行政官に與ふるに獨裁權を以てするに至つた民衆主義の爲には、極めて不安な世界が現出した。

第三に彼等は、民族自決を高唱して、國民主義を獎勵した。

然るに、今や世界列國は、國際主義と調和せざる偏狹なる國民主義に惱まされ扱いてゐる。國

民主主義は、動もすれば排他的私利心私慾主義に墜落し易き性質を有して居る。現在の世界的經濟難及び政治權は、此排他的私利私慾に起因するものが多い。

第四に、彼等は、戰敗國を壓抑して、出来るだけ多額の賠償金を支拂はしめるものが、戰勝國の利益であり、又將來の平和の保證であると考へ、其通りに實行した。

然るに、少なくとも經濟的には、既に人類程度の有機體に進化した今日の世界に於ては、獨塊の苦痛は、直ちに歐米全體の苦痛と爲り、延ては、萬里の外なる日本まで、波及するに至つた。しかのみならず、賠償金を支拂へと云つても、獨塊には、之を支拂ふべき金貨がない。さりとして物品で支拂はせれば、戰勝國に於て、これまで其物品製造に従事してゐたものは忽ち失業者となつて、飢餓に陥る。無償で、物品を渡す方の國も困るが、代價を拂はずに之を受取る方の國も困る。結局是は、出来ない相談であつた。到底實行し得可らざる空想を、しかつめらしく、條約文に特筆大書したに過ぎなかつた。如何なる大人物でも、苟も人間とある以上は、時あつて、此程度までは、發狂し得るものであることを證明するために、右の事實を茲に附記して置く。

第五に彼等は戰罪則ち、戦争開始の全責任は、獨逸に在りと爲し、其首魁たるカイゼルを處刑すべしと主張した。が今回のローザンヌ會議では、愈々賠償金を廢止し、「歐洲全體の復興に

協力する」と云ふ名義に於て、獨逸は、十五億圓の債券を發行する事になつた。是は、列國が、獨逸は世界戦争の責任者則ち首謀者ではなかつた事を公認した手始めである。やがて世界戦争に關する獨逸の責任全部を解除し、其根本義に於て、漸次平和條約を改正する事にもなるだらう。

第六に、戰勝國の大政治家大經濟家は、右の事實に遭着して、豁然大悟し、獨逸を苦しめる事の代りに、之を援助して、一日も早く復活させる事に、其方針を變改した。

右方針轉換の結果として、英米兩國が、主として獨逸を援助し、其貸與へた金額は、遠く獨逸が支拂つた所の賠償金に超過するに至つた。つまり獨逸は、これまでは自分の金は、一文も使はず、凡て以前の敵國から借入れた金を以つて、賠償金を支拂ひ、尙ほ巨額の餘剰を生じたのである。「現在の獨逸には賠償金は勿論の事、此借金すらも支拂はないぞ」と豪語するものがある。ヒットラー黨が、政權を得たなら、支拂停止を斷行するかも知れない。

昔の人に、こんな事を話して聞かせたなら、數千年以前の神話とでも想ふだらうが、神話ではなく、現在只今世界の中原に現出してゐる事實である。此一事を見ても、世界の實質が、如何に變化して來たかが理解されるだらう。此理解なしに、國際關係を論ずるのは、盲者が色を説く類

である。然し、ヴァルセイユの平和會議に參集した全世界の大政治家は、大抵盲目漢であつた。故に色彩の評價が、全く間違つてゐた。まだ面白いのは、敵國援助の爲に、金を貸しすぎて、幾んど自國の大難を招き、金貨制度を停止して、僅かに一時を彌縫した英國の所業である。米國とでも、貸しすぎのため、可なり困つてるやうだ。

第七に、彼等が此様な悲喜劇を繰返してゐる間に、自他の經濟状態は、益々悪るくなり、列國何れも金貨の缺乏と、財政上の不足を生じた。

之を救はんと欲して、彼等が開始したのが、關稅戦争である。其目的は、關稅に由つて、歳計の不足を填補すると同時に、輸入を減少し、輸出を増加するに在つたのだ。自國は少なく買つて、他國には多く買はせよう!! そんな不思議な事が、人間世界で出来る乎、出来ない乎、少し考へて見たら好からう。貿易の原則は、物々交換であつて、金貨は其差額を決済する補助物に過ぎない。他國の物品を多く受取るから、他國も亦自國の物品を多く受入れる事が、出来るのである。列國みな關稅障壁を築いて、輸入を防遏すれば、何れの國も、悉く輸出先きが、減少するではない乎。買はない工夫は、則ち賣らない工夫となるのである。然るに世にも名高い自由貿易國たる英吉利までも、關稅障壁を築いて、輸入を減少せんとしてゐる。他に特別の原因がない以上は、

輸出も亦従つて、減少するに相違ない。現に關稅戰爭開始以來、列國の輸出は、概して大に減少した。

かくて、世界の不景氣は、益々増大し、失業者は愈々増加し、禍亂の機運は、日毎に切迫する。古人は「天の災は、尙ほ避くべし、自ら招く禍は避く可らず」と云つてゐる。

第八に、國際的戰亂を豫防せんが爲め、列國は汲々として軍備を整へ、歳計の不足や、失業者の救済に困苦するにも拘はらず、尙、毎年百億圓の軍事費を支拂つてゐる。

前回の世界戰爭は、主として、軍備の競争より起つた事を忘れたの乎、將た初めより、知らないの乎、實以て不可思議千萬だ。戰爭を目的とする所の軍備に由つて、戰爭の豫防する事が出来るなら、油を注いで、火を消すことも出来る筈だ。揮發油ほど、火災を起し易いものはなく、軍備ほど、戰亂を挑發し易いものはない。見よ、米國と、カナダの國境、二千英里の間には、一兵の之を守備するものもなく、一壘の之を防衛するものもない。従つて攻守衝突の惧がなく、兩國人民みな其堵に安んじてゐるではない乎。

活きんと欲して死路を辿る原因

今日の世界は、多士濟々人物が、多すぎて、彼等の間に多數の失業者を生ずるほどの盛況だ。然るに、右に列舉した事實だけを見ても、世界的政治家大經濟家の實行した所は、大體に於て、其目的とは正反對の結果を生じてゐる。遠き既往は、問はず、近く一千九百十四年の世界戰爭勃發以來、十八九年間に彼等が考慮し施設した所の事物は、殆んど一として其目的を達したものは、誰れが何んと辯護しても、列國の不安及び困窮状態が、彼等の過誤失策無見識を證明してゐる。而してそれが一國一洲に止らず、五大洲を包含する以上は、凡ゆる智者識者英雄豪傑を盲目ならしむる所の普遍的大原因が、なければならぬ。それは何んであらう。

(一) 民衆主義全盛の結果であらう乎。

或る者は然りと答へる。其説に曰く何れの國にも、智者は少なく愚者は多い。民衆多數の意見に依つて、事を決する以上は、勢ひ衆愚の意見に従はざるを得ない。如何なる先見達識の大政治家と雖も、衆愚の賛成を得なければ、其意見を行ふ事は出来ない。前段列舉の過誤失策は、大人物が衆愚の賛成を得んが爲に、多數者の平均點まで、其意見を低下した結果である、云々。

一理あるやうだが、未だ必ずしもさうでもない。此頃の民衆は、頗る従順で、善く大政治家の意見を賛成して、其志を遂げさせる。佛人が、ポアンカレーを援けて、其財政及び經濟政策を斷

行せしめたるが如き、又英人が、國民内閣に大多数の投票を入れて、随意に其政見を實行させるが如きは、其例證だ。

隨行者たる民衆より、其先達たる政治家の方に、却つて過誤失策の原因が多いやうだ。前に掲げた七種の事實は、何れも大政治家の首唱したものであつて、愚論愚策と知りつゝ、民衆と調和せんがために故らに低下した意見ではない。

昨年米國大統領が、一年間戦債及び賠償金の支拂停止を發議した時に、主として之に反對したのは、佛國の衆愚ではなく却つて、其上智であつた。苦心慘愴智慧の有らん限りを絞つて、遂に獨逸をして、一旦其賠償金をバイスルの國際銀行に拂込ませ、該銀行をして直ちに之を獨逸に貸渡させると云ふ珍案を立てたのは、衆愚でなくして、上智であつた。今年も再び支拂停止の問題が、ローザンヌに起つてゐるが、一年たてば、三ツ子も四歳になる。流石に佛國の大政治家も、今年も右の愚案を固執しないだらう。

(一) 列國皆私利私益に捕はれるためでもあらう乎。

然り。地理的政治的には、今尙、國境が、存在するが、經濟的には、歐米文明國の間には、既に國境がなくなつてゐる。經濟組織は疾くの昔に、列國を打つて、一丸と爲し、一個の有機體と

して了つてゐる。此新天地に於ては、共存共榮の外に、經濟的に活る道はない。

然るに、列國の先達たるべき政治家經濟家は、今も尙ほ舊世界の舊思想舊感情に捕はれて、各自國だけの私利私益を獲得せんと焦躁する。彼等が、働けば働くほど、共同體たる世界の經濟状態が、悪化するのには、當然の次第である。

今や列國の政治家も、二十年近くの間、失策に失策を重ねて、漸く目が覺めかけて來たやうだ。目下開會中のローザンヌ會議に於ては、賠償金及び戦債全部の帳消論が、始めて實際問題として主張されるやうになつた。晚い哉、列國政治家の覺醒!! 彼等は、決して衆愚を咎める資格は持たない。

(二) 列國の政治家が、時代錯誤に陥つてゐる爲ではあるまい乎。

曰く、然り、大いに然り。現在の世界組織の下に於ては、戦勝に由つて、何の得る所もない次第は、ノルマン、アンジェルの如きは、二十餘年以前に於て、既に之を論證してゐる。ピスマーク公の如きは、佛國に勝つて、アルサース、ローレーンの二州を取り、又當時は佛國をして再起する能はざらしむる爲に充分と考へたほどの償金をも取つたが、其後未だ數年ならずして、其過誤を悟つた。彼は獨人をして自負傲慢ならしめた外に、何の得る所もなかつたことを後悔して

る。「貿易が、國旗に随伴した時代」は疾くの昔に過去の一夢となつて了つたのである。然るに、列國の政治家は、此事實を理解し得ず、舊態依然たる頭腦を以つて、大いに變化した所の新世界に臨んでゐる。其言行が凡て齟齬撞着して、彼等の希望とは、正反對の結果を生ずるのは、當然すぎるほど當然の次第であらう。

世界組織進化の一端

蒸氣機關の發明以來、世界組織が、政治經濟、あらゆる方面に於て、一變した事は、世間の廣きも一人として之を知らない者はなからう。電信、電話、無線通信、自動車、飛行機、トレギジヨン等の發明及び流行以來、世界は更に大いに變化した。然るに世間には未だ此大變化を認識しない人が多い。又多少之を認識はするが、其政治的、社會的、經濟的、言行をして之に調和させる事の出来ない人が多い。これは帆船時代の思想を抱いて、汽船時代に處するよりも、更に一層重大な時代錯誤である。古昔に比ぶれば、今の世界は旅行及び運搬の期間に於ては、百分の一、通話に於ては、古昔は絶対に出来なかつたものが、今日は萬里の外と自由に談笑する事が出来る。古人が文學的空想として唱道した所の四海兄弟、五洲一家と云ふが如き事態も、或る意味に於て

は、既に現實してゐるのである。

(一) 無機物同様の世界

古昔の野蠻時代に於ては、世界は廣大無邊であつたのみならず、東西南北何らの脈絡もなき一種の無機體であつた。此時代には、何所でも、酋長政治が行はれた。

同じ無機體的でも、道路が開け、交通が便利になれば、世界は時間的に縮小され、従つて酋長配下の地域が擴張されて、封建政治となるのである。

其後、文化の進むに従つて、世界は益々縮小し、一小天地に幾百の諸侯を包容し難いやうになれば、封建政治は更に一變して國民政治となる。

一個若しくは數個の民族が、一政府の下に統一されるやうになつても、交通機關が、尙ほ幼稚で、列國を貫通する脈絡がなかつた間は、世界は全く石塊同様の無機物に過ぎなかつたのだ。

此時代に於ては、一國の存亡盛衰は、他國に何らの影響をも與へないのみならず、他を亡ぼして、之を併合すれば、敗者の損害は、却て勝者の利益となつたのだ。

(二) 植物程度の有機體

其後文化の進歩と共に、世界は益々縮小し、且つ列國互に通商貿易するやうに爲つてから、石

塊同様な世界は漸く進化して其組織體の間に於て、互に多少の利害を感ずる所の有機體となつた。然し、まだ植物程度の有機體に過ぎなかつたから、他の盛衰興亡に關係なく、一國だけで、獨り繁昌する事も出来た。否、他國を征伏し、其人民を苦しめて、却つて自國の繁昌を招來する事が出来た。恰も樹木に於て、左枝を剪れば、右枝が榮えて、左右兩枝共に剪れば、本幹が、一層著しく發育すると同じやうな物であつた。

中古列國互に攻伐して、矢響きの絶えなかつた頃の世界が、則ち植物程度の有機體であつた。

(三) 動物程度の有機體

然るに、文明の進歩は、何時か知れない間に、右の如き世界列國に對して、之を貫通聯絡する所の血脉、神經等を與へ、遂に完全なる動物有機體に進化せしめた。それは一は世界列國の時間的距離が、古昔の百分の一、乃至千分の一に減少し、共同割合に、世界が縮小したからであり、二は國境を超越する所の文明の利器が、際限なく發明せられ、工夫せられたからである。

同じ動物程度の有機體でも、其進化尙ほ卑低にして、豚程度の物であつた頃は、其身體の一部を傷つけても、傷つけられざる他の部分には、餘り多くの苦痛を與へず、時あつては、股を割いて、腹を滿たす事も出来た。

(四) 現在の世界は人類程度の有機體

然し、それが進化發達して、既に人類程度の有機體となれば、四肢百體何れの所を毀傷しても、苟も神經の通ふ所は、全身の苦痛となる。現在の世界組織は、既に人類程度の有機體となつてゐる。左手を斬つて、右手の利益を擧げることが出来ない。股を割いて、腹を滿たすことも出来ない。いやでも應でも、共存共榮、全世界と共に盛衰興亡するより外に、行くべき道はなくなつていつた。大戦争以前に於ても、列國の經濟組織は、既に國境を超越し、五洲一體となつてゐたが、近來は、其進化が、愈々急速著大であつた。其結果、「ロンドン」「ニューヨーク」の取引所に於ける動靜は、直ちに東京の相場に影響する。北米合衆國の如き大陸的國家——充分に自給自足し得る國家ですら、如何に富んでも、又如何に金貨を澤山貯藏しても、他國が皆な不景氣に苦しむ際には、一國だけ獨り繁昌するは不可能になつた。

列國政治家の迷夢覺醒

一昨年までは、米國人の大多數は、此道理と事實を知らなかつた。偶々之を説くものも有つても、それを信じなかつた。然るに經濟的暴風雨が、一朝俄然全米洲を振蕩するに至つて、始めて

孤立獨樂の迷夢より醒めた。

昨年六月フーヴァー大統領が、一年間のモラトatoriumを發議したるが如き、又本年六月軍縮と戦債の相關問題を提起したるが如き、みな迷夢覺醒の結果である。(さうと明言はしないが) 世界列國悉く時代後れの狂夢に寢はれてゐる間は、戰敗國民は兎に角、戰勝國民は、實に愉快な事であつた。

- (一) 多年其安全を脅かし來つた所の獨逸に向つて、徹底的打撃を與へた以上は、今後は枕を高くして安眠することが出来る。
- (二) 獨逸の貿易をも、餘ほどの程度まで、戰勝國の手に收むる事が出来る。
- (三) 領地を取り、償金を取つたから、向後は安樂に暮す事が出来る。
- (四) 特に、米國の如きは、軍需品を列國に賣り、其拂ひ残りは、悉く貸金と爲し、債務國一變して、莫大な債權國となつたから、將來永く坐ながら、元利を收受する國柄となつた。
- (五) 敵國既に破滅した以上は、軍備の如きも、大いに之を減縮して、それだけ租税を減小する事も出来る。
- (六) 敵味方の別なく、世界列國は、戦争の慘禍に懲りて、將來は平和の道を行くだらう。

(出) 黄金世界とまで、行かずとも、之を動機として大いに改造進歩に向ふことにならう。

(入) 暴力時代は去つて、正義時代が来るだらう。

等一等等

愉快な感想は、際限なく起つた。

然し、今日と爲つて見れば、何れもみな、一場の空夢に過ぎなかつた。

國家繁昌の大原因と思つた所の償金も、貸金も、狂夢より醒め、目を拭つて熟視すれば、却つて世界不景氣の最大原因であつた。是れ其帳消論が、遂に政治家間の實際問題となつて、現はれた所以である。斯く目が覺めて見れば、一圖に國家の爲めと思つて、屍を戰場にさらした事、それ自身が元來間違ひであつた。従つて國家のためと思つて、笑つて死地に就いた幾百萬の將卒は、大死をしたも同様であつた次第が、明白になつた。是れ平和條約の改定論や破棄論が敵味方双方より主張せられるほどの奇觀を呈してゐる所以である。又戦争中之に反對して國賊視された所のマクドナルド氏が、國民内閣の總理大臣に載かれ、全世界崇敬の標的となつてゐる所以である。又市内各所に建設された所の無名戰死者禮拜塔の撤去説さへ、公然主張せられるに至つた所以である。變れば、變る、世態人情と云ふべし。

覚醒の程度如何

其半面を見れば、列國政治家及び民衆の覚醒は、其程度の著大なること、實に驚くべきものがある。列國は、前に、償金を取る事を利益と考へたが、今日は取らない方が、利益だと考へるやうに爲つた。米國も、前には、貸金を取る事を利益と考へたが、今日は取らない方が利益だと考へるものが、大いに増加した。大統領フーヴァー氏の如きは、まだ明言はしないが、慥かに其一人のやうだ。前には墨と考へたものを、今は雪と思ふやうになつた。同じ人間の頭腦で、能くもこんなに變化する事が、出来たものだと言ふべきを得ざるほどの大變化大覚醒である。が、然し他の半面を見れば、其覚醒はまだ徹底してゐない。いや未だ全く覚醒せざる事實もある。

償金や、戦債が、不景氣の最大原因である事は、歐米の政治家も、民衆も、二十年近くの経験に因つて、漸く之を悟つた。故に其帳消論が、實行家の實際問題となつた。然し佛米兩國を、無條件では、まだ中々承諾しさうに見えない。畢竟覚醒が尙ほ不足するためである。又戦債と、償金が、景氣回復の最大妨礙である事を悟つたが、此二つの者は、戦争の産兒——いや其正系の嫡子である事は、未だ之を悟らないやうだ。一旦戦債や、償金を帳消しにしても、將來再び大戦

争が起れば、現在以上の戦債も、償金も、必ず再び現出する事を知らないやうだ。

しかのみならず、前回の世界戦争は、一千万の死傷者を生じ、三千億圓の富力を滅殺した。之に比すれば、戦債や、償金の如きは、其半額にも足らない小金である。然るに列國の政治家經濟家は、其小なるものに就ては、大騒ぎをしてゐるが、其大にして且つ根本原因たる戦争其者に就ては、之を絶滅せしめようとは勉めない、否な其勉め方が足らない。

いや、次回の戦争準備に、毎年一百億圓を費してゐる。元來戦債や、償金は、戦争と云ふ大きな火元から起つた飛火に過ぎない。然るに飛火の一部だけは、消しに懸つてゐるが、其火元には、毎年一百億圓づゝの揮發油を注いで、大いに之を煽つてゐる。

眞誠に覺醒した人間には、こんな前後矛盾彼此撞着の仕事が、出来よう筈がない。平氣でそれをやつてゐるのは、未だ眞誠に覺醒しない證據である。彼等が、半睡半醒、寝ぼけ眼で、妄動してゐる證據である。

覚醒し難い原因、即ち世界難の本源

右に述べ來つた理路と事實は、小學生徒でも、理解し得るほど簡單明瞭なものだ。世界的大人

物とも云はれる者に、どうしてそれが、分らないのだらう？

前述の「活きんと欲して死路を辿る原因」説明の端緒を發いて置いたが、其所で、單刀直入、直ちに其本源を暴露して見よう。

(一) 民族主義の消長

曰く全世界を風靡する所の民族主義!!!

十八世紀は、勿論の事、十九世紀の中頃までは、民族主義は、尙ほ幼弱であつたのみならず、動もすれば、純理主義のために、壓倒せられ、封建主義より、一躍して、世界主義に飛んで行きさうな傾向すら見えた。現に伊太利及び獨逸住民の如きは、同一民族でありながら、四分五裂して、互に相抗争して居た。又當時つ先覺者たりしルーソウは、言つた「今日となつては、最早や、佛人も、西人も、曼人も、ない。いや、英人すらも、ない。只歐洲人あるのみだ。彼等は、總て同一の風俗、習慣、趣味、感情を持つてゐる」と。又ゴールドスミスは言つた「全世界は一個の都市に過ぎないから、偶然何町に住んでゐても、そんな事は、予の頓着する所ではない」と。又レッシングは言つた「國を愛することは、如何に褒めて言つても、義侠的悪事に過ぎない、予はそんな心を持たないでも差支ない」と。又トマス、ペインは誇りが言つた「世界は予が國で、

人類は予が同胞だ」と。

右は僅かに其一端に過ぎないが、其當時に於ける民族主義の尙ほ微力なりしことを徴するに足るだらう。然るに、文化の進歩と共に、地域が縮小し、他の民族との交通が、愈々頻繁に赴くに從つて、同族相依つて、他の民族に對抗するの必要が生じ、遂に民族主義の急激なる發達を來した。此風潮を利用して、同一民族を同一國旗の下に統一したのが、獨逸の政治家であつた。ピスマークやカヴトル等が其中の重要人物であつた。

(二) 民族主義と國際主義の調和

世界進化の或る段階に於ては、封建主義が、會て必要であつたが如く、此民族主義も、必要であり、且つ有利であつた。然し現在の如く、全世界が、既に人類程度的一個の有機體となり、其利害痛痒が、共通になつた以上は、民族割據は、勢ひ往古の封建割據と同様の結果を生ぜざるを得ない。則ち封建主義が一變して、民族主義に進化したのと同じ道程を踐んで、民族主義は一變して國際主義に進化せざるを得ない。其事の是非善悪は、別として、苟も科學的文明を破壊せざる限りは、否でも、應でも、さうならざるを得ない。其過程としては、先づ狹隘なる民族主義を擴張して、國際主義と調和させる必要がある。眞に國を愛するものは、其好むと好まざるとに拘

はらず、自國の隆昌を圖るために、國際主義に歸向せざるを得ない。

其面積は、全世界の四分の一を占め、其人口は、三億五千萬人に及ぶ所の英國でも、又大陸的國家にして、物資極めて豊富なる米國でも、孤立獨往することは、出来ない。世界列國と共に、手の如く、足の如く、提携扶持するより他に繁榮する道はない。況や其他の小邦貧國に於てをや。

(目) 民族主義迷執の結果

列國人民は、智愚賢不肖の別なく、未だ充分に此明白なる事實を認識する事が出来ない。何事に就ても、世界本位に考へず、只管自國本位に考へる。故に軍備、戦債、償金等の諸問題の如く、其利害の共通なるべき事項に關しすら、列國各々意見を異にして、一致協同する事が出来ず、幾年經つても、世界的病源を治療する事が出来ない。畢竟自國本位に物を考へ、他を害して、己れ獨り利益を得んと圖るからである。右手は左手を毀傷して、己れ獨り益せんと欲し、腹は股を割いて食はんと欲するからである。そんな事をすれば、するほど、全世界は愈々益々不安に赴き、且つ困弊する次第は、戦中及び戦後の實驗に因て、最も明白に證明されてゐるではない乎。

國際主義と調和を缺く所の民族主義が、列國人民の思想感情を支配する限り、世界は、到底救はれない。其到着點は、曰く世界的破産!!! 曰く第二の世界戦争!!!

一家の内に住むものは、自己を愛すると同時に、其家を愛さなければならぬ。もし然らずして父子兄弟夫妻みな自己本位に物を考へ、事に處すれば、其家は破滅せざるまでも、心ず衰微する。一郷一村に住むもの、一市一國に住むもの、みなより小なるものを愛すると同時に、より大なるものをも亦愛さなければならぬ。然るに、黨人は動もすればより小なる政黨本位に物を考へて、より大なる國家を其犠牲に供し、列國人民は、より小なる民族本位に物を考へて、より大なる世界を犠牲にせんとする。其状恰も國家を離れては政黨なく、世界を離れては、國家のないことを知らざるものやうだ。

此精神状態こそ政治的に、經濟的に、又思想的に、二十世紀の世界を悩ます所の最大病原である。之を略言すれば、時代錯誤、又は覺醒不足の四字に歸着する。

戦争其者の大變化

それは兎もあれ、現在のやうな精神状態で、進行すれば、近き將來に於て、第二の世界戦争を見るであらう。獨逸は、既に内亂状態に陥つてゐるが、來月末の總選舉に於て、ヒットラー派が大勝利を得て、政權を獲得すれば、獨佛の衝突は、到底免れ難いやうにも見える。現在に於ける

歐洲中原の形勢は、一千九百十四年、則ち世界戦争が勃發した當時よりも、更に險惡だと云ふのが、歐米識者間の通論のやうだ。而して、何人も之を回避又は豫防すべき名案を持たないのみならず、毎年一百億圓の軍事費を使つて盛んに戦争歡迎の準備を整へてゐる。彼等は、歡迎を以て、防。止。と考へるほどの錯。誤。に陥つてゐる。

見よ、上下五千年の久しき、軍備を整へて、戦争を防止し得た例證は、一つもないではない乎。現在では、まだ飛行機飛行船等を視て、歩兵戰の補助機關と見做してゐるものが多いが、次回の戦争に於ては、其主力は、空中に移轉するであらう。

(一) 其速力が、一時間四五十哩に過ぎない汽車自動車で、敵國を衝くよりも、一時間二三百哩の飛行機を以て、敵國の都會を襲撃する方が、有效である。

(二) 歩騎兵の前には、山や、河や、壘堡、鐵條網等の妨礙物があるが、空中には、そんなものは一つもなく、進退攻防自由自在である。

(三) 壘堡城塞の如きものは、攻めずに捨て置いて、都會を襲撃して、政府や、參謀部や、中央銀行、其他の金融機關や、軍需品製作所等を破壊すれば、それで勝利は得られる。

(四) 壘堡や、城壁、塹壕等に立て籠つてゐる兵士を殺すよりも、都會に集中してゐる老若男女を襲

殺する方が、容易である。且つ一萬の兵士を殺傷するだけの努力を以て、數百萬の男女を殺傷する事も出来る。

(四) 死すべく訓練された將卒を殺傷するよりも、未だ其訓練を経ない都會の男女老若を殺傷する方が敵國人を恐怖落膽戰慄阻喪せしめ易い。則ち早く戰勝の結果を收め易いのである。

素人目で一見しても、力を空中に用ひる方が、之を海陸に用ひるよりも、右等の利益がある。軍事専門家が、考へたら、此外にもまだ澤山の便利があるだらう。故に將來の戦争は、やがて、空中に移轉するものと考へて好からう。

言ふこと勿れ、非戰鬥員を虐殺するのは、殘酷だと。戦争とは、人を殺し、物を毀はす働きを云ふのであつて、戦争は、元來殘酷其者である。

且つ男女老若の非戰鬥員と雖も、軍資や軍需品を供給する以上は、立派な對敵者である。之を殺傷するに、何の不思議があらう。世には、毒液毒瓦斯等を禁止し、都會襲撃を制止しようとする力するものもあるが、これは偽善家若しくは空論家に過ぎない。苟も戦争を認許する以上は、其武器方法を制限する事は、出来ない。之を用ひて、儘かに勝利を得る見込が立てば、其武器方法でも、之を用ひるに相違ない。

戦争の結果、國家及び人類の滅亡

歐洲列國の如く、犬牙錯綜、僅々數時間にして、他國の國都に到達し得る土地に於て、戰禍勃發せん乎、開戦公布のラヂオ未だ終らざる内に、敵國の飛行機は、既に其王宮若しくは政治堂を爆破するだらう。飛行機の來襲は、飛行機を以て、之を防禦するより外はないが、あの廣い空中を、而も上下一萬尺の間を、或は高く、或は低く、自由自在に飛來飛去する所の敵機を發見し、防禦することは容易の業でない。

故に將來の空中戰に於ては、敵機を迎撃して、自國の都會を防禦する事の代りに、一刻も早く敵國の都會を爆破するを以て、利益と爲すだらう。則ち彼我皆攻撃を主とし、互に敵國都會爆破の遲速を競争するの戰術を取るであらう。列國飛行將校中には、此新戰術を研究してゐるものが、多いやうだ。其結果は、敵味方互の都會らしい都會は、開戦後數日を出でずして、多くは爆破されるだらう。全都會の住民は、男女老若の別なく、毒火、毒液、毒瓦斯、毒光線に包圍せられて、死滅するだらう。

かくて、國家及び人類の破滅を招き、文明も、没落するより外はなからう。而して歐米列國は

腰を平として、此斷崖に突進しつゝある。

人類は、元來馬鹿げたもの、其遺傳も悪い

あまりと云へば、馬鹿すぎてるやうにも見えるが、人類は元來馬鹿げたものである。釋迦や、孔子や、耶穌などが出て、人類を善くもし、利巧にもしようと思つて、色々な事を教へてから、もう二千年も経つたが、一向善くもならず、又利巧にもならず、舊態依然として、舊惡舊惡を守つてる。機械や科學は、大いに進歩したが、人類の精神状態、則ち思想感情は、之に伴つて進歩しない。全世界の廣きも、上下二千年間の久しきに亘つて、右の三人以上の人物は、まだ一人も出て來ない。畢竟其本質が、悪いからだらう。靜かに考へて見れば、其遺傳も善くないやうだ。遠き神代の事は、いざ知らず、人類の歴史あつて以來、四五千年間の事實を視るに、遠き酋長時代より、最近の民族時代に至るまで、彼らの多數は、種々の美名の下に詐偽、竊盜、強盜、人殺等を爲し來つたのである。

義兵とか、義戰とか、巧みに種々の名義をば製造するが、他人を殺して、其財物國土を横奪するを以て、無上の名譽と心得來つたのである。臺灣の生蕃は、個人的首狩りを以て、人生最大の

義勇的専業と心得てゐるが、現在の歐米人には、國家的首狩り、則ち戦争を以て、至高最大の義勇奉公事業と心得てゐる者が多い、利巧振つて、不戰條約などを締結はするものゝ、之を實行しようとする誠意は、どこにもない。「流石に、四五千年間、殺人強奪を實行し來つた人類の後裔たるに耻ぢない」と評しても、好からう。

一面から見れば、こんな人類は滅亡しても、餘り惜しくもなからう。又國家的首狩りを、無上の名譽事業と心得るが如き文明は、没落しても、左まで悲しむべき次第でもなからう。

現在の如き人類は、一旦滅亡して、アダム、イヴから、再び出直す方が、善いかも知れない。

安全を軍備に求むる事の誤謬

いや、悪くても仕方がない。現在列國が進行してゐる所の道を辿れば、否應なしに、其所に到着しさうに見える。然らば、彼等が言ふ所、行ふ所に、多少の理由がある乎と見れば、迷謬以外に、何物もない。今一二の事實を擧げて、之を證明しよう。

獨逸は、先きに、主として國家の安寧幸福を、軍備に求めた。古今萬國中に恐らくは獨逸帝國ほど、軍備の盛大にして、且つ整頓してゐた國は、なからう、さうして彼はどうなつた乎。申す

までもなく、滅亡して、人民みな塗炭の苦しみに陥つてゐる。

英國は、曾て「二國標準」と唱へて、世界最大海軍國二ヶ國を合併したほどの海軍力を維持しなければ、其安全を保つ事が出來ないと主張した。多年大金を費して、二ヶ國に當り得るだけの海軍力を維持して來た。其後、獨逸が、英國を目指して、大いに其海軍を擴張するや、英國は愈々其標準を増加する事の代りに、却つて之を「一ヶ國半標準」に低下した。而も之がため英國の安全は、少しも減少しなかつた。又華府の軍縮會議に於ては、英國海軍側の人々は、極力「一ヶ國半標準」を主張したが、其説行はれずして、遂に米國と對等、則ち更に「一ヶ國標準」に低下した。而も英國の安全は、少しも減少しなかつた。或る程度以上の軍備の多寡大小は、感情的に其國人を喜憂せしむる外、實際に於ては、國家の安危に何等の關係もない。

嘗に然るのみならず、過大の軍備を有する時は、其財力を疲弊せしむると正反對に、其官民を倨傲ならしめ、又列國猜疑嫉妬の標的となり、以て國家を危地に陥れる憂がある。

甲國が、乙國に對して、必ず勝つだけの軍備を整へれば、乙は必ず丙丁と聯合して、負けない工夫をする。甲が、二ヶ國の同盟を作れば、乙は必ず三四ヶ國の聯合を成就する。大戦争以前の獨逸は、伊、土、勃等と合從して、安全を求めたが、遂に全世界の反抗を受けて、あの慘敗を

招いた。

愛國心の濫用

前回の世界戦争の死傷者は、敵味方合せて、三千萬人に及んだと云ふ事だが、憐むべし、彼等が拂つた所の此大犠牲は、國家若しくは、民族若しくは、世界人類のために、何の利益（精神的及び物質的）を齎らしたか？ 少數なる海陸將校や、列國政治家をして、其功名を爲さしめたのと、多數の戦時成金を製造した外には、何物もないやうだ。前者は「一將功成つて萬骨枯れた」のであり、後者は、戦死者の血液骸骨を壓搾して、黄金を造り、之を成金の手に收めたのである。何れも多數國民の損害にはなつたが、其利益にはならなかつた。平和回復後、既に十三年を経たが、勝者も、敗者も、共に非常の困苦に陥つて居り、世界列國みな其爲す所を知らないのが、何よりの證據である。

列國人民は、政治家の口車に乗せられ、只一圖にお國の爲とのみ思つて、笑つて死に就いたのだが、彼等の愚死が、少しもお國の爲にならなかつた事實は、今日となつては、如何なる愚人にも、明白に了解されたであらう。則ち政治家は、人民の愛國心を濫用して、其功名心を満足せしめたのに過ぎなかつたのだ。其後の結果に因て、明白に此事實を認識し得た幾百萬の戦死者は、今頃は、地下に於て、欺かれたる事を知り、死して瞑する能はず、切齒扼腕してゐるだらう。實以て同情の至りに堪へない。世に煽動政治家や、戦時成金ほど、罪なものはない。然し、只徒らに憤慨するだけでは、駄目だ。よく考へないと、將來も再び「お國のため」と煽動されて、再び競つて死地に就き、以て却つて國家及び人類の大損害を招く事があるだらう。

愛國心の由來と其利弊

是に於て、眞に國を愛するものは、徒らに舊世界の舊思想や、舊感情のみに捕はれず、新世界に善處すべき新愛國心を考察しなければならぬ。古來世の識者中には、愛國心を以て「偏狹なる劣情」の如く論難したものが、可なり多い。私は、さうも思はないが、さりとて、或る人々が云ふが如く、最高至貴、天下無双の優越物とも考へはしない。

自己愛—家族愛—郷土愛—
民族愛—人類愛—人類愛

國家愛—自洲愛—世界愛

人間の愛情は、概略右の如き系統を辿つて、發達するものやうに思はれる。則ち其近く且つ

小なるものに始つて、次第に一層遠く、一層大きなものに到達するのである。而してより遠く、より大きなものの爲めに、より近く、より小さいものを、犠牲に供する事は、常人の爲し難い所である。其心情は、高尚優美なものに相違ない。故に尊重すべき價值がある。

自己の我儘を制して、父子兄弟の利益を圖るが如き、一家の私利を捨てて、郷土の利益を圖るが如き、又一郷一縣の利益よりも、寧ろ一國一民族の利益に重きを置くが如き、何れも皆な近きより遠きに及び、小より大に向ふ働きであつて、普通人の爲し難しとする所である。故に尊重すべき價值がある。文化尙ほ卑低なる封建時代に在ては、普通人は、比較的小にして且つ近き藩侯の爲には、其生命をも捧ぐるが、より大にして貴く且つ遠き 天皇陛下のためには、忠義を盡さない いや盡す道を知らなかつたのである。彼の四十七士の如きは、古今無類の忠義ものには、相違ないが、其忠義心は、比較的近くして且つ小なる自己の藩主に向て、之を捧げたに過ぎない。比較にもならないほど、高く、貴く、且つ偉大なる 天皇陛下は、京都に於て、幽囚同様の御生活に苦惱し給へるにも拘はらず、彼等は帝室の爲には、一舉手一投足の忠義をも盡さなかつた。赤穂城は京都に近いから、彼等の多數は、帝室式微の状況を日々見聞して居つたに相違ないが、之を挽回するために、何らの働きを取らなかつた。是は、彼等が悪るいのではなく、封建割據と

云ふ時勢が悪るかつたのだ。愛藩心（郷土愛）が未だ擴張して、愛國心（國家愛）とならなかつたからである。四十七士が、忠臣義子の手本として、今日尙ほ尊敬されるのは、より小なる自己愛家族愛の時代に於て、より大なる藩主愛を實行したからだ。楠公父子が、四十七士よりも、尙ほ多く尊敬せられるのは、より大なる 天皇愛の形式に於て、國家愛を實行したからだ。

然し、現在の如く世界組織が、進化して、既に人類的一个の有機體となつた以上は、國家愛だけでは、其國家を保全することは出来ない。更に一步を進めて、より大なる世界愛人類愛を加味しなければならぬ。其次第は、鎖國攘夷の封建割據時代には、忠義心、其郷土藩侯に對するもので好かつたが、王政復古して、全國既に一體となつた以上は、之を擴張して、國家及び 天皇陛下に對するものと爲さなければならなくなつて來たのと、同一である。

然るに歐米列國人は、今尙ほ國家愛の範圍を超越する能はずして、戦債、償金、軍縮、關稅、通貨、移住の世界的問題を解決するに、國家的標準を以てせんと焦慮苦心してゐる。ローザンヌ會議、ゼネヴァ會議、オッタワ會議、如何に會議を重ねても、充分に満足すべき結果を得る能はざる所以の最大原因は、此所に在るのである。民族主義をして、人類主義と調和せしめ、國家愛をして世界愛と調和せしめざる限りは、幾度列國會議を開いても、満足な結果が得られる氣遣せはな

い。従つて列國の不安困弊は、尙ほ當分繼續するものと見て好からう。印度人や、支那人は、近年まで民族愛國家愛等の情念を持たなかつた。釋迦、孔子の説いた所は、一舉して世界愛人類愛に躍進すべき性質のものである。故に久しく他國の支配を受けて、平氣でゐたが、近來は、歐米諸國から民族愛國家愛等の教育を受け、又日本帝國の勃興を見て、俄かに愛國心を發作し、自主自立の運動を開始した。現在世界の二大民族が、容易ならざる不安状態に陥つて、自分も苦しみ、他國をも苦しませてゐるのは、民族主義傳播の結果である。歐米列國は、此主義を宣傳して、自ら其結果に苦惱してゐるのだ。己れに出るものは、己れに返る。因果應報ほど、觀面なものはない。

列國の動靜一斑

戦債や、償金に關して、今日までに提出された對案中では、英國の石版掃拭意見が、最も善い。而して伊太利は、直ちに全然之に賛成した。軍縮問題に就いては、米國の軍事費削減論が、一番好い。而して伊太利は、時を移さず全部之に賛成した。他國の政治家は、背後の民衆を顧みて、踴躍遂巡、言ひたい事も言はずにゐるが、ムッソリニは、直裁明快、善い事は善いと斷言して、

直ちに之に賛成する。伊國代表者の言行は、近來水際立つて立派に見える。これは、獨裁政治と民衆政治の相違に因て、現はれた事象の一端である。かく申せばとて、私は決して獨裁主義に賛成するものではない。時あつて獨裁政治も、亦可なりと云ふ程度の賛成に過ぎない。此邊までは、ムッソリニの言行は、太だ善いが、是れから先きになると、彼も亦國際主義と調和せざる民族主義の主張者であつて、自國本位の考へ方が強すぎる。他國を害しても、自國だけ利益を得ようとするから、結局自他共に損害を被むる事になる。彼は曠世の傑物には相違ないが、尙ほ時代錯誤家の一人たるを免れない。それ故、伊太利にとつては、差引勘定餘り利益は、なからうかと思はれる。

(付記) ムッソリニ政治の評判が、餘り善いから、私は親しく其實況を觀察するため、先般一寸伊太利に遊んだ。私が、二十餘年以前に遊んだ時は、掏摸、強竊、乞食兒の類が、非常に多く、其上に市街も汚穢く、實に不愉快な國柄であつた。其當時私は或る友人に「掏摸と乞食と強請奴を合せて三分せよ。一人の伊太利人を得るであらう」と書いて送つたが、それが私の詐らざる當時の感想であつた。然るに、今回再遊して見ると、市街は善く清掃されて、殆んど英佛に劣らず、前には各所に散在してゐた乞食兒の如きは、影だに見えず、其上接觸する所の車夫、馬丁、ホテル及び飲食店の使用人に至るまで、以前とは全然別國人の如く、殷勤に振舞ふ

ものが多かつた。強窃盜、殺傷犯（黒シャツ組が其反對黨を殺傷する外は）の類も、大に減少したさうだ。市區改正、農工業の進歩改善も、亦著大なやうに思はれた。僅か十年にも足りない短日月中に、どうして、こんなに見違へるほどの事功（精神的及び物質的）を擧げる事が出来たのだらう？ 只管驚嘆の外はない、豪傑一人の力は、かくまで、偉大なものである事を、始めて悟つた。然し、ム氏のやり方には、無理が多い。其結果は、如何に良好偉大であつても、恐らくは永續しないだらう。今日直ちに之を謳歌するのは、輕卒に過ぎはしまい乎。況やムツソリニ未だ出でざる邦國に於てをや。

軍縮問題の前途

世界現在の最大問題は、何と云つても、軍備縮小である。帶甲百萬、列國みな虎視眈々たる間は、世界の不安状態は、決して除かれない。其經濟的困難も救はれない。誰れが何と云つても、是は争ふことの出来ない事實である。前車の覆轍にも懲りず、文明列國は、再び戦争をする積りなの乎。或は二度と再び、無益有害の戦争は、之を繰り返さなう積りなの乎。これが列國の死活の分れ目である。

ゼネヴァの軍縮會議、其他に於て論議する所を見るに、何れも皆な戦争本位の意見に非ざるはない。それほど戦争がしたければ、軍縮會議などは開かぬが、好い。

戦争をする積りで、意見を立てるから、列國の協同一致が六づかしくなるが、もし戦争をした積りで、考へるなら、一致點を見出すのは、決して困難な事ではない。文明列國間に、再び戦争が起れば、君主は位を失ひ、國家は滅亡する事、幾んど疑を容るべき餘地はない。然るに、それでも尚ほ戦争がしたいと云ふのは、何の爲めだらう？

どう考へて見ても、正氣の沙汰とは思はれないほどの不可思議事件である。畢竟戦争に因て、利益を得た舊世界の迷夢が、まだ覺めない爲めであらう。此迷夢が覺めず、戦争心理が止まない間は、今回の軍縮會議も、無効に終るだらうが、將來のもの、亦無効に歸するであらう。骨折り損の疲勞備け、そんな事は、迷夢の覺めるまで止めた方が、好い。

文化の進歩と國際裁判

古昔文化尙ほ卑低であつた頃は、強ければ、誰れでも、裁判には服従しなかつた。然るに、今日は何なる強者でも、國內に於ては、裁判に服従する。列國の君主すら、憲法法律には服従す

る。同じ人間でありながら、既往に於ては、此通りに變化してゐる。現在に於ても、文化進歩の現状に適應するだけの變化はしても、善ささうなものだ。いやさうしなければ、前段に於て數々繰返した理法と事實に因て、國家及び人類の生存は、將來不可能なのである。

現在國內的に實行されてゐる裁判服従の精神を擴張して、國際爭議にまで及ぼすのは、決して出來ない相談ではない。文明國人の智識道徳が、既に現在の程度まで進展した以上は、國際裁判も亦國內裁判も粗々同様の結果を生ずるに違ひない。然るに列國の政治家は、自己の功名心に驅られて、強ひて國際裁判の危険を高唱し、以て戰爭の原因を製造する。

彼等が、國際裁判に反對するのは、畢竟自ら不正の心を抱き、機會さへあれば、自己若しくは自國の爲に、不義不當の利得を壟斷しようと思へるからである。苟も俯仰天地に愧ぢざる心事を懷抱するならば、之に反對すべき理由がない。自ら不正不義を行はんと欲するものは、必ず常に他人の正義觀念を疑ふことになる。それも、不正不義の所業に由り、他國に損害を與へて、自國のみを利益する事が出來た時代ならば、下品下性の人間としては、仕方がないと諦めても好いが、最早やそんな事の出來ない現在の世界に於ては、餘りと云へば馬鹿々々しき次第、諦めようとしても諦められないではない乎。國際爭議も、國內事件と同じやうに、裁判に附して好ささうなものだ。

現に武力に由つて、無理を行ふ事の出來ない小國は、何れもみな國際裁判を歡迎する。種々の口實を設けて、之に反對するものは、武力に由つて、不正不義を行ふ事の出來さうな強國だけである。然も、それは出來さうに見えるだけで、實際は出來ない事は、獨逸帝國の覆轍を見れば、低能兒にも理解する。されば、何れの點より觀察しても、文明列國は、速かに國際裁判條約を締結實行すべきである。苟もさうさへなれば、軍縮問題の如きは、勞せずして自然に解決される。

小なる國際聯盟

愛蘭、印度、加那太、濠洲、南阿等の自治國は、名義は、英領であるが、事實は、一種の獨立國である。従つて所謂英帝國なるものは、一種の國際聯盟であつて、英人も自ら小なる國際聯盟と稱してゐる。愛蘭自由國は、會て歐洲大戰爭に乗じて、叛旗を翻へし、獨逸に内應したほどの民族であり、又カナダには、多數の佛人が居り、又南阿聯邦は、久しく英國と對抗した阿蘭陀民族の勢力下に在る。それにも拘はらず、現在は愛蘭の現政府を除いては、干戈に訴へずして、悉皆の問題を解決してゐる。又アメリカ合衆國は、各々獨立の立法權と行政權を有する四十八州の

聯合體であつて、一種の國際聯盟である。獨逸共和國も、各々獨立の政府を戴く三十有餘の國家と、自由都市より成る所の聯盟である。特に不思議なのは、南米諸國は、同じ歐洲人の植民地でありながら、各々別個の國を建てた爲め、屢々戰爭を起すが、北米合衆國は、聯盟組織を執つた爲め、互に親和してゐる。聯邦内の戰爭は、南北戰爭が、一回あつただけだ。同一學校の生徒でも、其寄宿舎を東西南北に分ければ、黨を結んで抗争するが、一寮の内に置けば、仲よく暮すと同じやうなものだ。詰り人間は、成長した兒供に過ぎない。

それは兎に角、其利害得失、風俗感情、中には民族までも相異なる所の數箇國、又は數十箇國が、右三例の如く、一種の小さな國際聯盟を作つて、戰爭なしに仲よく暮す事が出来る以上は、大きな方の國際聯盟でも、強大國が、無理な強情さへ張らなければ、總ての國際問題を協議と裁判に由て解決する事が出来る筈だ。而して其利益は、大小強弱の別なく、廣く全世界に及ぶのである。故に右三種の小聯盟の規約其他の實行方法を參酌して、大聯盟を改善したら好からう。其責任は、國際聯盟の發議者たる米國が採つて、今度は自分も之に加盟すべきであらう。

強大國民と弱小國民の優劣

どこの人間でも、大國強國の民となつて、威張りたがるが、空威張りを好むのは、劣等人物の特質に過ぎない。人間は、素質が下れば、益々威張りたがり、素質が上れば、愈々謙抑に赴くものである。下郎や足輕は殿様よりも威張りたがる。小弱國の民は、國力に依頼せずして、自力に依頼する。故に個人としては、強大國民に優るものが多い、貧家の子弟中に、富者の子弟に優るものが多いのと、同一の理由であらう。

私が四十五年前に、獨逸に遊んだ時には、獨逸人はまだ質素謙讓で、旅客に好感を與へる民族であつたが、其後二十餘年を経て再遊した時は、傲慢不遜にして、生意氣な者が多かつた。今回更に二十餘年を経て、遊んで見れば、前回とは變つて、意氣は稍や衰へたやうだが、頗る生意氣さが減少して、人に好感を與へる民族となつてゐた。私は國民は僅かの間にかくまで變化するものかと驚嘆した。

民族の性格は、國家の強弱と、正反對に、進退するものと見える。我が大和民族も、此事實を看取して、自ら反省する必要があるだらう。しかのみならず、白身義、阿蘭陀、諾威、瑞典、丁抹、瑞西等の公債は、強大國の公債よりも高價で賣買せられ、其人民の平均富力も、他の強大國民に優過するものが多い。租税は軽く、善は行はれ、人民の安全幸福なること、強大國民に優り

はするとも、劣りはしない。只缺く所は、高尙優美な文化的誇負は有つても、野卑陋劣な下郎的空威張りが出来ないだけである。又無法な敵國の攻撃を受けた場合に於ても、抵抗力の少ない弱小國の損害は、抵抗力の多い強大國より却て少ない場合もある。前回の大戰争に方り、白耳義の損害は、却て佛國よりも少なかつた。

又英國の強大を以てするも、尙ほ無抵抗主義のガンヂに對して、策の出る所を知らないのは、強者未だ必ずしも強ならず、弱者未だ必ずしも弱ならざる一例であらう。眞に經國済民の大業に任ずるものは、單に數世紀以前の舊思想舊感情のみに捕はれず、深く時勢の推移を看破して、時代相當の施設を爲すべきである。徒らに下郎や足輕を學んで、空威張りと劣情を満足させんが爲に、國家生民の眞誠の利益幸福を犠牲に供してはならない。

蠻人は、主として暴力に由て、其勝敗を決するから、腕力の強弱が、貴賤上下を分つ標準となるが、文化の進むに従つて、智識、道德、經濟力など、腕力以外に、人間の尊卑優劣を定むる各種の標準が出來する。將來文化が、益々進めば、各國々民は、徒らに武力や富力のみを誇らずして、其智識道德及び善良なる風俗習慣、則ち文化の高きを誇るやうになる。今日でも、其傾向は既に餘ほど強くなつてはゐるが、まだ足りない。將來は、必ず大いにさうなるに違ひない。否、否、心あるものは、さうなるやうに、盡力しなければならぬ。徒らに國家の強大や富裕のみを誇るは、未開人の遺習に過ぎない。

物資及び人類移動の自由

論旨は、少し横道にそれるが、論じて此に到れば、貧富強弱の國際的懸隔に論及せざるを得ない。自國の富強を誇るの心は、將來永く之を維持するのみならず、益々之を強大ならしめんと欲する心である。

然るに、文化の進運は、將來大いに貧富強弱の國際的懸隔を減小すべき傾向を示してゐる。此傾向は、國內的には、既に最も明白に實現してゐる。平等主義は、既に文明列國を風靡し、政治的平等より、更に進んで、社會的、經濟的平等に及び、世界到る所として、共產主義者を見ざるはない。好し共產とまでは行かずとも、貧富の懸隔を矯正防止して、成るたけ之を平均にしようとする社會的立法は、何れの國にも行はれてゐる。目下盛んに國內的に現はれてゐる所の此機運は、やがて國際的に擴及すべき性質を持つてゐる。文化の進運は、嘗だ國內に於て、成るべく貧富強弱を平均ならしむるのみならず、國際間の貧富大小強弱をも、亦成るべく之を平均せしめざ

れば、止まぬであらう。現在では、列國みな舊世界の迷夢に捕はれて、輸入制限、關稅障壁、移住制限、原料品專有等、經濟の原則にも、又正義人道にも背反する所の惡法を設けて、自國だけの富強を謀つてゐるが、其結果は、必ず惡い。現に佛國の如きは、輸入制限の弊害を悟つて、之を改めにかゝつてゐる。國內的に行つて惡いものが、國際的に行つて、善からう筈がない。それを善いと思ふのは、短見者流の妄想に過ぎない。

全世界の土地や物資は、元來人類總體の使用に供すべきものである。地球は決して亞細亞人の爲に、造られたものでもなければ、亦歌米人の爲に、造られたものでもない。此簡明なる原則は、文化の進むに従つて、理解實行せられるのである。現在でも、古昔に比すれば、既に大小實行されてゐるが、將來は、益々大いに實行されるに相違ない。此進運に對する最大妨礙物は、自國の強大を誇る下郎的心情である。苟も此心情ある以上は、さうとは知らずして、頻りに列國間の平等化平均化を妨礙する事に爲る。

所で、先づ考へなければならぬ事は、我國の如く、領土狹小にして、而も物資豊富ならざる國人の利害である。

(イ) 割據主義に因て、狭く守るが好い乎。

(ロ) 共存共榮主義に因て、列國人と共に全世界の土地物資を使用する方が好い乎。
兵力だけは、やり方に因ては、英米を凌駕する事も出来ようが、領土、物資に於ては、到底英米に對抗する事は出来まい。如何に奮發しても、百年や二百年では、出来ない。されば自國の強大を誇るの心を止めて、國際主義を高唱し以て全世界の土地物資を共用する方が、好からうではない乎。

籠城主義や、孤立主義は、英、米、露、支の如き廣大なる領域と、豊富なる物資の所有者には、好いかも知れないが、(それすら疑問) 其正反對である所の我が日本には、適當しない。螺螄の籠城は、枯魚の市に上る憂がある。それよりも、文化の進運に乗じて、開放主義の急先鋒となり、全世界の物資人類の自由移動を主張し、實行せしむる方が、宜しい。それには、先づ強大を誇るが如き野蠻固陋の遺習を洗除し、小弱國と共に、正義の大道を濶歩しなければならぬ。これが世界を救ふと同時に、自ら救ふ日本の使命である。

現在列國が、文化の進運に背いて、施設する各種の妨礙物を排除して物資人類の移動を自由にすれば、一方に於ては世界の經濟的復活を助くると同時に、他方に於ては、漸次列國間の貧富の大懸隔を矯正する事も出来る。又軍備縮小は、列國間に於ける強弱の懸隔を減小し、其撤廢は、

之を平均に導く。而して其結果は、全世界全人類の安全幸福を増如する事になる。知らず、我國人は、此大使命を成就する意旨なき乎。孤立乎、共同乎、籠城乎、進出乎、讀者請ふ之を再思三考せよ。

第三 世界的進展の最大要具

既に過去及び現在の日本に満足せずして、更に進展せんと欲し、又蠶繭的籠城主義を排斥して廣き世界を相手に横行濶歩せんと欲する以上は、此目的を達するが爲に、必要な道具を撰擇しなければならぬ。孟子は「工其事を善くせんと欲せば、先づ其器を利くす」と言つたが、誠に名言だ。飛行機や、タンクや、毒瓦斯や、遠距離大砲が、なければ、如何なる名將勇卒でも、今日の戦争に勝つことは出来ないが、日本の大進展も、それに必要な道具がなければ、成功する事は出来ない。さて、將來日本の大進展を計るために、何が最も必要乎と考へるに、内に於ては、知識開發に、外に對しては、談話通信に、最も簡便な道具が必要だ。此兩者が、他の民族以上に不便不利であつては、平和的競争の優勝者となることは、出来難い。是に於て、民族發展の最大要素の一として、我が文字及び言語を研究しなければならぬ。

日本の文字及び言語

世界廣しと雖も、現在日本民族が使用してゐる文字及び言語ほど、知識開發、及び國際的談話通信に不便なものはないからう。今試に之に關する事實の一端を舉示して見よう乎。

(一) 英米人は、アルハベット二十六字を覚えれば、之を組合せて、何んでも書けるが、吾人は假名だけでも、四十八字覚えなければならず、漢字は、凡そ一千五六百字覚えなければ、普通の手紙も書くことは出来ない。小學兒童をして之を學習させるためには、凡そ二年の月日を要する。

(二) 英語の如き比較的難澁なものでも、五百語學習すれば、大抵の文章は書けるさうだが、日本語は、多くは漢字を組合せて出来てゐるから、一千五百乃至二千の漢字と、其組合せたもの幾千個か覚えなければ、文章を書くことは出来ない。

(三) 漢字の字畫は、一字にして十畫以上のものが、甚だ多いから、文書を認めるのに、歐米人に比すれば四五倍の手續と時間を要する。これは、人間一生脱免する事の出来ない不便利である。文筆を業とするものは、一生涯の内にとれだけ損をするか知れない。

(四) 右の次第であるから、タイプライター其他類似の文明の利器を使用する事が、極めて困難になる。

(五) 歐米諸國人の如く、二十六の活字を取扱ふのと、日本人の如く二千以上の活字を取扱ふのとは、印刷業の上にも、非常な便否損得がある。

(六) 漢字だけでは、讀み得ないものが多いから、廣く讀者を求むる所の新聞紙の如きは、振假名を付けて二重印刷の手續を要する。又名刺などは、ふり假名なしで、正しく讀めるものは少ない。故に選舉競争に際しては、候補者の姓名を、漢字で書き、其左右に、片假名と、平假名を付ける人が多い。日本以外に、名刺を三重に書くことを要する國が、何所かにあるだらう乎。

(七) 折角二、三千の漢字を習つても、普通には、之を譯讀するから、漢籍を讀むことは出来ない。又偶々音讀しても、日本以外何所にも通用しない奇音を付するから、全世界共通の支那の地名人名も、日本人だけには通用しない。

(八) 同じ漢字でも、支那人は四聲の音讀だけで済むが、我が國人は、音の外に、字毎に四五種乃至八九種の訓を覚えなければならぬ。而も折角覚えても、日本以外には、何れの所にも通用しない。

(九) 盲人學校の生徒は、普通の小學校では、六ヶ年費さなければ、教へることの出来ない課程を、四年で終了するさうだ。漢字や、假名の代りに、點字を使用するからだ。目の見える兒童は、片輪ならざるがために悉く二年づゝ損をするのである。同じ目明きでも、漢字でなく、ローマ字で教へれば、小學六年の課程は、盲人同様、矢張り四年で終了するさうだ。

(十) 漢字を使用するため、之を組合せて製造する所の言語は、際限なく増加する。「一軒屋」の事を「獨立家屋」と云つたり、植木屋が庭樹の手入れをする事を「剪伐」と云つたり、飛行機倉庫を格納庫と呼んだり、説明を釋明、構造を機構、演説、講演、説教、講義、講義等、同じやうな事を、幾様にも言ひ換へて、自分も迷惑し、他人にも迷惑させる。

(十一) ローマ字で書けば、一つの α で済む所を κ ウ、 κ ヲ、 κ フ、 κ カウ、 κ カヲ、 κ カフ、 κ 香、 κ 高、 κ 宏、 κ 廣、 κ 弘、 κ 講、 κ 搆、 κ 公、 κ 侯など、數十乃至數百の κ がある。之を見分け聞分けることは、非常の難事であつて、而も何等の效益もない。

(十二) 漢字には、古來の習慣上、種々な惡辭が付着してゐる。而して誇張と、茫漠は、其最大缺點である。例へば、長壽を「萬歳」、治世の古いのを「萬世」、免職を「誡首」と云ふが如く、常に大仰な言ひ方をしてゐるから、事實に十倍百倍する所の言語を使はなければ、其意味を通ず

る事が出来なくなる。従つて言語の意味が、茫漠不明に赴かざるを得ない。現に國際條約其他の約束書を、日本文又は支那文で書く時は、常に英文又は佛文を添加し、文意に就て疑義が起つた時は、歐文に據る旨を特記する。畢竟漢字系の言語は、茫漠不明なものが多いからである。單に其一端を擧げて、右の如き缺點だらけの言語文章を使用する以上は、學校内外の教育事業には、凡そ二倍の力を用ひなければ、歐米人同様に、知識を進める事は、出来まいと思はれる。知識が進まなければ、獨り道徳だけを進めることは出来ないから、結局文化の進歩に於て、歐米諸國と對抗する事は出来なくなる。内に於ては、文化の進歩が後れ、外に對しては、談話通信の便利を缺く以上は、到底世界の大舞臺に濶歩横行する事は出来なくならざるを得ない。

漢字廢止の必要

漢字、及び之を基礎として發達した日本語に、特別の缺點がないと假定しても、日本以外には、何所にも通用しない事だけは、慥かである。支那とは、同文同種だなどと云ふが、我が言語文章は、支那にすら通用しない。固有名詞だけは、目には通用するが、耳には通用しない。全世界の人が理解し得る支那の固有名詞も、日本人の耳だけは、之を理解し得ない。所で讀者の一考を

煩したいのは、

茲に個人にして、一切他人に通用しない言語文章を使用するものがあると假定したら、其人は、立派に世に立つて行く事が出来るや否や、

と云ふ一事である。誰れが考へても、其人は實際の働き方に於ては、啞者にして、文盲を兼ねるものであつて、資産がなければ、生きて行く事すら困難だと鑑定するだらう。況してや、他の世間普通の言語文章を使用する人々と競争して、優勝者となるが如きは、思ひも寄らない次第と鑑定せざるを得まい。

茲に一個の民族にして、一切他國に通用しない言語文章を使用するものがあると假定せよ。其民族は國際的には、前記の個人と殆んど同様に困難な位地に立つてゐるのではあるまい乎。

若し、其國の資源が、豊富ならば、前記の個人が、相當の資産を持つてゐる場合と同じく、どうか、かうか、生きては、行けるだらうが、到底國際的競争場裡の優勝者となる事は出来まい。

現在の世界的經濟組織では、米國及び英帝國の如く、廣大な領域を有し、而も資源の豊富な國家ですら、自給自足主義で繁昌する事は不可能だ。否、全世界を相手に賣買取引をしてすら、各々數百萬の失業者を生じ、苦心慘愴、救済の道なきに苦しんでゐる。況や領土狭小にして、資源

貧弱なる我が日本帝國に於てをやだ。而も前記の假定は、假定ではなく、日本帝國の現状である。日本の言語文章は、一切他國に通用しないのみならず、資源貧弱にして、食料品すら不足する。

此の如き状態であつては、世界に雄飛するどころではなく、満足に生存して行く事すら困難な筈だ。果せる哉、現在既に非常な困窮に陥り、全人口の大半を占むる農民の如きは、生活苦に呻吟してゐる。それでも尙ほ「全世界を相手にして一戦すべし」と豪語するものがあり、其贊成者も亦少なくない。其勇や愛すべく、其愚や驚くべし。

現在の事實を靜觀せよ

右に略述した丈けでも、漢字使用のために生ずる國家の損害の重大なる事は、ほぼ明瞭だらうが、尙ほ世人の參考に供すべき一事がある。それは現在帝國の世界的進歩の第一線に立つて、働いてゐる人々が使用する言語文章である。感心な事には、我が同胞は、進展上世界無類の不便不利な位地に居るにも拘はらず、經濟的にも、政治的にも、又學藝的にも、國際場裡に相當な地歩を占めてゐる。世人請ふ試みに此等の先鋒隊が使用する通信機關則ち言語文章を一瞥せよ。漢字乎、萬葉語乎、將た現在の日本語乎。

學者は、歐文を以て、其研究の結果を發表し、外交官は、凡て外國語を以て、樽俎折衝し、對外商業も亦、凡て外國語を以て談判取引を爲してゐる。三井三菱を初めとし、世界を相手に商業を營み、立派に成功してゐるものは、可なり多いが、何れも皆な外國の言語文章で商取引をしてゐる。我が國固有の言語文章では、世界を相手にして發展する事は出来ないからである。既往及び現在の小發展に於て、それが必要なら、將來の大發展に於ては、尙ほさら必要な筈である。

日本語を改良し、日本人をして、世界的活動の便利を得せしめる爲には、先づ其病源たる漢字を廢止しなければならない。將來日本語を改良するためにも、漢字廢止が、其先決問題となる。現在各新聞社が、漢字の使用数を制限してゐるのも、漢字の害毒を認識するからである。出来る事なら、全然廢止したいに相違ない。禁酒の代りに、節酒する程度の姑息手段に過ぎないのだらう。

漢字廢止後何を採用すべき乎

世に漢字ほど、有害な文字はない上に、日本輸入後、それが濫用せられ、及び訓讀せられてから、益々有害なものとなつた。故に漢字さへ廢すれば、其後に採用すべきものは、假名でも、ローマ字でも、何んでも差支ない。

假名は、字畫が少なく、發音が簡便であるから、之をタイプライターに仕組みば、速記符號に依らずして、演説を速記する事も出来るさうだ。速記符號に代用する事の出来る文字は、全世界を通じて假名以外にはなからう。

日本人は、こんな好い文字を工夫したにも拘はらず、廣く之を使用せずして、今に尙ほ複雑不便なる漢字に依頼してゐるのは、愚の骨頂だ。假名を以て、教育すれば、現在の小學課程は、四年で終了し、残り二年は、それ以上の課程を教へる事が出来よう。年限と經費に於て、多大の節約を爲し得るのである。

世間には、假名では、複雑した重要な事項を記述する事が、困難だと、思ふものがあるかも知れないが、それは、以ての外なる考へ違ひである。古來假名のみを以て記述した名著が、澤山あるのみならず、現在でも、最も大切な要務は、大抵假名に由つて通信されてゐる。國運の盛衰に關する外交文書も、又數百萬圓乃至數千萬圓の損得に關する商業取引も、概ねみな電報に由つて、通信決定されてゐるが、電報は、總て假名か、ローマ字を使用する。而して毫末の支障も、生ぜぬではない乎。

假名とローマ字の優劣

専門家をして、詳細に検討させたなら、假名とローマ字の間には、多少の優劣があるかも知れないが、私は、二者それ自身の優劣よりも、寧ろ世界的通用區域の廣狹大小に據て、其取捨を決定したく思ふ。私は、是非共我が同胞に與ふるに、世界的發展に必要な諸般の道具を以てしたので。それには、文字の如きも、成るだけ廣く世界に通用すると同時に、彼我の言語を交換する爲に比較的便利なものを採用したく考へてゐる。又文化の進歩に依つて、將來世界が益々縮小すれば、言語文章の如きも、互に相接近し、遂には世界共通語を生ずるに至ることを信じ、且つ此進歩を促進させたく思つてゐる。此見地より考慮する時は、縦へ假名の方に、多少の長所があるにしても、尙ほローマ字を採用する事が、日本民族將來のために好からうと思ふ。然し我が日本民族にして蠶繭的籠城主義を執つて、將來永く島帝國内に蟄居しようと思へるなら、文字も言語も成るだけ世界に通用しない特殊物を選択する方が好い。若しさうではなく、民族の大發展を希望しながら、特殊不通の文字言語を固執するのは、河を渡らんと欲して、舟筏を毀つやうなものである。

土耳其の先例

世界大戦争以後、突如として、世界に躍出した豪傑は、伊太利にムッソリニがあり、土耳其にケマル、パシヤがある。獨逸のヒットラーも、彗星の如く躍いてはゐるが、まだ未知數だ。而して土のケマルは、先年トルコ文字を廢して、ローマ字を採用した。此一事以て彼が世間普通の豪傑以上に一頭地を抜いてゐることを證するに足る。彼は武將でありながらトルコ民族に與ふるに、平和的世界發展の一大武器を以てした。これは所謂國家百年や二百年の長計ではなく、苟も該民族の生存する限り、千年萬年の久しきに亘つて、常住不斷の利益を生ずべき長計である。土耳其には、此の如き大改革を斷行するために、特殊の便利があつたのではあらうが、ケマルが採つた手段や時機も、亦好かつたに相違ない。彼は殆んど何等の犠牲をも拂はず、突進の間に、此大事業を完成した。實に驚くべき大成功と評せざるを得ない。

日本語の整理改良

漢字を廢して、ローマ字を採用すれば、漢字を基礎として、際限なく製造した難澁不可解にし

て、且妥當ならざる日本語は、漸次整理減少せられるに相違ない。明治二十年頃までは、日本でも、熟語と稱して、古來慣用し來つた成語の外は、成るべく之を使用しないのが、學者間の不文律となつてゐた。支那では、日本に行はれるやうな新造語を以て、風教を害するものとなし、之を嚴禁した總督すらあつた。

日本でも、私達が執筆してゐた報知新聞社では、私達の使用する音語が、妥當であるや否やを鑑定させ、若し不穩當と認められた時は、之を訂正させるために、支那人を雇つてゐた。明治十八九年の頃である。日本語の當否を判断させるために、支那人を聘用するのは、餘り馬鹿げすぎるやうだが、亦以て當時の日本人が、如何に新語の濫造を警戒したかを察知する事が出来よう。昔は訓讀みの言葉をば國語、音讀みの言葉をば漢語と云つた。支那人を雇つて置いて、其當否を鑑定させたのは、此漢語の方であつた。兎に角此警戒心は、自然悪語の増加を豫防し、日本語の純潔性を維持する效能があつた。

佛人は、佛語の純潔を維持するために、古來多大の苦心を費してゐるが、現在でも未だ學士會の認許を得ざる新語は、公式には佛語と認めない事になつてゐる。言語の善悪は、民族の心情に影響し、且國家の品位にも關係するからだ。

近來、伊太利や、土耳其の祖國主義者は、國語純化の必要を唱へ、外國起源の言語排斥に着手してゐるが、若し我が國の祖國主義者が、こんな惡風に感染して、國語の純化運動を始めたら、日本語は、七割八割まで無くなつて終ひ、日本は聾啞、盲、兼備の國となるだらう。私の云ふ日本語の整理改良は、こんな鎖國の頑固運動とは、正反對の精神を以て、將來の世界的發展に、便利を與へるのが、其目的である。故に其言語は、成るべく簡單明瞭にして、而も世界共通になり易いものを好しとする。

然るに、近來の我國人は、數萬の漢字を、銘々勝手に組合せて、新語を粗製濫造する。言語が、自然に醜惡に赴き、心情も亦自ら之に感化せられるのは、怪しむべき事でもなからう。今漢字を全廢して、特殊の専門家以外には、國中復た之を知るものがないやうになれば、右の弊害は、自然に免除せられると同時に、日本語は、大いに整理改良される。特にローマ字を採用する時は、日本語を外國に弘め、又外國語を日本に輸入し、以て、大いに列國の言語を接近せしめる事が出来る。其結果は國家文運の進歩を助けると同時に、我が同胞に世界的發展の便利を與へる事にもなる。

(一) 漢字と思想の關係

支那は、今より二千四五百年以前に、孔子を生んだほどの舊國であつて、其文化も、我が國に比すれば、遙かに早く進んで居つた。今より千六百年あまり以前に、漢字が、始めて日本に輸入された頃は、日本は、まだ文字すらない未開國であつたのに、支那は文物燦然既に其文明の絶頂に達してゐた。かくて文野の相去ること、頗る遠かつたから、我國人の支那崇拜熱が、非常な高度に昇つたのは、別に怪しむべき事でもない。其程度は、明治初頭の歐米崇拜熱とは、比較にならないほど高かつた。昭和年代に眼は一丁字なく、讀む事も、書く事も、一切出来ない壯漢があつたと假定せよ。世界は、隨分之を輕蔑するだらう。然るに、日本が、朝鮮を経て、始めて支那と接觸したころは、日本には、まだ文字がなかつたから、全國悉く右の壯漢同様に、無學文盲であつたのだ。然るに、支那は、既に秦、漢、三國、東西兩晋を経て、隋唐の世とならんとし、支那としては、空前絶後と云つても、差支ないほどの文明國であつた。

此兩民族が、一朝突然接觸したのだから、我等の祖先が、愕然として自失し、一切萬事支那を學ばんとしたのは、當然の次第であらう。是に於て、制度、法律、風俗、習慣、悉く支那式に改定せんと欲する思想を生じ、年號までも、支那を學んで、之を新設し、天皇陛下の御即位ごとに、之を改定する事にした。神武天皇の御即位より初め、順次に年を追つて、年數を呼べば、誰れに

も理解が出来て、誠に便利であるのに、何の必要もないのに、支那式の年號を設けたから、朱鳥八年、天正十年、安永六年などと折角書いても、何時ごろの事か、大抵の人には分らない。加之、支那では、他國が、支那の年號を、其まゝ採用する事を「正朔を奉ずるもの」と稱して、其國が、支那の屬國となつた證據と爲してゐる。日本は、支那の正朔を奉じたのではなく、別に支那流の年號を制定したのだから、屬國の禮を執つたわけではないが、支那人の目には、半屬國の禮式位には見えたであらう。支那が、足利氏や、豊太閤を、日本國王に封じたのは、支那ばかりが悪いのでもないやうだ。何れの點から見ても、無益有害な年號などは、一日も早く廢棄したいものだ。其本家本元たる支那では、疾くの昔に之を廢棄した。此點では、日本の方が後れてゐる。漢字の如きも、支那には、日本より先きに、廢して見せると、傲語してゐる學者もある。

誰が考へても、無益有害なるべき年號すら、吾等の祖先は、支那心酔の餘り、之を設定したほどだから、其他の事物に、支那式のものが多いのは、無理もない。一月の七草は、賈生に基因し、端午の節句は、屈原に基因し、古稀の祝賀、重陽の宴、其根本は、悉く支那に在る。各地の風土記に載せてある化け物の中には、支那産のものが多い。徂徠が自ら稱して「東夷の物茂卿」と云へるが如きは、怪しむに足らない次第と思はれる。

漢字の意義茫漠なると、其使用法の誇張なるがために生ずる思想上の弊害は、前にも略述して置いたが、尙ほ其外に、古昔の支那崇拜時代一千年あまりの間に、涵養し來つた思想上の惡癖は數へきれないほど多い。それ等も、漢字を廢止しない限りは、容易に洗濯することが出來ない。

申すも恐れ多い次第ながら、天皇陛下を初め、皇族方の御名は、大抵支那の古典に據つて、御選定遊ばされる事に定つてゐるやうだ。國辱と云ふほどの事でもないが、耻かしい次第ではある。全世界に通用する耶蘇紀元を使用する事すら、國辱などと稱して、騒ぎ立てるもののある世の中に於ては、餘りに辻褄の合はない仕方かと思はれる。漢字を使用する以上は、こんな不都合な事は、まだ此外にも澤山ある。

(二) 漢字廢止と思想的獨立

私は、少年の頃京都の御所を拜觀し、其一室に、功臣の肖像が、多數掲げてあるのを見た。然るに其肖像は、何れも支那の賢臣名將であつて、日本人は、一人もなかつたやうに記憶する。又日本各地の舊家の襖や屏風等を見るに、其畫く所は、概ね支那の山水、又は人物であつて、日本のものは、極めて少ない。又孝子の手本としては、必ず支那の廿四孝を畫き、日本の孝子は、養老の瀧波み童子位に過ぎない。此傳説すら、其本元は、支那思想の轉化かとも疑はれる。日本に

も、忠、孝、仁、義、禮、智、信等の働きを言ひ現はすべき言語はあつたに相違ないが、其言語が、幼稚すぎた爲めか、但しは支那崇拜熱が強すぎた爲めか、何時か消滅して終つて、今日では、世間一般に、支那語を使つてゐる。其他、現在吾等の日常使用する言語の大半は、漢語、則ち支那からの輸入語である。其道の専門家たる與謝野寛氏の研究に據れば、日本語の全部ではなくとも、其大部分は、支那語の轉化したものださうだ。

言語は、本來思想に基因して生産發達したものであらうが、思想は亦言語に由つて、發達養成せられるのである。其本末の争ひは、鳥と玉子は、何れが本家かと云ふ争ひと同一だ。此所では、そんな閑問題に觸れることは止めて、只「言語と思想とは、離るべからざる關係を有し、相互に大いに影響するものである」と云ふ事だけきめて置いて、論歩を進めよう。さて我が言語の多數が、漢字に基ける漢語である以上は、吾等は、勢ひ支那思想の感化を受けざるを得ない。現在日本の民族は、所謂天孫人種、アイノ、コロボツクル、朝鮮人、支那人、波耳西人、等の混成物である。従つて排外思想は、元來淺少なるべき筈であるが、支那人が、獨り自ら尊大に構へて、自國人以外の民族をば、東夷、西戎、北狄、南蠻などと貶稱し、侮蔑し來つた文字と思想に感染して、日本人も亦排外熱を高め、之を言ひ現はすに「攘夷」と云ふ漢語を以てするに至つた。

加之、物事を考へるに方つては、言語が必要だが、吾等は、常に漢語を多く使用してゐるから、勢ひ漢語で考へざるを得ない。其上、我國人は、一千四五百年の久しい間、支那思想を以て、教育されてゐるから、孔孟及び諸子百家の感化は、意外に深く心に浸みこんでゐる。何人も之を意識しないやうだが、我國人の多数は、支那古代の思想に由つて、事物の判断を下し、且つ支那輸入の言語、即ち漢語を以て考へてゐる。イヤ「大義名分」がどうだとか、「臣節がかうだ」とか「正義人道」云々とか「國家百年の長計が云々」とか「天壤無窮」とか云ふが如きは、悉く日本に採用された支那語である。特に残念に堪へないのは、我國の古代史が、古事記日本紀を始めとし、何れも皆な難澁な支那語を以て、書かれてゐる一事である。歐洲にも、古代には、ラテン語で、著述をした事例もあるが、そんな事は、誰れがやつても、善くない事だ。日本人の支那文は、固より支那人より拙劣だ。少しでも巧妙に書かうとすれば、勢ひ支那人の筆法を生呑活割せざるを得ない。既に用語文章を模倣すれば、自然に事實までも模倣製造する事になつて、茲に精神的奴隷が出現する。

試みに我國の漢文歴史に説述せられたる著名の人物を瞥見せよ。楠正成は隴陽の張巡の再生でもあるかの如く、又加藤清正は、關羽と異名同人なるかの如く誓いてゐるではない乎。畢竟孰

筆者が思想的奴隷となつてゐるから、こんな書き方をするのである。將來大いに日本を進展させるには、どうしても先づ思想的に獨立させなければならぬ。漢語に由つて、古代の支那流に考へてゐる間は、大進展は、到底困難だ。而して漢字を廢棄しない限りは、思想的獨立は出來難い。

(三) 事實が何よりの證據

吾等日本民族は、他の文明を選擇し、採用し、消化し、改善し、及び環境に適應させる事に就ては、特別の長所を持つてゐる。故に支那の文明を採用するに方つて、心酔盲従、幾多の失策を重ねたにも拘はらず、尙ほ能く之を消化して環境に適應するやうに修正した。さうして、動もすれば出藍の青と評しても差支ないほどの結果を得た。制度律令より仁義忠孝の道德教に至るまで、日本の方が、支那よりも良好の結果を生じたものが多い。言ひ換れば、支那の文化は、移植地に於て、却て本國以上の花を開き、實を結んだのである。

それにも拘はらず、支那文化の採用以後、一千四五百年間の日本は、如何なる状態であつた乎。歐米諸國は、此永い年月の間に於て、非常に發展したが、日本は、依然として衰頹たる東洋の小國に過ぎずして、支那からは、屬國同様に視られてゐたのだ。如何に、自慢がしたくても、自慢の出来る位地には、昇進しなかつた。それも其管でこそあれ、我が國の學者輩は、十中八九ま

まで、支那に師事し、聖人の出生地として支那を崇拜してゐた。學者既に然り、衆愚素より然らざるを得ず。何百年経ても、支那と對抗するだけの國柄とすらならなかつたのは、怪しむに足りない次第であらう。

然るに、形勢俄然一變して日本は、世界の檜舞臺に於て、五大役者の一つとなつた。建國以來二千五百年あまりかゝつても、出来なかつた事が、どうして、明治年間に至つて、突然出来るやうになつたの乎。一千四五百年の久しい間、支那のお弟子であつた所の日本が、何に故俄然一變して、其先生となり、數萬の留學生が、支那から来るやうになつたのだらう。虚心平氣に考へれば、すぐに分る。

文明を後ろに求めずして 前に求めたからである。

東洋を學ぶことの代りに 西洋を學んだからである。

私も、東洋人であるから、こんな弱音は吐きたくない。然し、國家の隆昌を圖るためには、いやな事でも、眞實の事は、言はなければならぬ。

同文同種之國として、千四五百年間、師弟の如く交際して來た日支兩國の中、日本は、明治以後、支那を學ぶことを止めて、歐米を學んだ。支那も少しは學んだが、自國の文明を持つてゐる

るだけに、眞劍味が足らなかつた。日本は、一生懸命西洋を學んだ。此學び方の相違が、やがて明治廿七八年役の勝敗となり、又其後に於ける兩國の優劣となつたのである。苟も正確な此事實を認識するものは、日本の取るべき前途の方針に就て、寸毫の疑念を挿まぬであらう。

日本は歐米の文明を採用し、其仲間入りをしたから、現在の位地を得た。

今之を脱退して、亞細亞に歸れば、再び支那印度のお弟子となつて、絶東に蟄居するより外はない。

其上現在の世界的經濟組織の下に於ては、日本は、孤立しては、現状を維持する事すら困難だ。

(四) 世界語の選擇及び製造

現在でも、優秀な飛行船を以てすれば、七日以内で、世界を一週することが出来る。遠からずして、二三日間で、世界一週が出来るやうになるだらう。既に一晝夜で、出来ると、云つてゐる者もある。文明の進歩に依つて、世界は、かくまで縮小し、四海同胞萬國一家となるべき形勢を示してゐる。然るにも拘はらず、數年かゝらなければ、世界を一週する事の出来なかつた時代の思想感情に捕はれて、列國各々言語を異にし、往來交通、有無交換の自由を妨碍するのは、餘りと云へば、智慧の足りないやり方である。加之、ムッソリニの如きは、外國出の伊太利語をば、

悉く之を排斥しようとする願いである。先きにローマ字採用の大英断を施したケマルまでが、國語尊
化運動と唱へて、外國かぶれのトルコ語削除に熱中してゐる。彼等ほどの豪傑には、不似合な偏
狭固陋さであり、又時代錯誤であるが、畢竟民族主義の狂熱に冒されてゐる結果であらう。こん
な狂熱患者は、格別として、苟も冷靜に世界人類の幸福を考へ、又自國の發展を希望するものは、
誰れでも共通語の必要を思ふに相違ない。然らば、共通語設定の方法はと考へるに、

現行語又は理想語中より、最も便利なものを、一つ選擇して、之を國際聯盟の用語と爲し、同
時に聯盟加入國は、凡て之を第二の國語として、小學の必修科目に加へるが好からうと思ふ。

歐洲列國中には、自國語以外に一二の外國語を教へてゐるものが多い。日本でも、中學以上の
學校では、大抵外國語を教へてゐる。私は聯盟加入國は、何れも一定の外國語を教へることを希
望する。さうすれば、それが、やがて世界列國の共通語となるだらう。次は、何れの國語を選擇
すべき乎の問題となる。現行語の内では、佛語が、最も流麗雅馴であるのみならず、會て一たび
列國外交上の用語となつた事もあるから、之を採用して、國際聯盟の用語と爲し、列國何れも第
二國語として、小學の必修科目に加へる事に協定しても好い。又英語は、佛語ほど流暢ではない
が、其通用區域の廣い事は、世界第一であるから、佛語の代りに、英語を採用しても、好い。實

際は、其方が便利だらう。然し、民族主義や、祖國主義の狂熱が、まだ覺めきれない今日では、
現行語の採擇に關しては、列國間の嫉妬的感情から、不愉快な反對が起るだらう。馬鹿げた事だ
が、馬鹿げてゐるだけに、仲間が多いから、反對の勢力は、意外に強からう。果して然らば、現
行語よりも、寧ろ理想語を採用する方が、實行し易いであらう。

理想語と云へば、先づ 에스ペラント語であらう。外にも更に一層簡便な理想語があるさうだが、
私は 에스ペラントで結構だと考へる。其選擇は、國際聯盟に於て、其道の専門家を以て委員會を
設け、之に一任するが好からう。要するに、どの理想語でも好いから、國際聯盟加入の五十餘ヶ
國が、第二國語として、學齡兒童の必修科目に加へさへすれば、其理想語は、忽ち世界語となつ
て、全世界の人類に、偉大な便利を與へるに至るだらう。特に外國語に未熟なるため、國際的活
動に於て、常に非常の不利不便を被むつてゐる所の、我國人に取つては、他國人に倍蓰する便益
があらう。聞く所に據れば、歐米現行語の練習に於ては、我同胞は、何れの國人にも企及し能は
ないが、 에스ペラント語なれば、他國人と立派に競争する事が出来るさうだ。英、佛、獨、伊等
の現行語は、二三年間學習しても、我が同胞には、満足に話すことも出来ないが、 에스ペラント
語なれば、二三ヶ月にして、粗ぼ要務を辨ずる事が出来るさうだ。此等の點も、吾人の考慮を費

す價值がある。

世界的發展の精神と道具

明治の第一維新に由つて、日本は、絶東に蟄居せる一小帝國より進展して、世界の五大強國に列するに至つた。昭和の第二維新に依つて、吾人は、經濟的にも、産業的にも、學藝的にも、全世界の優秀國に列せねばならぬ。それが爲め最も必要なのは、島國蟄居の舊精神を止めて、世界雄飛の新精神を養成する事であり、次に必要なのは、此新精神を實行するために缺くべからざる道具である。精神だけあつても、道具がなければ、船なくして、海を渡らんと欲するも同様で、到底其目的を達する事は出来ない。又如何に、道具だけ備具しても、其精神がなければ、恐海患者に船舶を提供するのと同様で、何の役にも立たない。既に島國蟄居の民族主義を擴大して、世界雄飛の國際的精神を涵養し、又世界共通語を作つて、談話通信の便利を擧ぐれば、茲に精神と道具が兼備する事になる。昭和維新の功業は、必ずや明治維新の功業に優越するであらう。

明治年間の功臣は、如何なる大人物でも、只僅かに歐米の現状を一知半解した丈で、未だ充分に之を理解する事すら爲し得なかつた。故に一切萬事、歐米諸國に追従して、只其及ばざらんことを是れ恐れたに過ぎなかつた。これは彼等の罪ではなく時勢の然らしむる所、無理からぬ次第である。

現在の吾人は、列國と親交して、既に六十年を経過したから、前人に比すれば、歐米の事物に對して、一層深切な理解を持つてゐる。其上に前途の形勢も、ほぼ之を洞見し得るの明を持つて居る。故に吾人は心懸次第で、前人の追従方針を一變して、世界の先達となる事も出来るのである。

前人未會の此好位地を利用すると否とは、只吾人の心掛け一つに由て定まるのだ。讀者の再三考されんことを熱望する。

(一) 將來の大發展に必要な心掛

帝國を隆昌ならしむべき道は、之を過去に求めずして、將來に求めなければならぬ次第は、既にくどくしく絮説したが、尙ほ一應反覆して置く方が好いやうだ。

人間の感化力は、文字と言語より來るほど、廣く且つ深く及ぶものはない。而して支那は、古來、文明を過去に求め、隆昌を堯舜時代に求めた國柄である。元來人間は、兎角過去を戀しがる性癖がある。老人達も動もすれば「俺達の若い時には」とか「世が末になつた」とか云ひたがる

のは、過去戀慕の證據である。又誰れも知らない未來を目指して進めと教へるよりは、堯舜時代は、こんな好い世の中であつたから、そこに歸れと教へる方が、子弟に安心を與へ、之を誘導し易い。故に支那流の、文明を過去に求める教へ方は、頗る巧妙には相違ないが、其弊は、保守固陋に陥り、國家の進運を妨碍する事になる。然し、我國人は、後る同きの支那的感化を、千四五百年も受け來つたのだから、注意の上にも注意しないと、前に進まずして、後るに戻る事になる。現在「建國の昔に還れ」とか、又「亞細亞に歸れ」と云ふが如き途方もない言説が、行はれ、それに相當多數の贊成者があるのは、其證據である。

日本が、明治以後大いに進歩發達したのは、建國以來未だ會て見た事も、聞いた事も無い歐米の文明を採擇し、消化したからである。今若し亞細亞に還つて、歐米の文明を拒絶すれば、日本は再び蕞爾たる絶東の小帝國に復歸するであらう。

(二) 所謂物質的文明と精神的文明

歐米列國の同伴を脱して、亞細亞に還れと云ふ者の中には、其説を援けるために、歐米の科學的文明に與ふるに「物質文明」の惡語を以てし、亞細亞の文明を稱するに、「精神文明」の美辭を以てするが、形容詞を外にして、實質上果して如何なる事物を指摘する乎。

いかさま、歐米諸國に於ける科學及び機械の進歩は、政治、經濟、外交等に現はれる所の思想的進歩に超越してゐるに相違ない。科學の力は既に世界を古代の百分の十以下に縮小したにも拘はらず、政治家は、まだ昔時の思想を以て、列國對峙の計を施してゐる。經濟は、既に世界共通になつて終つたにも拘はらず、列國みな關稅障壁を築いてゐる。一國の貧窮は、四隣の損害となる事は、獨逸の賠償金免除を必要と感ずるほどに明白になつたにも拘はらず、列國は、他の點に於ては、まだ他國に損害を與へて、獨り自ら利せんと藻がいてゐる。機械力の進歩は、既に生産過剩の世界を現出したにも拘はらず、列國の政治家や經濟家は、まだ物質缺乏時代の法則に據て、天下を經營せんと致してゐる。

科學や、機械の進歩に比べれば、之を使用する人間の頭腦の後れてゐること、實に夥しい。それも其善、幾千年たつても、思想的には、釋迦や、孔子や、耶穌以上の人物は、まだ出て來ない。他の事物の進歩に比べれば、人間の思想的進歩の遲緩なること只々驚くの外はない。

此點から觀察すれば、全世界を通じて、精神文明の進歩は、遠く物質文明の進歩に後れてゐると云へないこともない。然し、それは、世界的現象であつて、獨り歐米に限つた事ではない。東洋諸國は、物質文明に於ても、遙かに西洋諸國に後れてゐるが、精神文明に於ては、更に後れて

ると云ふのが、適正な見方であらう。且や物質文明は、或る程度まで、金錢を以て買ふことも出来るが、精神文明は、さうは行かない。又後進國が、先進國の文明を移入するに方つては、精神的文明に比べれば、物質的文明の方が、大いに學び易い。此等の點より考へても、現在の東洋諸國に於ては、精神文明の方が、物質文明よりも、遙かに後れて居ると見るのが、正當な見方であらう。則ち事實は、世間で云ふのは、全く反對してゐるのである。

また其上に、物質文明も、亦多くは、精神作用の結果であるから、精神文明が進まなければ、物質文明獨り進むことの出来ない場合が多い。如何に大金を費しても、腦中に、立派な設計がなければ、立派な家屋を造ることは出来ない。弘法大師や、親鸞上人の如きは、物質的には、別に求むる所のなかつた人物であるが、其偉大な精神は、求めずして、高野の伽藍や、本願寺の大殿堂を現出した。かくて偉大なる精神は、常に偉大なる物質を現出するが、偉大なる物質は、未だ必ずしも偉大なる精神を現出するわけには行かない。

然し、現在に於ける精神的進歩が、遠く機械的進歩に後れてゐる事は、全世界共通の事實である。現に本年の英 國 協 會 フロンテス・ナショナル・コングレス では、實際の政治經濟が、餘りにも科學の進歩に後れすぎてると云ふ議論が起つて、遂に科學者中から委員を設けて、行政部を援助すべしと論ずるに至つた。

それは兎も角、歐米の文明を採擇して、折角列強の間に伍するに至れる日本帝國をして、支那、印度、若しくは安南、暹羅の仲間入りをさせようと云ふのが、亞細亞に還れと大聲疾呼する連中の希望なの乎。もし然らずと云はば、予は重ねて其目的如何を問はざるを得ない。

(三) 眞誠の目的は行動の自由にある乎

國際聯盟脱退論者、一名亞細亞歸還論者の目的は、那邊に在て存するの乎。どう考へても、私には分らないが、ひよつとすると、條約其他歐米普通の道德律の羈絆を脱して、力任せに、國家的自由行動が、執りたいのであるかも知れない。萬一さうだとすれば、是れは科學や機械の進歩に伴はざる舊思想、則ち精神文明の缺乏より起れる時代錯誤に過ぎない。世界が現在に比すれば、尙ほ百倍も千倍も廣大であつた頃ならば、歐米列國の容喙を許さずして、亞細亞を自由自在に切盛りする事が出来たであらうが、今日の如く世界が縮小し、萬國比隣となつて終つては、もう駄目だ。いかに蕩がいても、そんな事は出来ない。國際聯盟を脱退しても、しないでも、其不可能性に變化はない。國際聯盟の中に在つて、萬事に付け歐米列國同様に振舞へばこそ、世界は、日本をば、他の亞細亞諸國と區別して、對遇するなれ、之を脱退して、特殊の振舞を爲せば、歐米列國は、日本をも他の亞細亞諸國と同視するに至るだらう。それは好いとしても、之がため得る

所は、少しもなくして、失ふ所は太だ多い。さう徒らに焦躁せず、心を鎮めてチト考へて見るが、好からう。

(四) 南北兩米洲と日本の關係

我國人は、動もすれば他國の領域の廣大なるを羨んで、嫉妬がましい口吻を漏らす、それは他人の罪ではなく、自分の罪であることを知らねばならぬ。文化尙ほ卑くして斬取強奪が勝手に出来た頃、我國人は鎖國的整居主義を執つて、海外發展を試みなかつた。歐米人同様に進取の計を講ずれば、東西南北何れに行くとして可ならざるはなく、いくらでも領域を擴張する事が出来たのである。然るに、吾等の祖先は、秀吉が折角着手した朝鮮征伐すら、途中で斷念したほどの意氣地なしであつた。

彼の南北兩米洲の如きは、歐洲より往くことは頗る困難だが、日本から往くことは太だ容易である。四國邊の漁船は、潮流の作用に依て、今日でも時々米國に漂着する。天は、大和民族の發展に供するため、特に南北兩米洲を造つて置いてくれたのだと云つても好いほど、都合よく出来てゐる。然るにわざ／＼大船の建造を嚴禁して、天與の領域を取らず、他人が之を開拓した後、其所に移住して、他人の糟粕を嘗めたがる如きは、疇甲斐のない極みである。

然し、既往は咎めても、仕方がない。吾人は、既往に於ける整居主義の弊害に鑑みて、深く將來を戒めなければならぬ。而して他年一日文化が破滅して、再び斬取強奪世界を現出すれば、格別、苟も然らざる限りは、將來の發展は、之を武力に求めずして、之を經濟力文化力に求めなければならぬ。根本方針に、錯誤があれば、如何なる努力も、決して其目的を達する能はざるのみならず、却つて國家の大害を生ずる事になる。眞に國を愛し、民を愛ふるものは、此點に就ては、念の上にも念を入れて、よく／＼考慮する必要がある。

(四) 天下は天下の天下

以上論述した事項が、實行されて、整居退嬰の卑屈心が奇麗さつぱり棄て去られ、發展の妨礙となる言語文章も、既に改善され、凡そ發展に必要な道具は、精神的と物質的とを問はず、既に一通り備はつたと假定せよ。

さて、此心懸けと此道具を以て、劈頭第一に着手すべきは、何物乎。何はさて置き、先づ以て、全世界の土地及び天然物資は、日月星辰空氣等と同じやうに、全人類の共有物であつて、本來個人又は國家の私有獨占すべきものではない。

と云ふ大義を、天下に明かにすると同時に、舉國人民に、其信念を起させる事である。此大義が、

國民的信念となり、確乎不動のものとならない間は、我が大和民族は、俯仰天地に愧ぢざる公明正大の精神を懷いて、全世界に横行濶歩する事は困難ウツカしい。

他國に移住するのを、食客が居候にでも行く事のやうに考へては、肩身が狭く、精神が、餓ゑてゐるから、逆も充分な活動は出来ない。

物資を他國に仰ぐのを、物貰ひでもする事のやうに考へては、出發點に於て、既に一着を輸してゐるから、到底對等の競争は出来ない。

(六) 領土權の由來

列國の領域は、隨分不公平に設定されてゐる。我が日本の如く、其人口七千餘萬人に及ぶも、其領域は、僅かに廿六萬方哩に過ぎないものがあるかと思へば、同じ島國でも、英國の如く其人口は僅かに四千三百萬人に足らないが、其領域は、一千二百萬方哩、則ち全世界の約四分の一弱に及んでゐるものもある。どうして、こんな懸隔が生じたかと云へば、一は國內に蟄居してゐた間に、他は盛んに四海に横行して、弱者を征伏したからである。故に領域の大小廣狹は、斬取強奪其他偶然の結果であつて、道義上別に動かす可らざる根據があるわけではない。近年までは、

時々斬取強奪の爲直しすなはをして、此不公平を矯正した。言ひ換へれば、戰爭に依つて、領域の再分配を爲した。則ち國家間に、盛衰強弱の變化ある毎に、領域の訂正が行はれたのである。

然るに、今や世界の文明は、戰爭を禮讚する事の代りに、之を非認し、列國間に不戰條約を締結するまでに進んだ。以前に横領した屬國に自治權を與へ、又は之を獨立させるやうになつた。

時勢の變化も、亦大なりと云ふべきだ。暗黒の夜が、光り輝く日中になつたほどの大變化である。苟も國事を談するほどのものは、此大變化を熟知し、之に適應すべき方策を講究しなければならぬ。盜賊は、大體夜間（暗黒世界）に働くものと決定きまてゐるのに、夜が明けてから、（文明世界になつてから）盜みに出掛るものがあつたなら、鈍賊と罵られても、仕方がなからう。

昔の支那人は、「財を盜むものは誅せられ、國を盜むものは王となる」と云つたが、眞實其通りである。我が國でも、封建時代には「斬取強盜は、武士の習ひ」と云つてゐたが、是れも偽らざる白狀である。私と雖も、封建時代に生れたのみならず、人なみには功名心も持つてゐるから、斬取強盜の出来る世の中、則ち暗黒世界に生きてゐたなら、平和主義の代りに、侵略主義を執持したかも知れない。現に先年彦根城に登つて、四方の山河を眺めた時、端なく

生れ來て後れしことを恨む哉

我もあるじとなりけんものを

口吟したほどだ。然し、今日となつては、もう駄目だ。斬取強盜は、國內的には勿論の事、國際的にも許されない世の中となつて終つた。夜が明けて、太陽が高く昇つてゐる。盜賊の働くべき時刻は、既に過ぎ去つて終つた。それにも拘はらず、先きに國際的斬取強盜、則ち戦争を是認したころの強奪品、則ち領土をば、依然として強奪者の所有と爲してゐる。これは強盜を處罰しながら、其贓品の所有權を認許すると、ほぼ同様の矛盾である。純理上は認すべき事體ではない。道理は、暫く差置いても、同じ文明國民でありながら、甲は領域が狹隘にして、生存に苦しみ、乙は領域が廣大に過ぎて、使用し切れないやうな不都合極まる現状は、此まゝ捨てて置くわけには行かない。捨てて置けば、必ず世界の亂を生ずる。是に於て、領域更正は、人類生存上の必要問題となる。

(4) 文野二様の領域更正法

前にも述べた通り、從來は武力に依て、時々領域を更正した。未開時代に於ては、強者は、力のあらん限り、四方を征伐して、其領域を擴張したが、既に飽滿點に達すれば、盛者必衰の原則に従つて、大國はやがて弱くなり、壓伏された小國は臥薪嘗膽日夜奮勵の結果遂に強く爲る。か

くて強弱の勢が顛倒すれば、茲に戦争が起つて、弱くして大なるものは削られ、強くして小なるものは、之を併合する。古今の戦争にして領域更正の結果を齎らさなかつたものは少ない。先般の世界大戦争の如きも、或はポーランドを獨立せしめ、或はアルサス、ローレン二州を佛國に還付し、或はユーゴスラヴィアや、チエクスロヴァキアの新國を作り、大いに歐洲中原の領域を更正した。

戦争に依つて領域を更正するのは、言ひ換へれば、斬取強盜の仕直しである。随分亂暴なやり方ではあるが、元來國家の領域なるものは、前にも述べた通り、多くは斬取強盜の結果であるから、之を更正するに方つては、勢ひ亂暴な手段方法に依らざるを得なかつたのだ。

加之、此領土の再分配は、各民族をして、其生存に必要な土地を得せしむる事にもなるから、千載不磨の天理人道は、暴力に依つて、其運行を授けられたのである。造化の配劑も亦妙なりと云ふべし。然るに、今や文化の進歩は、戦争則ち斬取強盜に依る所の領域更正法を非認する程度に達した。一方に於て、野蠻の領域更正法、則ち戦争を非認する以上は、他方に於て、合理的方法を發明しなければならぬ。それを工夫しなければ、世界大多數の人類は、やがて此の世に生存する事が不可能になる。文明の進歩と共に、衛生法が進み、人口の増殖は、益々其速度を加へる

のに 世界面積の大切な所は、人口僅少なる英、佛、米、露等の少數國家が、占領してゐるからである。是に於て、合理的領域更正法の研究は、人類生存上の緊急問題となる。

世界列國中、最も廣大な領域を所有してゐる英國が、其領地の民族に、自治權を與へて、獨立を許せるが如きは、合理的領域更正の手始めと見て好からう。現在では、尙ほ未練がましく、關稅問題を以て、既に獨立したる其領土を連結しようと思へ、此ほどもオッタハ會議などを開いたが、英帝國を組織する所の各分子は、結局は、經濟的利害に依つて、世界列國と離合集散すべき運命を持つてゐるやうだ。

他に、廉價で優良な物品があるのに、同じ英帝國內の産物であるからと云つて、高價なものを買へと云ふのは、元來無理な注文であつて、而も經濟的損失となる。此損失が、重積すれば、國運の發展を阻碍する。こんな事も、試験して見るは好からうが、結局、骨折損の疲勞^{くたひ}備けに終るであらう。世界最大の地主たる英國が、實質に於て、既に其領土權を拋棄し、其諸領土に獨立權を許與する以上は、他の諸國も、亦類似の方針を取るの必要が起るであらう。現に米國でも、ヒッピンを獨立せしむべしと云ふ議論が、可なり強い。其實行毎に、領域の訂正は平和的に、又合理的に行はれるのである。

封建時代の諸侯が、兵力其他の手段に據つて、獲得した領土權は、文化の進歩に従つて、既に之を放棄したのと、同一の道理は、國家の場合に於ても、亦漸次適用せらるべき運命を持つてゐる。刀劍の先きで斬取つた諸侯の領地に、永久の所有權を與ふべき道理がないならば、銃砲の力に依つて、併略した國家の領土にも、亦永久の所有權はない筈である。其間に、大小強弱の區別はあるが、道理上の區別はない。

主權其他種々雑多な小理窟を製造して、國家の領土權を辯護するのは、文化尙ほ卑低にして、世は尙ほ強者の強奪、弱者の屈伏を是認する未開時代に在るからだ。將來文化更に進歩し、人みな「全世界は全人類の使用に供すべきものである」と云ふ道理を了解するに至れば、必ず先きに諸侯の領土權を非認したと、同一の理路を追うて國家の領土權を非認するに至るだらう。こんな事を書くとき、世の頑固者流は、多分「非國民」と罵るだらう。「非國民!!」結構である。明治以前には「非藩民」を、逆賊の如く考へた時代もあつた。第一維新の大業は、此「非藩民」則ち諸藩の浪人に由つて開始された。第二維新の大業は、必ず此「非國民」則ち國際主義者に由つて開始せられるだらう。

日本が、僅々廿六萬方哩の領土權を固執すれば、英國は粗々之に五十倍する一千二百萬方哩の

領土權を固執するだらう。眞誠の愛國者は、一時の感情のみに走らず、遼大の損得勘定も、少しはして見るが好からう。

(六) 國家は領土の管理者

侵略其他偶然の事件に依つて、獲得した領土に對して國家の所有權を非認すれば、其土地は何人に歸屬せしむべき乎。曰く土地は、日光や、空氣と同じく、何れの國家にも專有せしむべきものではない。故に差當り、一世の便宜法として、從來所屬の國家をして、人類全體の利益になるやうに、之を管理せしめるが好からう。其方法中、最も大切なものは、取り敢えず、關稅障壁と、移住制限を撤廢し、人口、物資、製品の移出入に對して、絶對的自由を與へる事である。續いては、軍備を撤廢し、堡壘を破壊し、貨幣、度、量、衡、言語等を、成るだけ共通にするやう努力する事である。苟も全世界を以て、全人類の共有物と考へ、列國みな國土私有の謬念を去り、其管理者を以て、自ら任ずるやうにさへなれば、其上、施設すべき事項は、際限なく腦裏に湧き出るであらう。

讀者請ふ之を以て、痴人の囁語と爲す勿れ。文化の進運は、日夜此事態を促してゐるのである。現在歐米列國は、不知不感の間に、此事態に向つて進行しつゝある。列國會議、民族自決、不戰

條約、軍備縮小、國際聯盟、仲裁々判、國際裁判條約、歐洲聯邦論者は、一として右の形勢を産出すべき原料に非ざるはない。否、右の形勢其者であると云つても好いのだ。只味者は其形を見て、其質を悟らず、大船巨舶中に在つて、船舶の進行を感知せず、却て海水を以て、後方に流れ去るものと妄想するの類に過ぎない。今後文化が愈々進歩して、人々能く物の道理を解するに至れば、國家は領土の所有者ではなく、其管理者であると云ふ思想は、廣く世間に行はれるやうになるに相違ない。此思想は、天理人道に契合する所の千古不磨の思想であると同時に、我が同胞に取つては、無上の利益を齎らすべき性質のものである。故に我が同胞は、單に正義人道の上からばかりでなく、大和民族の利益のためにも、極力其教傳宣布に努めねばならぬ。

此思想が廣く世界に行はれ、列國みな鎖國主義を捨てて、其領土を開放し、人と物との出入を自由にするに至れば、我が同胞は、力のあらん限り、東西南北に發展する事が出来る。之に反して、現在の如き領土觀念が流行する間は、吾等大和民族は、到底英、米、露、佛と比肩對抗する事は出来ない。故に領土權問題は、吾等同胞の安危盛衰の分岐點である。此大問題を外にして、國家將來の發展を説くが如きは、空論家の所業に過ぎない。

(四) 歴史の科學的研究

我國では、太古史の科學的研究を許さないかと思はれる。苟も之を研究して、神話的傳説に違背するに至れば、直ちに之に被せるに不敬罪又は非國民の惡名を以てするが、それでは、國家成立の眞相を暴露して領域訂正の實を擧げることが出来ない。従つて大和民族は、現在の地域に蟄居籠城するより外に、施すべき道はない。自國の成立を神聖なものとして、之を防守すれば、他國も亦、其成立を神聖視して、之を防止するからである。而してそれは既に大小各地を侵略したる大國の利益ではあるが、日本の如き小國に取つては、是れほどの不利益な事はない。此等の問題は、主として道理上より説きたいのだが、我が國にも功利主義者が多いから、止むを得ず機會ある毎に利害論をも挿入して置く。科學的に研究すれば、大抵の國家は、斬取強盜又は騙詐の結果として、成立したものになるだらう。感情的（迷信的と云つても好い）には、如何にも不愉快且つ殘念でもあらうが、科學的研究の結果が、之を證明する以上は、致し方がない。のみならず此事實を正確に承認せざるを得ざる以上は、「日光空氣及び土地は全人類の共有物」だと云ふ原則を確立する事は出来ない。従つて「吾等大和民族にも、他の大領域所有者同様に、生存權がある」と主張する事が、出來なくなる。

我が國家を神聖なものとして、其領土權を固守すれば、他の大國も、亦其領土權を固守する。

而して武力がどれほど強くとも、昔時の如く之を用ひて、領域を更正する事が出來なければ、結局生存權がなくなるだらうではない乎。

それでも好いと云ふなら格別、苟も然らずして、常に生存權を要求するのみならず、將來大いに世界的進展を試みんとする雄心があるなら、歴史の科學的研究は、どうしても爲なければならず、我其結果を承認すると同時に、他の列國人をして、自國成立の眞相を承認せしめなければならぬ。自他共に國家成立の根本を了解するに至つて、天理人道始めて説くべく、人類全體の生存權始めて保全するを得べし。

少壯軍人と私の關係

昨秋、滿洲事件勃發以來、日本より來る私信中には、面白いものが多い。曰く、少壯軍人中には、私の平和主義や軍縮提唱を憤慨し、尾崎は滿洲事件にも反對であらうから、早く殺して終へると云つてゐるものがある云々。曰く、世間に先んじて、政黨の腐敗を攻撃し、超黨内閣を主張したのは、尾崎だ。彼は此點に於ては、我等の味方だから、活かして置く方が好い云々。曰く、尾崎も、近來は、心境が變化して、祖國主義になつたさうだから、我等の同志者として共に働く事

が出来、云々。曰く、尾崎が多年攻撃し來つた政黨内閣も、我等軍人の手に由つて、打破せられ、其腐敗も我等に由つて矯正せられつゝあるから、尾崎も、やがて軍國主義の謳歌者になるだらう、云々。

私は、他の章に於て述べて置いた通り、別に死にたくもないが、又強ひて生きてゐたくもない。特に杜甫が古來稀れなりと詩つた所の七十を越えてからは、生きてゐたいと思つても、さう長く生きることはむづかしからうと諦めてゐる。其上病死するのが嫌ひだから、何人か殺してくれらば、親族朋友には氣の毒だが、自分だけは寧ろ満足の方だ。然し、國家的見地から考へれば、暗殺ほど卑怯未練にして、且つ禍害を遺すものは少ない。さつと世界を見渡しても、古來暗殺は劣等國の特質と決定つてゐる。時に政治的意見の相違に由つて、暗殺を行ふほどに、民族性が狹隘偏固では、到底大國民となる事は出来ない。他章に列擧して置いた所の明治以降に暗殺され、又は暗殺されかゝつた者を見ても、何れも國家有数の大人物であつて、之を殺した爲に、日本はどれだけ損をしてゐるか知れない。十年二十年を経てから、冷靜に考へて見たなら、其の暗殺が、國家の利益になつたと思へる被害者は一人もなからう。自分だけの都合から云へば、私に取つては、病死するより、暗殺される方が好いが、國家のためには、暗殺ほど悪いものはないから、將

來は極力之を非難し、排斥するやうに、國民を教導したいものだ。

そこで、誤解を防ぐため、茲に豫め明瞭に軍人諸君に通告して置きたいのは、

第一に、今後の世界に於ては、軍縮は益々必要だと云ふ事實である。苟も文化が退歩せざる限りは、武力に依つて、國利民福を増進し得る時代は、既に過ぎ去つて終つた。其次第は他章にと通り述べて置いた。

第二には、私の心境は、幸か不幸か、餘り變化しないと云ふ事實である。強ひて變化點を求めれば、從來よりも、更に一層世界的傾向を生じて來た所に在る。文化が進んで、世界が狭小になれば、なるほど何れの民族も世界的に發展しなければ、生存し難くなると私は信じてゐる。獨逸帝國の滅亡を招いた一大原因は、其祖國主義であり、又現在に於ける歐米列國の困難は、政治と經濟とを問はず、凡て偏狹なる民族主義が、其禍根であると、私は思つてゐる。

第三には、超黨内閣の出現と、従つて起れる黨人の反省は、私が豫め希望した事柄である。故に私は國家のため、大に之を慶賀するものゝ、其慶事が、軍人の政治的干渉に依つて、行はれたのを見て、私は深く遺憾に思つてゐる。世の中には、善事は手段を選ばないと云ふ流弊の人もあるが、私は出來得る限り、善手段に依つて、善事を行ひたいのである。軍人の政治的干渉は、

或は政黨政治の腐敗に倍蓰する所の惡結果を生じはしまし乎と、私は心配する。現に滿洲事件に依つて、惹起された一大國難は、軍人の政治的行動の結果であつて、政黨者流が如何に腐敗しても、彼等はこんな大國難を招來する氣遣ひはない。(終に無條件降伏となつた。——昭和二〇年一月追加)

以上略述した所だけを見ても、私と軍人との間には、尙ほ巨大なる意見の相違がある。偶々、双方共に政黨者流の腐敗を憤慨するが如き一致點があつても、それは、東と西に行く(旅客)が、偶々四ツ辻に於て邂逅したやうなものだ。一寸一所になつても、忽ち正反對の方角に向つて、別れる事になる。かくて、私と軍人とは、國事に就て、容易に意見の一致を見る事は出來まいと思ふが、此所で誠誠意に國家を顧念する軍人諸君に向つて、請求して見たい事がある。それは第一には局部に限られた狭小なる軍事的研究でなく、大所高所より見た軍事全體の研究である。則ち將來の戰爭及び其結果に就ての研究である。將來文明國間の戰爭に於ては、都會の全滅非戰鬥員の擧殺は蓋し止むべからざる運命であらう。従つて勝敗共に國家の滅亡、文明の破滅となりはしまし乎。

第二には、戰爭に依つて、何が得られる乎と云ふ問題の研究である。これには將來に關する推

想的研究よりも、先般の世界戰爭の結果を研究する方が、適切である。勝者たる英佛其他の聯合國は、何物を獲得した乎。又之を獲得した事が、國家の利益となつた乎。將た損害となつた乎。結局獨逸の賠償金を免除し、列國間の戦債を帳消にする方が、双方の經濟的利益であると云ふ意見が、年を経るに従つて益々増加し、遂に實行されさうになつたのは、何のためであらう乎。冷靜に之を研究したり、二十年以前に於いてすら、世界組織の大變化のため、國際間には、既に戰勝に依つて獲得すべき有利な事物がなくなつてゐた事を悟るであらう。土地を取れば、費用倒れとなるのみならず、政治的困難が續出して、取得者の迷惑となり、償金を取れば、物が賣れなくなつて、失業者が増加し、内亂の危険が起る。現在文明列國を困殺してゐる艱難の本因は、人類の心情が、科學の進歩に伴はざるに在ること勿論だが、急激に右の艱難を誘起した近因は先般の大戰爭である。科學の進歩は既に經濟的には云ふに及ばず軍事的にも、戰爭を不可能ならしめる程度にまで達してゐる。然るに人類の心情は、今尙弓矢槍刀及び銃砲等を以て、攻防した時代其儘で働いてゐる。

經濟は、疾くの昔に世界共通となつてゐるのに、列國みな關稅障壁自給自足等の國境閉鎖主義に由つて、經濟的破綻を救はんとしてゐる。甚だしきに至つては、武力に依つて、物品の販路を

開拓しようと考へるものすらある。科學も、經濟も、日に國境を削減し、遂に之を消滅せしむべき方向に向つて進んでゐるのに、軍人は壘砲を築造し、政治家は關稅を重課し、以て國境維持に腐心してゐる。此矛盾撞着を矯正しない限り、人類の安全寧福を保全する事は出来まいと思ふ。これが、偽らざる私の現在の心境である。愛國の至誠に富める軍人は、大所高所より、此等の事態を研究されんことを望む。之を研究したら、少壯軍人中には、私と同様の意見を抱くものが漸次増加するだらうかと思ふ。もしさうなつた上は、今日の敵は、明日の味方となり、共に轡をならべて、國事に並馳することも出来ようかと思ふ。

海外漫遊の一樂

常人以上に知識慾に富める私に取つては、歐米に遊んで、各種の新思想や新事物を見聞するのは、非常の快樂であるが、此外に私には尙ほ一つの輕微な快樂がある。それは無名の一書生として、勝手な振舞の出来る一事である。其一例を挙げれば、ロンドンも今年は廿一年振りの暑熱イダシの由にて、日中は九十度以上に達した日も二三回あつた。さう云ふ熱い日の夕暮に、飄然として乗合自動車の二階に乗り込んだ。所定めず遊覽するのは、涼味滿喫、實に愉快の極みである。英貨

五六錢も拂へば一時間も納涼的遊覽が出来る。私は先年英京は遊んだ時も、屢々やつたが今回は暑熱のため、更に度々試みた。

日本では、新聞を読むほどの人は、大抵私の名か、顔か、どちらか知つてゐる。故に乗合自動車に乗込むと必ず私を見て「あれが學堂だ」などと、ひそ／＼話をするものがある。時々「先生こちらへ」と、慇懃に席を譲られる事もある。何んとかく窮屈で、不愉快な感じがする。更に迷惑するのは、酔漢などに「此所はお前達めえたちの來る場所ではない出て行け」などと悪口される事である。實に不愉快なものだ。

先年浴衣がけで、縁日に出かけ、植木をねぎつた所が、其商人から「先生御戲談をおつしやつていけません。私は善くお顔を存じてゐますよ」と云はれて、聊か赤面した事もあつた。

まだ無名の一青年であつた頃は、有名な人になりたいと考へた事もあるが、偕て私程度に虚名が高くなつてすら、愉快よりも、不愉快な事が多く、利益よりも、不利益の方が多し。もつと有名になつたら、尙更らさうであらう。然るに歐米では、偶まには新聞社の寫眞班に襲はれる事もあるが、大體無名の一書生として、横行闊歩する事が出来る。實に愉快なものだ。それに付けて、思ひ出すのは、私が衆議院で演説する時に「賣名漢」などと叫ぶもののある事だ。又田舎新聞中

には、どうかすると私に向つて同様な評語を下すものもある。無名の田舎議員か、世間知らずの青二才でなければ、こんな見當外れの悪口は出来ない筈だ。無名の間こそ、名も賣りたからうが、餘り有名になると、却て之を逃れたいくなるものだ。兎に角乗合自動車の納涼遊覧はただ愉快だ。名も顔も知られないために得られる快樂は、まだ此外にも色々ある。

有態に白狀すれば、私は此上、名を賣りたくはないが、さりとて之を汚したくもない。「微笑を含んで死地に就く」ことを慈母から教へられて、成長した私であるから、若し天下後世の爲になるべき死に方があるなら、何時死んでも差支ない。かう書くと、没膽漢は又ぞろ賣名のためだと思ふかも知れないが、私は生前に於てすら、既に名のほしくない境遇に達してゐる。況や死後に於てをやだ。只同じ死ぬなら、少しでも多く、世のため人のために爲つた方が、善からうと思ふだけの事だ。凡そ人間と生れたものは、誰でも此位の事は、考へるだらうではない乎。いや考ふべき筈である。

超國家運動の必要

文化の進むにつれて、人類の働く舞臺は、一步々廣く大きくなる。酋長時代には、各々其部

落のために働けば、それで好かつたのだが、封建時代には、其舞臺が、大きくなつて、各々其落のために働く必要が起つた。文化が更に進んで、民族が國家を組織するに至れば、全國のために働かなければならぬ。其人民には、國民教育を施して、全國のために働くやうに育てあげなければならぬ。

又優秀な人物は、常に其時代以上に發達成長するから、酋長時代にも、部落内だけの活動を以て満足せず、他の部落を征伏して其舞臺を擴張しようとする。封建時代でも、國家時代でも、大英雄大豪傑は、みな其時代々々の舞臺に満足しないで活動區域の擴張を計畫する。豊太公が朝鮮を征伏して、支那に入らんと企てたるが如き、歴山大帝が四方を征伏し盡し、更に征伏すべき地域なきを見て、大息啼泣したと云ふが如きは、何れも大人物が國家以上に發達成長した例證である。

個人も幼少の時は、小さな衣服が適當であるが、漸次成長するに従つて、大きな衣服に取換へなければならぬ。民族も其通りで、人口が増加し智識が發達するに従つて、其領域を擴張しなければならぬ。民族の住域は、個人の衣服と、略々同様のものである。

加之、衣服は年を経ても縮小はしないが、地域は文明の進歩に従つて、大いに縮小するから、

民族の住居區域は、個人の衣服以上に之を擴大する必要が起る。是れ前段に述べた通り、部落生活より、封建生活に進み、封建生活より、更に國家生活に進んだ所以である。然るに國家と云ふ衣服も、今日は既に狭小すぎるやうになつた。我が大和民族の如きは、一方糶に平均百六十九人住んでゐる。是は六尺の大男が、児供の衣服を着てゐるも同様で、其不便窮屈實に言語に絶する。故に領域の擴張は、絶対に必要だが、他章に於いて説いて置いた通り、現在の文化世界に於ては、往時の如く他國の領土を奪掠することは、自他の良心が許さない。文明が没落しない限り、將來は益々さうなるに決つてゐる。そればかりでなく、英米の如く、廣大な領域を持つてゐる國民ですら、自給自足主義で、繁昌する事は、出来なくなつた。是は現在の民族は、既に國家以上に發達成長してゐるから、國家と云ふ衣服では、其大小に拘はらず、満足に生存して行く事が出来なくなつた證據である。

かくて、文化の進歩は、内外二様の作用に依つて、人類の活動區域の擴張を促して止まない。従つて現在の國家時代に於ても、獨り大人物のみならず、國民全體が既に國家以上の廣大なる活動舞臺を要求し、國家は又共存立の必要上、之を奨励しなければならぬ事になる。彼の通商貿易の如き、移民奨励の如き、殖民地獲得の如き、皆な活動舞臺擴張の手段方法に非ざるはない。

然し彼等はまだ之を意識してゐないから、偏へに國家のためと考へて、働いてゐるが、實は國家以上の活動舞臺を求めてゐるのだ。彼の滿洲事件に對して、全國人民が、軍部を後援するのも、實は日本帝國といふ衣服が、既に狭小になりすぎたためである。

現在では國家の延長として、活動舞臺の擴張を企畫するものが多いが、將來は其延長でなく、諸國家の共助聯合に依つて、此目的を達するやうに変更改善しなければならぬ。國家延長主義で進めば、必ず國家間の衝突となり、戦争となる。而して戦争は、從來と違つて、勝敗共に國家の破滅を招くことを、他章に於て説いて置いた通りだから、どうしても之を避けなければならぬ。加之、國家的割據は、封建的割據を、聊か擴大しただけで、其主義精神に於て、大した相違はない。封建時代に比べれば科學の進歩に由つて、世界が百分の一以下に縮小した事實を參酌する時は、今日に於ける國家的割據は、往時の封建的割據を擴大したのではなく、寧ろ縮小したわけになるかも知れない。兎に角、文化の進歩は、先きに封建的割據を改善して、國家時代となした。將來は國家的割據を改善して、世界共同主義となさねばならぬ。

假りに國家延長主義は、將來尙ほ實行性ありとするも、苟も割據主義を排棄せざる限りは、人類の安寧幸福を保全することは出来ない。否な今日の經濟的困難を救済することすら出来ない。

それは英米露の如き大國ですら、現在非常の窮境に陥つてゐる事に由つて、證明せられる。而して列國みな割據主義に代ふるに、共助主義を以てし、移住制限關稅障壁等を撤廢すれば、それだけでも、領域擴張以上の利益を、全人類に提供することが出来る。況や此他尙ほ人類共通の利益となるべき施設は、枚擧に遑あらざるに於てをや。

(一) 世界的浪人の必要

かう考へると、諸國家の共助聯合より外に、活動區域擴張の道はないが、國民的思想感情は、常に偏頗不公平に陥り易い。個人としては、最も公正無私な人物でも、國民としては多くは、偏頗不公平の言行をする。其管でもあらう。いざ戦争となれば、何れの國家も、正邪を問はず、敵國人の虐殺掠奪を要求し、之に背けば嚴罰する。先般の大戦争に方り、獨軍が白耳義の中立を犯した時、苟も良心ある獨人は、個人としては、悉く其無理非道なることを知つてゐたに相違ないが、國民としては、一議に及ばず之に賛成し、踴躍して無辜のベルギー人を虐殺した。しなければ嚴罰されたに相違ない。これが國家であり、國民である以上は、國家及び國民は、勢ひ偏私不公平ならざるを得ない。偏私不正の基礎に立つては、眞誠の共助聯合は、斷じて不可能だ。然し、それが出来なければ、文化の進運に背叛するから、人類の安寧幸福を保全することは出来ない。

是に於て乎。世界的浪人の必要が起る。國籍さへなければ「正邪を問はず國家のため」と云ふが如き亂暴狼藉な心情は起らないから、國際争議に對しても、公正無私の判断を下すことが出来る。従つて國際争議は起らないで、眞誠の共助聯合が可能になる。

徳川時代には、喧嘩兩成敗と稱して、喧嘩は双方共に悪るいから起るものと云ふ原則を建てて之を實行したが、國際争議は、特にさうだ。今世界人類救済の大志を抱ける列國の識者數百名乃至數千名が、國籍を脱し、世界の浪人となつて、各種の大問題に就て、公明正大の意見を立るなら、其意見は早晩必ず列國を風靡するに至るだらう。現在行惱んでゐる所の軍縮、賠償、戦債、經濟等の諸問題も、彼等の意見に依つて、解決の道が開かれるだらう。かくて公明正大の意見が行はれ、共助聯合の道が開かれるれば、國際争議の如きは、十中七八まで起らずに済むだらう。現在國際的大問題が紛糾し、世界列國みな疲憊困窮してゐるのは、列國みな各々私利私益を目的として、不公平な意見を提出し、固執するからだ。而してそれが、却て列國の大損害を招くことになる。今一個の國家を目的とせず、全世界共通の利害を目的として、考察研究すれば、どの問題でも、解決の出来ないものはない。然し、國籍を有するものには、それが出来にくい。偶々良心健全にして、公正無私の言行を爲すものがあれば、大抵の國家は、之を嚴罰する。然らざれば民

衆が私刑を行ふ。現に先殺の世界戦争に反対した佛のジョールス、獨のリーブクネヒトは、虐殺され、英のマクドナルドは、社會から排斥されて、政治的死人同様な身の上になつた。然し、流石に英人である。之を殺さなかつたから、今日は國民内閣の首相となつてゐる。意見の相異に依つて反對者を暗殺しないのが、他國人の英人に企て及ばない所である。あの際敢然として非戰論を主張したマクドナルドもえらいが、之を殺さなかつた英國民衆も、えらい。今日其過ちを悟つて、之を聯合内閣總理大臣と戴くに至つては更にえらい。

經濟的困弊が、襲來してから、大分年月を経たが、まだ何所の國でも救済し得ないのみならず、益々深刻になるばかりだ。何故だらう？。經濟は、既に全世界を打つて、一丸となしてゐるから、世界的治療を施すより外に、救済の道はないのに、列國の政治家經濟家は尙ほ、國民的見地に立つて、國家的治療を施してゐるからだ。譬へば病は全身の衰弱であるのに、脚氣や入齒の治療のみをしてゐるのも、同様だ。病氣の全快しないのも、無理はない。局部々々の國家的治療は、何を施しても、駄目だ。あまり脚部や齒牙の治療をすると、却て全身の衰弱を増す懼れがある。宜しく世界的治療を施して、先づ全身の榮養を増加すべきだ。然し國籍を有するものは、齒科脚氣科の専門家に似た局部的醫者であるから、全身の榮養状態を善くすることは不得手だ。無理はな

い。

(二) 日本浪人の實驗

私が、現在の世界的疾患の治療には、世界浪人に頼むのが、最も善いと云ふのは、机上の空論ではなく、我が國の實驗に徴して、起つた考案だ。明治以前の日本は、まだ封建時代で、當時の智識階級實力階級たる武士は、何れも徳川氏若しくは大小名の家來であつた。今日の日本人が、國家に忠節を盡すが如く、彼等は各藩に忠節を盡すべき義務を持つてゐた。然るに文化の進運につれて、日本が三百諸侯に分裂してゐては、諸外國と對抗することが出来なくなつた。則ち全國を統一して、一政府の下に置く必要が起つたのだ。然し、藩籍を持つてゐては、忠節を藩族のために盡さなければならぬから、皇室を中心とする所の國家のために、働く事の出来ない場合が多かつた。恰も今日國籍を持つてゐては、心に之を非としても、國家のためには、殺人掠奪の戰爭にも従事しなければならぬのと、同一の境遇だ。此境遇に在つては、より小なる藩のためよりも、寧ろより大なる國家のために働くには、藩籍を脱することが、最も便利であつた。是に於て、各藩の勤王家則ち愛國者は、續々藩籍を脱して、王政復古のために盡瘁した。王政復古とは、朝廷を奉戴して日本を統一する運動であつたのだ。

藩籍を持つてゐる間は、充分の働きも出来なかつたが、既に脱藩して浪人となれば、自由自在に朝廷のために盡瘁することが出来る。そのため浪人の勢力は、日々増加し、遂に薩、長、土、肥等の諸藩を動かし、王政復古日本統一の運動は、明治四年に至つて成熟した。これが、日本の實例であるが、今日の世界は、既に列國割據で、立つて行けないこと、恰も幕末の日本が、列藩割據で、立つて行けなかつたと、同様の形勢になつてゐる。此時に方つて、最も必要なのは、國民的偏見を棄てて、世界的見地より、凡ゆる問題を觀察判断し、且つ何等の牽制をも受けずして、其實行に努力し得べき世界浪人である。日本の浪人が、幕末の日本を救つたやうに、世界の浪人のみが、現在の世界を救ひ得るのである。此救世主は、無籍者、非國民、世界市民、則ち世界浪人でなければならぬ。國籍があつては、國家が制肘するから、世界を救ふことは出来ない。但し國家が制肘もせず、投獄もせず、虐殺もしなければ、國籍があつても、救世主的活動を爲すことは出来るが、さういふ立派な國家は、當分現出しさうには思はれない。恰も我國に於て、浪人が四方に起つて、王政復古日本統一の空氣を作るまでは、各藩は、其藩士を牽制して、自由の活動を爲さしめなかつたのと、同様だ。蓋し國家は、何れも自國本位の私利私益團體であるからだ。此點に於ては封建時代の列藩と少しも異なる所はない只大小の差があるだけだ。

(三) 世界浪人の保護獎勵

個人としては、立派な君子人でも、國家のためには、強盜でも、人殺しでもする。其人が若し國籍を脱して、浪人則ち世界の市民となれば、決してそんな悪事は働かない。伊太利統一の元勳カヴールは、往事を追懐し、慨然嘆息して曰く「吾々が、公人として、國家のために爲した所業を、個人として爲したら、世間は、吾々を惡漢と罵るだらう」と。眞に然り、全く其通りだ。公人にして、其良心に背かざるもの、古今果して幾人かある。恐らくは一人もなからう。蓋しいと云へば殺掠をも命令する所の國家に仕へるからだ。國籍さへ脱して、世界の浪人となれば、良心に背かずして、思ふ存分に、世界人類のために奉仕する事が出来る。文化の進歩した今日に於ては、それが眞に國家民族を救済する唯一の道なのだ。世界がなければ、國家もなく、人類が絶えれば、民族もなくなるではない乎。

然し、救世主たるべき世界浪人を、其まゝに打棄て置いては、殺されても盜まれても保護者が無いから、どうすることも出来ない。故に私は、日本が、義侠的に、世界浪人の保護者となり、國民の義務を課せずして、國民同様の保護を與へんことを希望する。文明國では、何れも他國の政治犯人を保護してゐる。故に右の如き脱籍者に、生命財産の保護を與へるのは、國家の名譽に

こそなれ、決して何等の差支もない筈だ。然し、若し何等かの事情で、それが出来難いなら、國際聯盟をして、之を保護させたら好からう。聯盟としては、當然爲すべき責務があるやうに思はれる。

現在でも、學者、思想家、其他立派な人物にして、各種の事由から、國籍を持たないものが澤山ある。中には、正義のためなら、戦争にも出るが、不正不義の戦争には従軍しないと明言したために、歸化を拒まれてゐる無籍者もある。實に氣の毒千萬な次第である。正義のためでも、殺掠は餘り憂むべき働きではない。正義の殺掠がありと假定して、況や不正不義な殺掠に於てをや。國際聯盟は、宜しく此等の聖人君子の保護者となり、之をして、世界救済のために盡瘁せしむべきである。世界浪人の員數は、成るだけ多い方が、早く人類救済の目的を達することが出来るから、其増加を奨励することが必要だ。然し、世界浪人中に、品性劣等な賣名の人物が、多數を占めるやうになつては困るから、充分の奨學資金を與へて、全世界の優秀學生中より、浪人を養成するが好からう。前に説いた軍縮實行の上は、之に充當すべき資金は、幾らでも出来る。且つ其效果は、之を軍備に費すに、千百倍するに相違ない。今日の機運より考へれば、世界浪人となつて、人類救済の聖業に盡瘁したいものは、澤山あらうと思れるが、列國共に閉鎖主義を固執して、

自國人民以外のものには、職業を與へない工夫をされては困る。故に我國は、國際聯盟を援け、列國をして此の如き陋習を廢棄させるやうに盡力すべきである。

(四) 世界浪人に適當な職業

經濟は既に世界共通となつてゐるから、廣く世界を相手にする所の國際的經濟事業は、國家人よりも、浪人則ち世界人をして、之に當らせる方が、效果的であらう。現に銀行業の如きは、古來事實の世界浪人たるジウ人が、多く之を經營して、好結果を奏してゐる。

(一) 學問には、國境がないから、大學其他の學校に、自國人以外の學者を招聘するに方つては、國籍所有者よりも、無籍者の方が、萬事につけ、公平で好からう。特に官衙の顧問に國家人を使用するは、多少の危険がある。

(二) 國際聯盟、仲裁々判所、國際裁判所其他國際的職務に當る機關の役員に、上下を問はず、無國籍者、則ち世界浪人を使用するが、當然だと思ふ。國家人を使用するから、各々自國の利益を圖るが如き嫌疑を受け其信用が薄くなるのだ。

(三) 世界各地に散在する委任統治地の如きも、現在は、地理的其他の關係で、各種の國家に委任してあるが、此等も將來は國際聯盟に委任し、世界浪人をして其職に當らせる方が好い。

(四) 獨逸の舊領地を戻すや否やは、將來の戰因ともなるべき大問題であるが、此問題も、餘りこぢれない内に、早く解決するが宜しい。其方法としては、歐洲内の地域は、住民の一般投票に依つて、其去就を決せしめ、其他の地域は、國際聯盟に委任し、世界浪人をして、人類全體の利益になるやうに管理せしむべきであらう。

(五) 列國所有の屬領中には正當なる根據なく奪掠又は偶然の原因に依つて獲得したものが多し。然るに飽くまで其領有權を固守する時は、これも早晚必ず戰爭の原因となる。他の人口あまりあつて住むべき土地の足りない國民は、必ず其分配を要求するからだ。故に屬領中既に獨立に堪へるものは、之を獨立せしめ、其他は、舊獨逸領と同じく、之を國際聯盟に委任し、世界浪人をして之を管理せしめるが宜しい。さうでもしなければ、獨逸の領域復舊要求を制止し、以て歐洲の禍根を免除する事は、出來まい。

右は只折角世界浪人を養成しても、其使用道がなからうと云つて心配するもののために、其用途の一端を擧示したに過ぎない。細かに研究したら其用途は、まだ外に幾らもあるだらう。轉じて世界救濟の方面より講究すれば、世界中の智者識者實際家が、智能のあらん限りを傾倒し、幾年かゝつても、成し得ない仕事をするのであるから、世界浪人の職責は、際限なく多に相違

ない。使用口がなくなつて困る事の代りに、行く行く人手が足らなくなつて困ることになるだらう。

偉大なる國民性の養成

個人に就いて考へるに、知識や、手腕も、必要だが、其性格は、更に一層必要だ。性格が善くなければ、折角の知識や、手腕も、偶々以て悪事を働く道具になる事が多い。彼の強窃盜や詐偽者等の内には、其度胸才氣知識等が、常人より勝れたものもあるが、只だ其性格が下劣なるため、折角の智勇も、之を悪用して、遂に罪人となる。故に偉大なる人物とならんと欲するものは、其知識手腕度胸等も、磨かなければならないが、其性格を練磨する事は、更に一層必要だ。國民も、其通りで、如何に知識に富み、戰爭に強くとも、國民性が陋劣では、到底偉大なる國家を建設する事は出來ない。所で「我が大和民族の性格は、如何」と、自己検討を爲さねばならぬ。而して個人に取つても、自己検討は極めて困難だが、國民に取つては、尙更困難だ。特に身を政界に置くものは、聲望を得んがための必要上、民衆に詔ひ易い。其短所缺點を指摘しなければ、之を改易して向上進歩させることは出來ないが、自己の短所缺點を指摘されるのは、何所の國民でも、普通は之を好まない。故に衆望を収めて、多數の投票を獲得せんと欲する政治家は、虚偽と知り

つゝも、其國民を稱揚する。かくて自己欺瞞は、民衆政治の特徴となり、遂に自負高慢停止する所を知らざるに至るのだ。

さうなつては、個人としても、向上進歩する事は出来ないが、國民としても、亦同様だ。而して現在の大和民族は、自己自身を如何に見てゐる乎。日常耳目に觸れる所の言説に曰く日本人は偉い。曰く戦争にかけては、世界第一だ。曰く度胸が据つてゐる。曰く敏捷だ。曰く禮儀正しい。曰く愛國心が強い。曰く親切だ。曰く正義觀念が多い。曰く清潔だ。曰く忠義心に富んでゐる。曰く友愛心も厚い。凡そ天地間優秀の性質は、大和民族が、悉く之を備具してゐるやうな言を述べてゐる。古昔藤田東湖は「天地正大の氣、粹然として神州に鍾る」と詩つたが、今人の自負心は、東湖に優りはするとも、劣りはしない。其管でもあらう。東湖時代には、小蒸氣船が、數艘、米國から來ても、全國震駭するほどの弱小國であつたが、今日は世界五大強國の一つとなつてゐる。

(一) 近き過去の回顧

明治の初年以來、私が親しく自ら經驗した所を回顧するに

- (1) 其ころの知識階級と云へば、大體漢學者であつて、本居派や平田流の和學者と、横文學者は、極めて少數であつた。而して漢學者は、凡て支那を崇拜し、到底企及し能はざるもの如く考へてゐた。

- (2) 支那公使が、東京に駐在する事になつてからは、我が知識階級が、毎年開催する文酒徵遂の盟主は、支那公使及び其館員であつた。

- (3) 西洋の文明も、上海廣東等を経て、輸入されたものが多かつた。私が始めて讀んだ世界地誌や、國際公法、其他歐米關係の書は、みな漢譯のものであつた。

- (4) 明治の初年に發布された新律綱領、改定律令など題せる我が法律は、（明治以前の法律）を參酌して制定したものだ。

- (5) 現行の内閣、及各省の制度も、公侯伯子男の爵名も、支那式に基づけるものが多い。

- (6) 其後丁如松が、日本を威嚇するため、戰艦を率ゐて來朝した時の如きは、隨分暴慢無禮の振舞を爲したが、我が朝野官民は、之を叱責する勇氣がなく、益々支那を増長せしめた。

- (7) 私が上海に遊んだ頃、日本人を顧主とする某商人は、私に言つた「お國の人は、此所に來ると、皆な出世する。二度目に來る時は、其地位が二段も三段も高くなつてゐる。貴下も必ず出世する」と。然り、當時は、歐米が第一の知識仕入場所、支那が第二の知識仕入場所であつた

のだ。

こんな事實は、數限りもなくあるが、要するに明治二十七八年の戦役までは、我國は、萬事に付け、支那の下風に立つてゐた。文化的には勿論の事、軍事的にも、衆寡大小の然らしむる所、容易に匹敵する能はざるものと考へてゐた。日清戦役に於て、見事大勝利を得た後でも、漢學の素養ある我が同胞中には、「如何してあの聖人の國が、こんなに衰退したか」を怪しむものが多かつた。

(8) 支那に對してすら、凡そ右の通りであつたから、歐米諸國に對しては、尙更謙讓と云はんより、寧ろ卑屈であつた。他の有色人種と共に、日本人も亦白色人種には到底企及し能はないことと諦めてゐたものが多かつた。

(9) 偶々學藝其他の點に於て、歐米人を凌駕するものがあれば、當人は勿論の事、世間全體が、之を以て無上の光榮と心得てゐた。

(10) 當時は支那人が、萬事に付け、國風を固執するに反して、日本人は盛んに歐米風に同化することを勉めた。

(11) 是に於て、日本人は謙讓にして、且つ歐米の文明に同化し易いと云ふ評判が高くなり、支那人の不人氣なるに引換へ、日本人は到る所好評を博した。

(12) 歐米諸國中には、支那をば眠れる獅子と視て、多少之を恐怖するものがあつたが、日本をば人形の如く、只愛すべきものと視て居つた。

こんな事を書いて、明治以後に生れたものは、殆んど之を信じ得ないだらうが、右は私が目撃耳聞した所の實際の事實である。既往は此の如し。現在は如何

(一) 現在の事實靜觀

(1) 支那に師事し、之を畏敬するが如きは、思ひも寄らず、之と同視されたら、小學一年生と雖も、憤然として色を起すだらう。

(2) 亞細亞の振興を目的とする某大集會の趣意書に、支那を指導して云々とあるを不穩當とし、私は其修正を發議した所、發起人は憤然として之に反對し、支那や印度を指導して、文明の域に登らせるのが、本會の精神だと大聲疾呼した。其人が、知名の漢學者であつただけに、私は既往を回顧して、一層の感興を覺えた。

(3) 大和魂は、世界第一、天下無比の魂だと信じてゐるものが多い。

(4) 往年の謙遜にして禮儀正しかりしに引換へ、現在では自負傲慢、動もすれば他國を蔑視する

ものが多くなつた。

(5) 他に同化する事の代りに、日本流を固執し、恰も往年支那人が、取つたと同様の態度を取るやうになつた。其結果は、往年は支那人を排斥して、日本人を歓迎した米國の如きも、今日は寧ろ日本人に反感を抱き、支那人に同情するやうになつた。

(6) 而して、これは、獨り米國のみに限つた事柄ではなく、歐米列國どこを見ても、其傾向がある。其證據は、近來は滿洲事件に關する國際聯盟の會議に於て數々現はれた。

(7) かくて、日本は世界列國と離れて、孤立無援の位地に陥る憂がある。否な、既に其位地に陥つてゐるのだが、國人は毫も之を憂慮せず、却つて益々孤立獨往の方針を取つてゐる。

(8) 而して曰く「アジアに還れ」曰く「モンロウ主義を執持して、アジアの盟主となれ」と。アジアに還つても、支那は敵、印度も好感を有せず、其他は見る影もない半死の小國。日本だけが、盟主とならうとしても、今日の如きやり方では、盟主に載いてくれさうな國はない。

(9) 過去と現在の對照、國民性の發現
 虚心平氣に前記の過去と現在を對照すれば、茲に分明に我が國民性的一端を認識する事が出来る。

屈し易く、又傲り易い。

形勢非なれば、卑屈に陥り、形勢是なれば傲慢に流れる。

何れの國民と雖も、多少此習癖のないものはなからうが、我が同胞は、比較的少量に、之を持つてゐる。現在の我が同胞は、明治年間の成功に逆上して、全く成金の氣分に墮はれてゐる。如何に最眞目に見ても、全く元の身分を忘れた成上り物の態度がある。

敗れて屈せず、勝つて傲らざるは、偉大な國民の性格であるが、不幸にして我が同胞は、勝つて大いに傲つた。敗れたら、大いに屈しはしまし乎。日清戦争までは、あれほど尊敬した支那人を、現在の如く輕蔑する我が同胞の性格は、残念ながら、偉大な性格ではない。此性格は、外交上に於ても、又個人に於ても、國家の大害を生ずる。世界何れの所に實驗しても、留學生は常に兩國親交の楔子となるが、獨り日本に留學した支那人に限つて、多くは排日家となつた。同じ支那人で歐米に留學したものは、大抵留學國の同情者となるのに、獨り日本に留學したものだけが、排日家となるのは何故だらう。それには、幾多の原因もあらうが、我が國民性の缺陷は、槪かに其一大原因に相違ない。歐米人は、他國より來る所の留學生に對しては、學校も社會も下宿屋までも、一般に親切であるが、我が國人は、不親切だ。歐米人に對しても、特別に物を高く賣つた

りなどして、餘り親切ではないが、支那人に對しては、特に不親切だ。下宿屋の下女までが、動もすれば之を侮蔑する。故に近來支那人の日本に來るものは、概して惡感を土産にして歸るやうだ。

其上に、日本古昔の文物は、支那を模倣して、而も拙、且つ小なるものが多い。其本家本元たる支那から來て見れば、輕侮の念が浮ぶのも無理はない。まだ其上に、學校に於て學ぶ所は、歐米の翻譯物であつて、日本特有のものではない。支那學生も、餘り感心しないのも、無理はなからう。まだ其上に、支那人中には、其頭腦の、日本人より優れてゐるものが少なくない。かたがた以て、不感服の情念が正に胸中に鬱勃たるに方り、下宿屋の下女までが、彼等を侮蔑する。彼等が排日的感情を齎らして、歸國するものも無理はあるまい。此國民性の缺陷は、獨り支那に對して、惡果を結ぶばかりではなく、世界何れの所に向つても、眞誠の同情、眞誠の尊敬を博することは出来ない。世間多少の成金者流が、元の身分を忘れて、跋扈増長するがため、世人に嫌惡せられる所以も、亦此所にあるのだ。大和民族にして、苟も前途大いに發展せんと欲せば、必ず先づ右の成金的性格を及除改善しなければならぬ。

(四) 明治年間の成功の原因

よきを採り惡しきを捨て、外國に

劣らぬ國となすよしもがな

これは、明治の功業を建て、日本帝國を前古無双の隆昌に進め給へる明治大帝陛下の御製であるが、何等の御謙徳!! 何等の御抱負!! 大和民族たるものは、此御謙徳と此御抱負を奉戴して、其性格を涵養すべきである。他山の石、以て玉を磨くべし。石ですら、玉を磨く役に立つ。況んや他山の玉に於てをや。諸外國にも、幾多の善所長所がある。それを採用して、我が短所缺點を補ひ、何とかして日本を諸外國に劣らぬ國としたい。謙讓中に、大抱負を寓す。實以て有り難く、又奥ゆかしき御思召である。

現在人の如く自負驕慢、以て「外國學ぶに足らず」「國風はみな善、改むべきものなし」とは仰せられない。「外國に劣らぬ國に爲したい」とは仰せられたが、現代人の如く、「列國を凌駕すべし」とは傲語し給はない。僅かに五大強國の一に加はつただけで、得意満面、恰も既に世界第一の國家にでもなり濟したるが如く振舞ふ所の現代人は、日夕此御製を三復して、其驕慢心を抑制すべきである。

現代人は、頻りに自國の強大を誇負するが、如何にも人口と兵力だけでは、大國の列に加はる

ことも出来るが、産業貿易等の點に於ては、まだなか／＼大國の仲間入りは出来ない。我國人が、小國として輕蔑する白耳義、荷蘭陀などと伯仲の間に在るのだ。況や他の文化事業に於てをや。

神武建國以來、我が日本は、明治年間ほど、内外各方面に向つて、發展した事はないが、其發展の最大原因は明治大帝が、右に掲げた御製の御精神を以て、舉國官民を指導し給へるに在る。又舉國官民が能く聖旨を奉戴し、自國の短所缺點を認識し、他國の長所優點を採つて、之を補填し、日夜汲々として他の先進國に追及せんと努力したのに在るのだ。更に言ひ換へれば、謙遜中に、抱負を寓し、二者相俟つて、始めて明治の功業を奏し得たのである。決して現代人の如く、自負驕慢の心を以て、此成功を贏ち得たのではない。明治以後、日本が各方面に於て衰退の色を示したのは、明治年代の成功に満足逆上して、驕慢に流れ、抱負を失へるに因る。偶々大抱負に類似した言行を爲すものもあるも、それは逆上自負の結果、誇大妄想狂の病に罹つた爲めであつて、眞誠の抱負ではない。故に其實行に着手すれば、西伯里亞出兵の如く、又兩度の山東出兵の如く、又今同の滿洲事件の如く、必ず失敗に終るのである。大抱負は、謙徳を待つて、初めて成功し得べきものである事を忘れてはならぬ。

④ 賣家と唐様で書く三代目

大帝を輔佐し奉りて、明治の大業を成就した功臣は、大抵既に他界して、今は孫の時代となつてゐる。全國大多數の家も、さうであらう。則ち明治中興以後、現在は國民的に三代目となつてゐるのだ。二代目は、初代の事業に参加し、創業の苦心を知つてゐるから、特別の不能者に非ざる限りは、乃父の事業を守ることが、出来るが、三代目となると、只其身の富貴なるを知つてゐるだけで、此に至るまでの慘憺たる苦心を知らない。故に優れた人物に非ざる限りは、驕慢に流れ、父祖の遺業を失墜し易い。是れ賣家と、唐様で書くの止むなきに至る所以である。現代人が、明治初頭の日本は、獨立國の權利すら持たなかつた事實を忘れず、又現在五大強國の一に列しても、それは兵力だけの事で、他の點に於ては、尙ほ大いに遜色あることを忘れないならば、驕慢に流れて、父祖の遺業を失墜する患はない。其上、大帝御製の御趣意を奉躰して、國家の百般の事業に於て、世界一流の邦國に劣らざらんと熱望する大抱負を懷くなら、逆上驕慢以て自己満足に陶醉する事の代りに、日夜精勵して、其抱負を實現すべき道を求むるであらう。苟も此の如くなれば、嘗に明治の偉業を失墜する患がないのみならず、必ず明治以上の日本帝國を建造することを得べし。

ビスマークが建設した獨逸帝國は、三代目に滅亡し、カヴールが統一した伊太利も、三代目で

瀕死の窮態に陥つた。偶々ムッソリニが出て、一時之を救つたが、將來どうなるか、未だ判明ない。家でも國でも、三代目は創業に次ぐ所の最も大切な時代であるが、我が日本も常例に違はず、政治的にも、經濟的にも、思想的にも、將た又軍事的にも、外交的にも、非常な窮地に陥つてゐる。然るに全國大多數の官民は、舊に救済の道を求めざるのみならず、却てお祭り氣分で、死地に陥るべき道を突進しつゝある。

大破綻は、遠からず財政經濟の方面より現はれて來さうだが、それでも尙ほ豁然悔悟しなければ、川柳氏の警句の如く、我國も賣家と唐様で書かなければならないやうになるかも知れない。どうかして、さうならないやうにしたのが、世に背き時に戻つて、此文を草する所以である。「吾れ豈に辯を好まんや、蓋し止むを得ざればなり。」

世界聯邦の建設

今や國際聯盟は、死活の間に彷徨してゐる。大いに之を改造して、現在とは比べものにならないほど有效な組織となすに非ざれば、或は漸次衰弱して、遂に死滅するかも知れない。進まず、

退かず、現在の状態に於て、其生命を全うすることは、困難なやうに見える。

國際聯盟を改造して、大いに其效能を發揮させるためには、少なくとも、

第一に或る制限の下に、之に與ふるに、世界的政府の權力を以てし、

第二には、國際裁判所を設定して、之に附屬せしめ、

第三には、國際警察を設けて、判決の執行力を與へなければならぬ。其細目を擧げれば、數限りもないが、大體右の三件が、備具すれば、國際聯盟は、獨逸聯邦、又は北米合衆國と、稍々類似した形體を以て、世界聯邦に進化する事が出来る。

世界列國が、不戰條約に調印した精神を擴充すれば、右の進化は、決して不可能な事柄ではない。只國際的斬取強盜主義の餘燼、尙ほ未だ消え切らざる今日に於ては、到底出来ない相談のやうにも見えるだらうが、餘り早く見切りを付けすぎでは宜しくない。一概にさう諦めれば、不戰條約でも、最初は出来ない相談のやうに見えたが、實際は、既に嚴然として成立して、有効に働いてゐる。故に右の實行は、無論の事、非常な困難事ではあるが、決して出来ない相談ではない。いや、是非共實行するやうに努力しなければならぬ。

(一) 他に良法があるなら

全世界の人類は、文明の進歩と共に、益々増加し、且つ安全幸福を要求する熱心も、古昔に比すれば、非常に増加する。彼の酋長政治、封建制度、國家組織等は此要求を満足させるための必要に依つて起り、且つ進化したのである。然るに、一方に於ては、破壊と鑿殺の道具が、豫想外に進歩し、他方に於ては、世界が非常に縮小し、且つ經濟が世界共通になつたため、從來通りの國家組織と軍備とでは、文明國に於ては、其人民の安全幸福を維持する事が不可能になつた。迂濶に戰爭などをすると、勝つても敗けても、國家の滅亡を來たすべき形勢となつた。古人、否、今人でも、近年までは夢にだも想像しなかつた新奇の形勢が現出した。此新形勢の下に於て人類の安全幸福を維持するには、從來慣用の手段方法以外に、何か新工夫を施さなければならなくなつて來た。

さて、其新工夫は何であらう？

戰爭が、古昔と違つて、非常な危険物となつた以上は、平和に依つて、安全幸福を求めなければならぬ。従前と雖も、戰爭は、平和を求むる手段に過ぎなかつたが、今日は此手段が、餘り進歩しすぎて、之を用ひれば、國家は滅亡するやうになつた。そこで、人類の安全幸福を維持するためには、絶對的に平和主義に依らなければならず、平和主義を實行するためには、國際聯盟や、

國際裁判が、必要缺くべからざるものと認定される事になつたのだ。

此外に、もつと有效な方法があるなら、必ずしも之を固執するには及ばないが、今日までの研究では、まだ是れ以上の工夫は、出來てゐない。外に方法がなければ、否、應なしに、國際聯盟と仲裁々判を改造して、平和主義實行の有效機關と爲すより外に、將來は、人類の安全幸福を維持する道が、ないわけになる。

(一) 國際聯盟改造の方法

如何なる順序方法に由つて、國際聯盟を改造すべきかと云ふ問題に就ては、門外漢たる私には、成案がない。多年聯盟の役員となつて働いてゐる人々は、必ず幾多の成案を持つてゐるだらう。最初北米合衆國を構成した所の十三州は、各々ステート則ち獨立的國家であつたのだ。現在の四十八州中には、テリトリーとして、中央政府の支配を受け來つたものが多いから、最初の十三州とは、少し趣きを異にするが、尙ほ各々國家の資格を備へ、獨立の行政、立法、司法の三權を持つてゐる。此四十八個の半獨立國を聯合して、構成してゐるのが、現在北アメリカ合衆國である。南米諸國の戰亂つゞきなると正反對に、北米大陸は平和の惠光に浴してゐる。同じ白色人種の國でありながら、南北兩米洲の間に、此の如く治亂盛衰の差違懸隔を生じたのは、種々の原因があ

るには相違ないが、其中の最も重大なものは、政治組織である。北米の殖民は、聯合して、一個の聯邦を造つたのに、南米の殖民は、個々別々の國家を造つた。北米でも、聯合せずして、最初より十以上の獨立國を建て、現在それが二三十の獨立國に増加してゐたなら、南米諸國ほどではなくとも、其對峙軋轢は、稍々歐洲列國に類似する形勢を現出したであらう。然るに奴隸問題に關して、一たび内亂を起した外は、戰亂なしに繁昌してゐるのは、最初の建國者が、聯邦組織を斷行したからである。もし世界聯邦が、成立すれば、世界は、早晚北米聯邦を擴大したやうなものになるだらう。又ビスマルク時代に、幾多の獨立國と、自由都市を聯合して、獨逸帝國を建造し、現在は、共和國となつても、尙ほ従前の規模を保存してゐる。

右の二例は、國際聯盟改造の手法とし、參考物として好からう。此二例を參酌して講究すれば、列國の體面を傷つけずして、世界聯邦を建設する工夫は立つだらう。今日では、まだ武器の進歩より起れる戰爭不可能の事實を認識しないものが、多いから、世界聯邦の反對者も亦従つて多からう。又自分達の國家の上には、神より外に、何物もないのを誇りとして成長し來つた所の人々が、感情的に、聯邦政府樹立に反對するのは、無理からぬ次第だ。然し此等の連中も、自分達が代るべく世界聯邦の盟主となり、又聯邦政府の中心人物となるのである事を承知したら、強ひて

反對する必要もなからう。兎に角、此道に由るに非ざれば、人類の安全幸福を維持する事は、絶対に不可能な次第が、明瞭にさへされれば、世界聯邦の反對者は、漸次減少するに相違ない。蓋し安全幸福ほど、多數の人類に取つて必要なものはないからである。

米露二國は、國際聯盟の外に立つてはゐるが軍縮其他の大切な問題ある毎に、直接又は間接に參加する。世間に幾多の非難があるにも拘はらず、國際聯盟が、平和維持上必要な役目を務めてゐる事は、右の事實に依つても、其一端を證明することが出來よう。又佛國政府は、今年、國際聯盟附屬の軍備設置説を提出した。今日では、只一種の空論と見るものが多いが、先きにブリアンが提唱した歐洲聯邦説と併觀すれば、亦以て風潮の趨向を察知するに足るであらう。

右等の言動は、凡て安全幸福を求むる人類自然の要求に逼促されて起つて來た現象に過ぎない。本人等は、自分では、さうとは氣が付かないかも知れないが、彼等は時勢の傀儡となつて舞踊してゐるのである。

目 國際的良心の進化

文化の進歩に従つて、人類の良心は、次第に進化する。臺灣の生蕃は、現在でも尙ほ人殺しを惡事と思はず、首狩りに成功すれば、其良心は、之を稱揚して、「もつと殺せ」と勸誘する。文

化が、歐米の程度まで進歩しても、世人の良心は、個人的若しくは部落的首狩りをば非認するが、國家的首狩り、則ち國際戰爭をば非認しない。いや、生蕃が、部落的首狩りを名譽と考へる以上の、名譽事業と考へてゐる。世界到る所に、戰勝記念碑、則ち「國際的首狩成功碑」を建設してゐるのは、何よりの證據であらう。首狩りが、罪惡であるなら、個人的や部落的に、小規模に、實行しても、又は團體的や國家的に、大規模に、實行しても、それが人間の罪惡であると云ふ道理に至つては、全然同一な筈だ。然し。そこが人間の悲しさで、事の小さなものに就いては、道理を解するが、其大きなものに至つては、之を知ることが出来ない。小丘に登るものは、明白に丘狀を看取し得るが、大山に登るものは、山形を看取し得ないのと、同様な理合ひであらう。最近に至つて、始めて國家的首狩りも、亦罪惡なることを悟り得るものが生じ、其結果として、締結されたのが、不戰條約である。これは吾等同胞が、臺灣生蕃の首狩運動を禁止しようと盡力してゐるのと、事に大小の差異こそあれ、其精神は、全く同一だ。

文化が此所まで進歩しても、世には、まだ「善惡に關はず國家のため」と呼號して、得意揚々たるものがある。如何に國家のためとは云ひながら、正邪善惡を問はないのは、餘り亂暴であるまい乎。畢竟其人の良心が尙ほ幼稚薄弱であるばかりでなく、其誠慮も亦淺薄で、此の如き

愛國心は、却て國家の大害を醸成することを知らないために起る所の言行だ。

いかさま天下、尙ほ蒙昧にして、列國の正義觀念が、極めて幼稚であつた頃は、世間が、みな正邪曲直を問はなかつたから、否、知らなかつたから——右の如き愛國心も、國家の利益となり得たのである。然るに世の文化が、既に戰爭を非認する處々に進歩した今日の時勢となつては、茲に國家のためには、正邪を問はない所の民族があれば、他の良心ある國民は、擧つて之に反抗する。従つて折角の愛國心も、國家の損害をば招くが、利益を生ずる氣遣はない。先般の大戰爭に際し、獨逸が、白耳義の中立を侵したため、全世界の反抗を招き、以て大敗北を取つたのは其一例である。時勢の變化も亦大なりと云ふべきだ。眞誠の愛國者は、常に大勢の推移に注意し、之に適應すべき手段方法を選択しなければならぬ。

(四) 正邪善惡と事物の大小

然し、文化未開の悲しさには、それがまだ理解らない人が、世界何れの所にも可なり多い。此等の人々は、多くは正邪善惡を問はず、奪掠手段に依つて、建設した國家を以て、神聖不可侵のものとして認定する。かくては到底世界邦聯を建設して、人類の安全幸福を保證する事は不可能であるのみならず、國際聯盟の現状すら維持し難いことになるかも知れない。さて、さうなつた時、

世界人類の前途は如何？ 破壊力鑿殺力の、非常に進歩した武器を以て、第二の世界戦争に到着するより外に、辿るべき道はないやうだ。而して、それは十中八九まで、文明の破壊となり、國家の破滅となりさうだ。虚心平氣に冥想すれば、大概の人は此結論に到着するらしい。かくて、何れの方面より觀察しても、目下の最大要務は、國際的良心の進化を促すことに歸着する。

第一に、人殺しや首狩りは、其規模の大小に關はらず、罪惡なることを知つて、人間の良心が、之に反對するやうになれば、戦争以外の手段方法に依つて、國際問題の解決を要求する事になる。

第二に、騙取掠奪は、個人が爲しても、國家が行つても、同じく罪惡なることを知つて、人間の良心が、之に反對するに至れば、何れの國家も、其領土權を固執せず、領土の保管者管理者を以て、満足する事になる。

さうさへなれば、四海同胞、萬國一家、世界聯邦を組織して、全人類の安全幸福を維持する事は、決して不可能の業ではない。それが出来ない相談の如く見えるのは、人間の良心が、まだ褻弱にして、大規模の殺人掠奪を是認するために過ぎない。

現在は、世界列國みな爲めにする所あつて、學校に於ても、社會に於ても、大規模の殺人強奪は尊重すべき功業であるかの如く教へてゐる。耶蘇教の高僧までも殺人強奪の手傳を致してゐる。

故に小學兒童でも分明に諒解し得べき簡單明瞭なる正邪善惡の區別が識者にすら未だ諒解せられないのだ。過去に於ては、之を諒解せしめない方が、局部的に人類の安全幸福を維持するために便利であつた、故に列國共に期せずして、同一方針を執つたが、文化が、既に今日の程度にまで進んでは、舊來の方法では、其目的を達することが出来なくなつた。のみならず、根本的に、之を變改しなければ、國家の存立すら危くなつて來た。而して同じ掠奪殺人でも、小規模のものは、罪惡だが、大規模のものは、無上の善事であると教へるのは、元來が處偽だから、頗る困難だが、規模の大小に拘はらず掠奪殺人は、悉く罪惡なる事を教へるのは、眞事實情だから、比べものにはならないほど、容易な筈だ。苟も其道を以てすれば、全世界を風靡し、國際的良心を向上進歩せしむる事は、意外に迅速だらうかと思はれる。

それさへ出来れば、世界聯邦の建設は、申すに及ばず、現在全人類を苦惱せしめつゝある所の經濟財政の困難の如きも、之を一掃するのはさまで困難むづかしいい事ではあるまい。

(四) 國際正義促進運動

どんな善い條約を結んでも、又世界聯邦、國際裁判所の如き善い機關を設けても、人類の良心が、尙ほ薄弱では、右等の事物は、畢竟畫餅同様、實際の役には立たない。故に何事に付けても、

先以て人類の良心を涵養し、國際的正義觀念を促進せしめなければならぬ。殺人強奪も國家のためになれば、罪惡ではないと考へるが如き穢弱な良心の所有者が多數では、再び暗黒世界に逆轉するより外はない。然るに、前にも度々繰返して述べて置いた通り、文化の進運は、盛んに國際的良心の開發を促し、既に被征伏國を獨立せしめ、民族自決を實行し、仲裁々判所や、國際聯盟や、不戰條約等の實施を見るに至つた。日本が此風潮に乗じて、國際正義促進の急先鋒となるなら、比年ならずして、世界の形勢を一變する事が、出來ようと思ふ。

日本が、斷然意を決して單獨的に軍備を半減すれば、それだけでも全世界に一大反響を與へる事が出来るが、其上、之がために年々節約し得る經費の約一割則ち約二千萬圓づつ割いて國際正義養成のために費せば、其效能の偉太なる恐らく戰備のために毎年四五億圓を費すに百倍するであらう。

滿洲に、此上四五億圓の資金を費しても、世界の反感を買ひ、我が經濟界の不況を増大するに過ぎまいが、右の目的のために、毎年二千萬圓づつ使用すれば、恩恵を全世界に及ぼし、我が帝國をして、世界聯邦の盟主たらしめる事も出來よう。又移住制限關稅障壁等を撤廢して、全世界を大和民族及び我國製造品の爲に開放せしめる事も出來よう。

- (1) 國際正義養成のため、國際學校を設立し、又補助する事。
- (2) 傑出したる青少年に、獎學資金を給與して、國際正義宣教師を養成する事。
- (3) 數萬乃至數十萬圓の賞を懸けて、國際正義關係の論文を募集する事。
- (4) 毎年一回づつ、全世界の學者、宗教家、思想家、其他の同志者を會同して、國際正義大會を開く事。

(5) 新聞、雜誌、著書等を發刊し、又は同主義のものを補助する事。

(6) 各種の國際會議には、凡て有力者を派遣し、主義宣傳の方法を施す事。

(7) 國際的市民、則ち世界浪人保護の道を立て、且つ之を獎勵する事。(此趣意は他の所にて詳説すべし)

其道の専攻家に研究させたなら、資金さへ出せば、此外に尙ほ有效な方法は、幾くともあらう。而して國家的首狩りや、強盜を是認するが如き亂世の迷信を打破して、天理人道に契合する所の正義觀念を擴布すれば、全世界の人類は、やがて現在の危險状態を超越して、其安全幸福を全うする事が出来るやうになる。我が日本にして、苟も此方針を取れば、他の文明國は、早晚我に追從して來るに相違ない。従つて國際正義確立の時期は、豫想外に早く到來するであらう。而して

之が先達となつて、恩恵を全世界に與へた所の我が日本國は、勢ひ推されて世界聯邦の盟主とならざるを得ないやうになるかも知れない。

私は、功利的見地より、此説を唱へるのではないこと、勿論だが、日本に功利的觀念がなければ、列國の信用は、愈々深厚に赴くは、人情の常であるから、日本は、如何に謙退しても、實際は世界聯邦盟主の位に就かざるを得ない事になるかも知れない。謙は益を受け、滿は損を招く、そんな場合には、成るべく名利を避ける事が、必要だが、さればとて、それがため國際正義養成の大事業を止めてはならない。

國家及び世界經濟の革新

大戰爭以來、全世界を苦しめてゐる所の經濟的大困難に就ては、列國皆其智能を傾倒して、之を救治せんと努力してゐるが、幾年經過しても、其效能が見えない。何故だらう？ 病氣の診斷を誤つてゐるためではあるまい乎。診斷に誤謬があれば、處方も亦従つて過らざるを得ない。頭痛に對して、脚氣の手當をしては、看護服藥等が、如何に行届いても、全快しよう筈がない。

(一) 病狀の再検査

そこで、世界列國が、所謂景氣回復策として施爲する所を見るに、曰く國產獎勵。曰く輸入防遏。曰く經費節減。曰く失業者救護。曰く爲替管理。曰く生産制限。曰く移住制限。曰く關稅障壁。隨分種々雑多の事をやつてゐる。然るに一つとして有效なものはなく、列國共に失業者は益益増加し、景氣は愈々悪くなるばかりである。畢竟病狀反對の手當をしてゐるためではなからう乎。

右等の事項は、何れも大戰爭の時の舊世界に施し來つた陳套手段に過ぎないが、今日の經濟的病狀は、舊世界のものとは、全く其性質を異にしてゐる。従つて其手當の仕方、全然異なつたものでなければなるまい。今其一端を擧げれば、

第一に、舊世界の經濟は、局部組織であつたが、近來は、世界共通となつた。此時に方つて、自給自足を原則とする諸般の施設を爲せば、病氣は、愈々重症に赴かざるを得ない。

第二に、科學の進歩は、あらゆる方面に於て、大いに生産分量を増加し、窮乏世界を一變して、過剩世界を現出した。此時に方つて、尙ほ物資の不足を原則として、考案した所の施設を、踏襲すれば、病氣の快癒しよう筈がない。

第三に、科學の進歩に依つて、既に大いに變化しかけてゐた所の生産機關は、古今無双の大戦

争に關れて、俄然其面目を一新した。然るに列國の政治家經濟家は、今尙ほ舊態依然たる頭腦を以て、封建割據時代の排他政策を施してゐる。景氣の回復しないのも、無理はなからう。

第四に、大戦争のため、約二千萬の死傷者を生じ、又三千億圓の富力を滅失した。之がため、購買力の減少したことは、實に非常なものだ。死傷者が、毎年平均五百圓づつ購買したと假定すれば、二千萬人で、一百億圓となる。又富力の平均三分を購買するものと假定すれば、一年に九十億圓、二口合せて毎年一百九十億圓の購買力減少となり、我が輸出入貿易總額の四倍以上に當る。一方に於ては、大戦争のため、此の如く消費力の減少を來すと同時に、他方に於ては、驚くべき生産力の増加を來した。さなきだに、科學の進歩に依つて、有り餘るやうになり來つた所の物資は、愈々益々過剰に起き、其販路に苦しまざるを得ない。然るに、世界列國は、關稅障壁及び其他の方法を以て、盛んに物資の移動則ち賣買を妨礙してゐる。

第五に、世界が既に従前の數十乃至數百分の一以下に縮小して、經濟が共通になつた以上は、列國々民は、各々其長所を發揮して、特有産物を獎勵し、以て互に有無交換の便益を圖らなければならぬ筈だ。然るに、彼等は、各々自給自足の戰時經濟法を施し、其風土と國民性にと不適當な物品までも生産すべく盡力してゐる。父子兄弟の如く提携扶助しなければならぬ筈の列國

が、仇敵の如く互に背馳顛倒してゐる。

僅かに其一端を擧げて、病狀と手當が、正反對になつてゐること、凡そ此通りである。これでは、經濟的病患が、治療されよう筈がないではない乎。

(二) 對症の治療法

然らば「どうしたら善いのか」と問はれると、答辯には、誰れでも困るが、試みに少しばかり愚案を述べて見よう！ これまで段々説いて來た所に、大きな誤謬がなければ、現在の經濟的困難は、其組織が、文化の進歩に順應してゐない事に原因する。文化の進歩は、既に四海同胞萬國一家となるべき程度にまで進んでゐるのに、經濟組織は、尙ほ排他的我利々々主義に立脚してゐる。而して其治療法は、對内的と對外的との二つに分れる。

對内的治療法 階級主義は、文化の進歩に従つて、大いに改善減少したが、經濟組織は、今に尙人類の不對等を原則としてゐる。富豪階級と貧賤階級、資本家と労働者、大地主と小作人等の境遇は、同じ人間とは、思はれないほど相違してゐる。それが、個人々々の智徳才學其他の力量に由つて生ずる相違であるなら、不都合はないが、實際は、さうではなく、偶然の境遇、則ち理由も根據もなくして起る所の事相であるから、茲に不平不満が發生し、それが増大すれば、社會

的又は政治的革命の原因となる。治療を根本に加へずして、幾く「危険思想」を退治しようとしても、到底其目的を達する事は出来ない。歐洲列國中には、社會黨が、多數を得て、内閣を組織するもの少なくないのも、又共產主義者が、年を逐つて益々増加するのも、畢竟不合理無根據な經濟的階級制度のためである。古昔の物資不足時代とは違つて、今日は物資過剰の世の中である事は、何人も承知してゐるが、さて其實際を見れば、全世界を通じて、無慮一億以上の貧困者が、飢寒に號泣してゐる。特に文明國にそれが多い。それが物資不足のためなら、まだ我慢も出来ようが、衣服も飲食品もあり餘つてゐながら、此慘狀を呈するに至つては、實に不都合の至りである。荷も心あるものは、此不合理至極の世態を袖手傍觀してゐるわけには行かない。而して一億を養ゆる所の飢民、數億に及ぶ所の貧民に、適當の衣食住を與へる道が開ければ、それだけでも、物資の過剰と、購買力不足のために起れる失業者は、減少し、景氣は、多少回復するだらう。

物資不足の世の中に於てすら、飢民救助の道は、或る程度まで施されてゐた。物資過剰の今日に於て、それが出来ない筈はない。現在世界列國中には、衣食住の必需品を焼きすててゐる所がある。我が國でも、米穀が過剰だと言つて、之を買ひ上げ、倉庫に蓄藏して、蟲に食はせてゐる。何故それを飢寒に號泣するものに給與しないのであらう乎。別に何等の理由もない、現在の國家組織や、經濟機構が、文化の進運に後れてゐるからだ、云ひ換ふれば、物資不足時代の頭腦を以て、物資過剰の現在に處するからだ。論じて茲に到れば、對外的治療法を説く以前に、筆鋒を轉じて、國家組織の根本的改善を略述せざるを得ない。

(三) 國家組織の根本的改善

現在の國家は、人類が、尙ほ團體的争鬪を禮讚した時代の産物に相違ない。故に人類の良心が、既に戦争を非認し、好戰國民と云はれることを忌み嫌ふほどに進歩すれば、従前の國家觀念に對して、重大なる改良を加へ、以て其組織を改善しなければならぬ。優勝劣敗弱肉強食主義を排斥して、共助相援主義を採用しなければならぬ。階級制度は、其政治的なると、社會的なると、又經濟的なるとを問はず、總て之を撤廢しなければならぬ。彼の門戶開放機會均等主義は、國際關係に於ても、必要だが、國內的には、尙更ら必要だから、一日も早く之を實行しなければならぬ。全國人民を、總て同等の位地に立たしめ、智力體力のあらん限りを働かせ、而して其結果として、貧富貴賤が、生ずるなら、それは合理的事態であるから、何人も、之に對して不平を鳴らすべき根據がない。世の共產主義者は、人類の智力體力等の相違を無視して、之に同一待遇を與へんと

欲するものである。それは、不平等の土臺の上に、對等主義を建設せんと欲するものであつて、千萬年後はいざ知らず、現代に於ては、到底出来ない相談だ。露國が段々私有財産制度を復活するのを見て、之を證明することが出来よう。

絶對的共產主義は、實行不可能だが、均産主義は、或る程度まで實行し得べき可能性がある。道路、鐵道、河川、水力、土地、鐘山、郵便、電信、電話、銀行、保險等を國有とし、且つ貧富の懸隔を豫防すべき法制を設ければ、共產主義者と雖も、満足し得べき結果を生ずるだらう。否、現在では、共產主義實行以上の效能があるだらう。兎に角、現在のまゝでは、何れの國家も、満足に人民の安全幸福を維持する事は出来ないから、根本的大改良を施さなければならぬが、さて、それには、「如何にしたら好からう乎」と考へるに、一家を土臺として、研究するが最も好いと思ふ。

(1) 一家は一國改良の手本

文化は、元來小さなものより進んで、漸次に大きなものに及び、近きに開けて、遠きに及ぶべき性質を持つてゐる。故に家を治める道は、國を治める道よりも先きに開け、且つ千倍も萬倍も多く研究され、試験されてゐる。世に人間の造つたもので、家庭ほど、多く、久しく、實踐的研

究を積んだものはなからう。世界中の組織で、何が最も進歩してゐるかと言へば、家庭の右に出るものはない、其政治方法中の最優者を求むれば、家政の右に出るものはないやうだ。和合團體は、先づ家庭に始つて、一郷、一縣に及び、争鬪殺傷は、先づ家庭に止んで、遂に國內的戦争の廢止となつた。一家の内に住むものは、自分の衣食を減らしても、互に相救護するが、一國の内に住む人民は、幾百萬の飢寒者があつても、多くは平氣で之を看過する。一國人民相互の關係が、もし一家の父子兄弟相對すると同様になつたなら、其國には、飢寒者もなく、強窃盜人殺しも少く、萬民皆な其所を得て、殆んど地上の天國が現出するだらう。

文化の進歩には、家と國との間に、此の如き大懸隔がある。故に現在の國家を改良せんと欲するものは、遠く求め、深く研究する必要はない。近く模範を其家庭に取つて、參酌折衷すれば好いのだ。

不幸にして、一家擧つて餓死する場合は、格別とし、普通は、如何なる貧家と雖も、其子弟を餓死させはしない。國民も、家庭人同様の良心と情愛とさへ持つなら、其國人を餓死させない位の事は、出来るに極つてゐる。古人の所謂「能はざるに非ず、爲さざるなり」の類だ。何故爲さない乎。國民の良心は、尙ほ家人の良心より低劣であるからだ。言ひ換へれば、比較的大きな國

の文明は、小さな家の文明より卑いからだ。世の経済家も、政治家も、「科學進歩の結果、機械が、人間の仕事を奪ひ、失業者が、生じて困る」と云ふ。同一の事態が、一家の内に起り、従來父子兄弟五人がかりで、爲し來つた仕事、機械使用のため、一人で出来るやうになつたら、其家は、どうなるか。困るところではなく、四人の手があくから、大喜びだらう。此四人は、別に他の仕事を探して、収入を増加する事も、又は學藝美術等を研究して、其位地を向上進歩させる事も出来る。是れほど有り難い事はない。然るに、國家に取つては、それが迷惑の種子となるのは、畢竟國人相對する情愛が薄く、且つ經濟組織が悪く、國民中其利益を獨占し、文化進歩の惠澤を、他人に分たないものがあるからだ、國家は、宜しく家庭を模範として、國民の良心及び其經濟機構を改造すべきである。機械が、人間の仕事を取れば、賃銀を減らさずして、それだけ労働時間を減らし、人間をば、機械以上の精神的仕事に就かしめ、又は其準備を爲さしめるのが、國家經營者の責任である。家長は、必ずさうする。政治家も、亦家長を學ぶべきである。且つ機械の進歩も、大量生産も、現在の經營者だけの力で出來たのではなく、多年の研究、多數者の努力、則ち文化進歩の恩賜物である。従つて經營者だけに、其利益を獨占せしむべきものではない。一家に於て、先祖代代蓄積し來つた有形無形の利益があるなら、家長も相続人も、之を獨占せず

して、或る程度までは、必ず其子弟に分配する。國家も、亦さうしなければならない筈だ。家長は、其家に生れて來たものには、必ず家相當の衣食住を給與する。國家も亦其國に生れて來たものには、少なくとも最低限度の生活法をば與ふべきである。自分さへ富貴なれば、他人は餓死しても、差支ないかの如く考へるのは、團體的斬取強盜時代の餘習、尙ほ殘存し、國民的良心が、未だ家庭人の程度にまで發達しないからだ。

(2) 生産過剩乎消費減少乎

世の經濟家は、頻りに生産過剩を説いて、恰も科學の進歩を呪詛するが如き言行を爲すが、これは畢竟贅世の遺習に捕はれ、只だ企業家（其多數は資産ある上流階級）の利害のみを見て、一般公衆（其多數は無資産の下流階級）の利害を見ないためである。

文明の利器を使用するため、大いに人手を省き、又大いに生産量を増加し得たなら、取敢ず、

第一に、生産品の賣價を低下し、

第二に、労働時間を減少し、

第三に、賃銀を増加し、

第四に、失業者手當を醸出すべきである。

賣價を低下すれば、販路が廣まり、賃銀を増加し、失業者を救済すれば、消費力が増加する。生産力と消費力の權衡さへ取れば、生産量が如何に増加しても、剩過にはならず、従つて失業者も生じない。

然るに、現在では企業家は、三割乃至七割の配當を爲しながら、生産品の賣價をば低下せず、世間には、其物品を購求し得ずして、飢寒に號泣するものが、充滿してゐるにも拘はらず、生産額を制限して、賣價の低下を豫防する。賣價低下の豫防は、取りも直さず、消費力の制限である。企業者に取つても、それが利得にならう筈がない。よし一步を譲つて、利得になるとしても、一般公衆に取つては、非常な損害である。特殊の贅澤品は、格別だが、普通の生活必需品は、其過剩を説く前に、國家は、一般公衆をして普ねく之を使用せしむる方法を施さなければならぬ。茲に一人の家長があつて、家人には、飢寒を凌ぐだけの衣食も與へずにはゐながら、米麥絹棉の過剩を説き、其生産額を制限したら、世間は、之を何と云ふだらう!! 然るに一國の擔當者は、平氣で同様の事をさせてゐる。

全國人民に、悉く生活の必需品を得せしめ、且つ物品の價額を低下し、勞働時間を短縮し、賃銀を増加し、それでも、尙ほ國の内外に於て、販賣し盡せないなら、それこそ眞誠の生産過剩であるが、今日は、まだ何れの國家も、それらの施設を充分に爲してゐない。生産の必需品すら得る能はざる幾百萬乃至幾千萬の飢寒者を、其まゝに打棄て置きながら、生産過剩を説くのは、餘りと云へば、殘酷無情の至りである。畢竟國民的良心が、まだ幼弱な爲である。

(3) 最低限度の生活費保證

一家の内には、病人も、不具者も、懶惰者もあるが、家人は一致して、其生活を助けて行く。一國の内にも、種々雑多な不良分子もあらうが、生活の世話だけは、國民全體の義務として、爲てやらなければならぬ。かく、決心して、其方法を求むれば、随分色々な事が考へ得られる。差當りは、土地、鑛業、鐵道、水力、銀行等の如く、産業の基礎となるべき事物は、凡て之を國有と爲すか、又は政府の管理の下に置くかして、そこに多數の頭腦及び筋肉勞働者を使用し、之に相當の手當を與へて、生産力と消費力を養成すべきである。銀行を國有となし、經濟組織に根本的改革を施せば、現在の租税を全廢しても、國用を支へることも出来るさうだ。其次第は、田川大吉郎君と私とで、翻譯出版した銀行國有論に述べてある。

又現在國債利子として、毎年支拂つてゐる金額の約七割は、支拂ふ必要がなくなり、縦へ之を支拂つても、銀行國營後は、再び國庫に收得する道もあると云ふことだ。又英國の經濟家中には、

毎年全國民に、最低限度の生活費を給與し得べき方案を立ててゐるものもある。其他、類似の意見は、また外にも澤山あるやうだ。兎に爲其意志さへあれば、國家の力を以て、其人民全體を活かして行くことは、必ず出来るに相違ない。物資と人口との關係上、もしそれが出来ないとするれば、其國家は、人口過剰の病に罹つてゐるのだから、他の物資過剰の病氣に罹つてゐる國と、自由に通商貿易すれば、双方共に其病患を除く事が出来る。

之を要するに、現在の世界的病患は、凡て政治家經濟家等の頭腦が、科學の進歩に伴はないために起つたものである。他面から見れば、理性と迷信との衝突であるから、目下の最大急務は、此迷信を打破し、理性に基き、科學の現状を基礎として、各方面の制度や組織を改造するに在る。

(4) 懶惰者の豫防

金額の大小を問はず、不勞所得は、獲得者の品性を劣下せしめる。最低限度の生活費と雖も、不勞者に、之を給與すれば、其方法の如何に拘はらず、惰民養成の結果を生ぜん事を心配するものがある。現に英國にて、失業手当給與のため、勞働を厭ふものが、増加したとの説もある。一應尤もな心配ではあるが、人類は、いつまでもそのな劣な性情を持つべきものではない。家族には、何れも家庭相當の生活費を給與するが、家庭は、必ずしも惰民養成所となりはしない。一

國も、亦其通りであらねばならぬ。いや、其通りになるやうに、國民を教導しなければならぬ。文化が進歩し、人間の良心が、健全に發達すれば、寧ろ他人を助ける事をば好むとも、働かずして、他人に助けられる事は、之を嫌ふやうになる。現在でも、家庭人は、特別の不良人物に非ざる限りは、無爲にして、徒食する事を耻ぢてゐる。苟も國家が、教育を施す以上は、さういふ國民を作るべく努めなければならぬ。而してそれは餘り困難じやうしい事柄ではない。ロシアでは、革命以後盛んに新教育を施した爲め、頭腦勞働よりも、寧ろ筋肉勞働を好む少年が、既に澤山出來たと云ふ事だ。最低限度の生活を保證されるがため、無爲徒食の惰民となるものが増加するのは、全く教育其道を得ざるの致す所である。

世間には、生活費を得るの必要上、心ならずも、自分の嗜好以外の職業に就き、貴重の日月を空過するものが多い。此等の人々も、其生活が保證されれば、嫌ひな仕事に就かず、其好む所に従事して、天稟を全うする事が出来る。之がため當人は勿論の專、廣く社會を益すること實に豫想の外に出るものが、あらう。病人ならば、いざ知らず、健康體の人間に取つては、無爲に暮すほど肉體的にも、苦しい事はない。其良心が健全に發達すれば、更に精神的苦痛が伴ふから、一層苦しい。生活保證のため、惰民が増加すると思ふが如きは、全く無用の杞憂に過ぎない。古昔

は「詩を作るより、田を作れ」と云つたが、これは、文化未だ進まず、物資尙ほ缺乏した頃の云ひ草に過ぎない。物資過剰の今日に於ては、田を作るより、寧ろ詩を作つて、人間の精神的幸福を増加する方が好いのである。要するに、心身共に健全な人間を作り、教育に依つて、其知識と趣味とを増加すれば、情民の如きは、文化の進歩に従ひ、棄てて置いても、減少するに相違ない。

(例) 病状相應の手當

一家を手本として、一國を建て直せば、現在世界列國を惱ます所の病患は、其思想的たると、政治的たると、將た又經濟的たるとを問はず、其原因の國內に在るものは、大抵醫治せられようと思はれる。それでも、尙ほ全快しないなら、それは、其原因の國外に因るものに限るだらう。果して然りとすれば、其治療法は、之を國際的に求めなければならぬ。

前段に述べて置いた如く、國際聯盟を改造して、世界聯邦を建設すれば、國際的治療法は、求めずして、自然に施されるわけになる。特に其聯邦の各個が、一家を手本として、改造された國家であるならば、聯邦も、亦やがて一家の如く融和し、排他的私利心は、次第に消滅して、相互扶助共存共榮の世界となるに相違ない。さうさへなれば、其原因がなくなるから、病患は必ず全治する。急速には成就しまいが、さうするより外に、人類の安全幸福を維持すべき道がないから、

結局さうなるだらう。然らざれば、國家の破滅!! 文明の没落!!! 暗黒世界の再來!!!

一方に於ては、生産の過剰を訴へながら、國境閉鎖の方針を取り、人と物との移動を妨碍すべき各種の政策を施してゐる。世にこれほど辻褄の合はないやり方はないが、現在では、多寡大小の差こそあれ、世界列國悉く之を實行しつつある。かく觀察し來れば、國家内外の病源は、時代錯誤の四字に歸着する。而して章を重ね節を重ねて説き來れる所は、凡て此時代錯誤を改め、病源の芟除の效果を生ずべき道程である。吾等の同胞兄弟にして、苟も上述の理路と眞實を承認し、天下に率先して、之を實行すれば、内に於ては、日本を世界無双の樂土となし、外に對しては、大和民族をして智體兩力のあらん限り、全世界に發展せしむる事が出来る。

政治機關の改善

これまでは、大和民族の世界的發展に關するため、主として世界全體に關する問題を論じたが、是より聊か我が日本限りに適用すべき政治機關の事を説いて見よう。

(一) 英國式政黨政治の大失敗

私は、まだ丁年に達しない頃から、聊か歐米の政治様式の研究を始め、同じ立憲政治でも、英